

何府縣 第二十四号 車

國	區郡	總計	
		前年	比較
	荷車		
	家用馬車		
	人力車		

第二十五号 活字版類

國	區郡	總計	
		前年	比較
	家製造活字		
	家製造石版		
	家製造銅版		
	家製造鉛版		
	家製造木版		

何府縣

此表ハ上中下共其郡區ノ一ケ年平均賃銀ヲ掲クル者トス
但手辨當ノモノニ就テ算スヘシ
萬方トハ建築ノ定形ヲナスモノ即チ手傳職ヲ云フ
以下之ニ做フ

國	區郡	平均	
		前年	比較
	大工		
	石工		
	左官		
	萬方		
	木挽		

第二十六号ノ二 職工賃銀

國	區郡	平均	
		前年	比較
	家根		
	瓦葺		
	葺		
	壘		
	刺		
	建		
	具		
	經		
	師		

第二十六号ノ三 職工賃銀

國	區郡	平均	
		前年	比較
	指物		
	桶職		
	下駄職		
	和服仕立		
	織		
	女織		

此表ニ準シ左ノ職工ノ賃銀ヲ調査スヘシ
但女工アルモノハ其別ヲ設クヘシ

- 陶磁器職 ○ 瓦焼職 ○ 煉瓦焼職 ○ 紙産職 ○ 漆物職 ○ 鋸治職 ○ 鋸職 ○ 漆器職 ○ 時繪職 ○ 酒造職 ○ 醸造職 ○ 味噌醸造職 ○ 醤油醸造職 ○ 油絞職 ○ 印刷職 ○ 印版々木職 ○ 彫刻職 ○ 袋物職 ○ 縫紉職 ○ 足袋職 ○ 染物職 ○ 畑作職 ○ 林竹職 ○ 糸組職 ○ 傘張職 ○ 提灯張職 ○ 筆職 ○ 糊粘職 ○ 實利職 ○ 籠甲細工職 ○ 版摺職 ○ 靴製造職 ○ 給大工職 ○ 製本職 ○ 洋服仕立職 ○ 皮滑職 ○ 菓子製造職 ○ 車製造職 ○ 活版植字職 ○ 日雇人足

區郡	大工	石工	左官	寫方	木焼	家根	瓦葺	疊利	總計	
									比前	較年
									減	増

第二十七号ノ二 職工人員

區郡	建築	器具	經銷	指物	桶刷	下駄職	和服仁立	男	女	總計	
										比前	較年
										減	増

此表ニ准シ左ノ職工ノ人員ヲ調査スヘシ

但女工アルモノハ其別ヲ設クヘシ

陶磁器職○瓦燒職○煉瓦燒職○紙漉職○鑄物職○鍛冶職○鋸職○漆器職○蒔繪職
 ○酒造職○酢釀造職○味噌釀造職○醬油釀造職○油絞職○印板々木師○彫刻職○
 袋物職○縫箔職○足袋職○染物職○烟管張職○綿打職○糸組職○傘張職○提燈張
 職○筆職○櫛挽職○莨刻職○鼈甲細工職○版摺職○靴製造職○船大工職○製本職
 ○洋服仕立職○皮滑職○菓子製造職○車製造職○活版植字職

附錄第二十八号

工業景况書式

例言

此書式ハ假リニ織物業ニ因リ記載ノ文例ヲ示セシモノナリ固ヨリ百般ノ工業ナレハ其
 記載方モ百般ニ變ス可シト雖モ要スルニ文飾ヲ省キ可成簡明ニ記スヘシ

何府縣何郡何町(村)何業明治何年上(又ハ下)半期ノ景况

明治何年何月何日發

通信員 某

製造者ノ増減
 當何月(通信ヲ發スル月)製造者ノ總數ハ何百何十戸ニシテ之レヲ客歲全月ニ比ス
 ルニ何十戸ヲ増セリトカ減セリトカ而シテ此興業者ハ全町村内又ハ近傍々移
 住セシ農トカ商トカ又廢業者農ニ歸セシモノ多シトカ又ハ他所稼ニ出テシ
 モノ多シトカ

當何月(全上)職工ノ總數ハ何千何百人ニシテ之レヲ客歲全月ニ比スルニ何

○商工通信事項

職工ノ増減	百何十人ヲ増セリトカ減セリトカ而シテ其増セシハ傭主其業ヲ擴メ又ハ職工ノ賃銀ヲ増セシニ因ルトカ其減セシハ傭主其業ヲ縮メ職工ヲ解雇セシニ因ルトカ又ハ賃銀ヲ減セシ爲メ自カヲ雇フ解キ農ニ歸セシモノ多キニ因ルトカ
製造額ノ増減	當期中ノ製額ハ何百何十方反ニシテ客歲全期ニ比スルニ幾方反ヲ増セシトカ減セシトカ
價格ノ昂低	何月頃ヨリ漸ク活潑トナリトカ不人氣トナリトカ何月頃ニハ上物一反何圓位下物一反何十錢位ニ騰貴セシトカ下落セシトカ再來益騰貴セシトカ下落セシトカ目今ハ上物一反何圓位下物一反何十錢位トナリ客歲全月ニ比スルニ凡何割ノ騰貴トカ下落トカ
販路ノ伸縮	製品ハ從來重モニ其地方ニ取出セシカ尙何々地方ヘモ賣捌ケ漸次ニ賣額ヲ増セリトカ又ハ重モニ何地方ヘ販出セシモ近來世上一般ノ不景氣ニ連レシヤ賣額次第ニ減シタリトカ而シテ本期中ノ賣額客歲全月ニ比スルニ若干反ヲ増セリトカ減セリトカ
盛衰ノ原因	近來當所織物業ノ盛大ニ趣クノ勢ヲ呈セシハ機織家大ニ改良ヲ圖リ良果ヲ得テ世上ノ好評ヲ博セシニ因ルトカ又ハ近來衰微ノ兆ヲ呈セシハ何々ニ原由スルトカ

職工ノ弊害	當村ノ職工ハ概シテ不勉強ナリ且ツ常ニ飲酒ヲ好ミ之カ爲メ往々休業スルヲアリ雇主如何ニ心配スルモ之ヲ嚴シクスル片ハ一ノ職工ヲモ得カダキカ如キ有様ナリ故ニ有志者頻リニ此弊ヲ矯メント盡カスレモ未タ功ヲ奏スル能ハストカ
原料仕入ニ付テノ障害	原料ハ重モニ何地方ヨリ仕入レルナリ然ルニ其間運搬ノ便甚惡シク且ツ其商人ハ兎角違約ノ者多クシテ製造者爲メニ困却ヲ蒙ルル屢々アリ此等ノ弊ハ昔日ニ比スレハ大ヒニ減シタリト雖トモ尙製造者一般ノ常ニ憂フル所ナリトカ
販賣ノ障害	販賣ハ大概他方々來ル所ノ仲買ニ賣渡ス風ナリ然ルニ此仲買ナル者兎角不慥ノ者多ク製造者往々其奸策ニ踏リ損害ヲ招クヲアリ故ニ近來有志者相謀リ賣先キ地方ニ一社ヲ設ケ專ラ此弊ヲ矯メント盡力中ナリトカ
金融ノ便否	金融ハ大概金利何程位ナルヲ以テ當業者資金流融ノ道ニ苦ムノ景況ヲ見ストカ又ハ從來大概原品ヲ延金ニテ買受ケ何ヶ月目ニ代金ヲ拂フノ風ナリシニ近頃追々手形ヲ行フノ風習トナリ大ニ便利ヲ起セリトカ又ハ金利ハ常ニ他地方々高キ方ナリ之レ畢竟借人ノ不慥ナルカ爲メナリトカ

右之外諸般ノ弊害之ヲ矯正スルノ企其他工業上ニ關スル要件ハ可成詳細ニ記載スヘシ工場ニメ特ニ其事業ノ盛衰ヲ報道スルヲ有益ナリト可認者アラハ其景況ヲ前文書式ノ

○商工通信事項

非現行

現行

現行

体裁ニ倣ヒ更ニ役員ノ人數其給料ノ高器械ノ種類資本金高等ヲ加ヘ精細ニ記載スヘシ
 又從來其地方ニ無リシ者ヲ新ニ製出シタル者アルハ其製品ノ景況ヲ別ニ記載スヘシ
 ●明治十七年八月十八日甲第六十一号攝津國へ達
 明治十一年三月常府天第五十三号布達自今廢止ス 右布達候事
 ●明治十七年八月廿五日乙第百十五号郡區役所戸長役場へ達
 本年八月乙第百九号達工事通信事項第七項ハ當分履行ニ及ハス
 右相達候事

●明治十七年九月二十日乙第百廿八号郡區役所戸長役場へ達
 本年八月常府乙第百九号達商務通信事項第二項第三表中(米、石以下品目ハ第一項
 第一表ニ全シ)ノ十六字ヲ削リ本表ハ其商品ヲ定メサルモノトス此旨相達候事

勸業委員設置及處務準則 並勸業會設置準則
 附勸業月報

非現行
 十三年地
 第六十六
 號達參看
 八月十四
 年甲第

●明治十一年四月四日地第十七号市郡區戸長へ達
 今般當府下勸業世話掛左ノ人名ノ者へ申付頭書ノ通各區受持爲致就テハ該掛心得方別
 紙ノ通ニ候條其時々協議等申出候ハ、懇切可致協力此旨相達候事 (人名略ス)

六十四號
 三依テ
 消ル

勸業世話掛心得

常ニ其持區内農工商業ノ景況ヲ詳密ニシ第二課ニ報告スヘキ條件區分スル左ノ如シ
 農業之部

第一條 一臨時報ト唱ヘ事ノ重大又ハ急速ニ係ル者ヲ云フ其事項ハ左ノ類ニ照準シ其
 時々速カニ報告ス可シ

其一 氣候節ヲ失ヒ冷熱俄カニ至リ或ハ風雨水旱等ノ災ニ懸リ農産ヲ害シ農業ヲ妨
 シルノ類

其二 植物ノ虫害或ハ家畜傳染病ノ徵候アル類
 其三 農産萬般ノ生長及ヒ豐凶ヲ報スル事

第二條 一月報ト唱ヘ事急速ニ係ラサル者ヲ云フ故ニ每翌月七日迄ニ報告スヘキ事項
 左ノ類ニ照準スヘシ但能ク緩急ヲ量リ時機ヲ失ハサルヲ要ス

第一 各國穀菜菓樹其外種子トモ府廳ヨリ頒布シ人民ニ於テ私ニ試驗セル植物類生
 長ノ景況及ヒ後其地ニ適シテ民益トナルヘキ哉否ノ意見等

第二 山野ヲ開キ廢田ヲ興シ新ニ物産ヲ繁殖スル類

第三 人民ニ於テ諸々試驗セル成績
 第四 耕作ノ方法ヲ改良シ或ハ農具ヲ改製シテ勞費ヲ省ク類
 第五 從來粗惡ナリシ物産ノ品位ヲ進メ隨テ産出ヲ増加セシ事

○勸業委員設置及處務準則勸業會設置準則

- 第六 農業上ニ於テ人民新ニ一種ノ營業ヲ興セシテ
 - 第七 從來棄テ、顧ミサリシ山野ノ遺利ヲ拾ヒテ有益ノ物産ヲ興セシテ
 - 第八 牧畜ノ景況
 - 第九 農業上便宜ノ機械ヲ用ヒ或ハ水力風力火力牛馬力等ニヨリテ大ニ勞費ヲ節減セシテ
 - 第十 現時海外輸入品ニ代用スヘキ物産ノ繁殖或ハ新ニ輸出シテ外國需用ノ適否ヲ試ムルヲ
 - 第十一 勸業上ノ障礙トナルヘキ條件アルノ類
 - 第十二 農産盛衰ヲ來ス所以ノ原因等
 - 第十三 何地ヨリ何産ヲ出シ多ク何レノ地方ニ販キ該品數量價格等調出ノ事但シ調査方ハ客年當府地第八号達ニ照準シ戸長ト謀リ調製スヘシ
- 工業之部
- 第一條 一人民ニ於テ諸工業ヲ試驗セル成績
 - 第二條 一工業ノ方法ヲ改良シ或ハ用具ヲ改製シ及ヒ便宜ノ機械ヲ用ヒ又ハ水力風力火力等ニ因リ大ニ方費ヲ省ク類
 - 第三條 一從來和惡ナリシ工業ノ品位ヲ改メ隨テ産出ヲ増殖セシ事
 - 第四條 一工業上ニ於テ人民新ニ一種ノ工業ヲ興シ或ハ模造セシ事

- 第五條 一工産盛衰ノ如何及其盛衰ヲ來ス所以ノ原因等
 - 第六條 一現時海外輸入ニ代用スヘキ工産繁殖或ハ新ニ外國輸出スル工産及其成績
 - 第七條 一故有ノ工産ニシテ漸次衰弊セシモノヲ挽回セシモノ等ノ類
 - 第八條 一何地ノ何産ヲ出シ多ク何レノ地方ニ販キ該品數量價格等調出ノ類但調査方本年當府地第五十三号布達ニ照準シ戸長ニ謀リ調整スヘシ
 - 第九條 一工業進歩ノ景況及ヒ將來擴張シ民益トナルヘキ哉否ノ意見等
- 商業之部
- 第一條 一臨時報ト唱ヘ事ノ重大又ハ急遽ニ係ルモノヲ云フ其事項ハ左ノ類ニ照準シ其時々速ニ報告スヘシ
 - 第一 賣買ノ諸品價格不尋常ノ高低ヲ生スル時ニ際シテハ其高低ヲ來ス所以ノ原因等ノ類
 - 第二條 一月報ト唱ヘ事急遽ニ係ラサル者ヲ云フ故ニ每翌月七日迄ニ報告スヘキ事項左ノ類ニ照準スヘシ但能ク緩急ヲ量リ時機ヲ失ハサルヲ要ス
 - 第一 商業盛衰ノ如何及其盛衰ヲ來ス所以ノ原因等ノ類
 - 第二 他ノ各地方ト互ニ物貨流通スル所以ノ物品々名出入ノ數量並原價等可調成但調整方ニ於テハ本年當府地第五十五号布達ニ照準シ戸長ニ謀リ調成スヘシ

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

非現行
明治十四年八月
第十四號
第六百六十四號
依テ

現行

非現行
明治十四年八月
第十六號
第六百六十六號
依テ
止ス

●明治十三年六月廿四日地第六十六号郡區役所へ達

明治十一年四月地第十七号ヲ以當府下勸業世話掛心得方相達置候處今般詮議ノ次第有之該心得書中農業ノ部第二條第十三節工業ノ部第八條商業ノ部第二條第二節ヲ削除候條本年七月一日以降戸長方直ニ當府勸業課へ差出候様各分畫戸長ニ可達此旨相達候事

●明治十四年一月十八日乙第拾号郡區役所へ達

郡區書記ノ内一名其役所ニ於テ撰定勸業事務兼任セシメ本府勸業課並勸業世話掛ト協議シ勸業上ニ係ル一切ノ事務ヲ處理候様致スヘク此旨相達候事

●明治十四年八月十七日甲第百六十四号達

郡區勸業世話掛自今左ノ通配置候條此旨布達候事但十三年舊堺縣甲第百七十三号布達ハ相廢止候事
(配置表畧ス)

●明治十四年八月十九日乙第百一十一号郡區役所戸長役場へ達

今般甲第百六十四号布達候ニ付十一年本府地第十七号並本年舊堺縣乙第十二号達ヲ廢シ更ニ勸業世話掛心得書勸業通信假規則別冊ノ通相定候條爲心得此旨相達候事

勸業世話掛心得

第一條 勸業世話掛ハ所轄郡區役所ニ隸屬シ郡區長ノ監督ヲ受ク尤事宜ニ依リ直チニ勸業課ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條 世話掛ノ配置ハ本年甲第百六十四号布達ニ據ト雖モ其擔當區域ハ別段ノ達ニ

從テ可シ

第三條 世話掛ハ戸長其他吏員等方兼ヌルヲ得ス

第四條 世話掛ハ利民厚生ヲ目的トシ擔當部内ノ人民ヲ各事業ニ勉勵進歩セシムルヲ注意スヘシ

第五條 世話掛ハ官民ノ間ニ在テ勸業事務ヲ周旋シ其利害得失ノ原因(制度ヨリ來ル故方生)ヲ探究シ意見ヲ具申ス可シ

第六條 世話掛ハ擔當部内ノ製産物及ヒ商品ノ販路並ニ製造原品買入等ノ地方ヲ詳ニシテ其利弊ヲ察シ意見ヲ具申ス可シ

第七條 勸業上殊ニ功勞アルモノハ詳カニ其履歷ヲ取調具申ス可シ

第八條 勸業上ノ事ニ付勸業課又ハ郡區役所ノ意見ヲ問ヒ又ハ取調等ヲ通達スルキハ速カニ應答スヘシ且人民方質疑ヲ受ケ解シカタキ件或ハ自ラ質問セント欲スル事項アラハ之ヲ詳記シテ勸業課へ稟議スヘシ

第九條 擔當部内ノ人民ト種子草木等ノ分配又ハ交換ヲ乞フキハ懇切ニ周旋シテ其望ヲ達セシムヘシ但他府縣下所産ニ係ルモノハ部内限取纏メ勸業課へ申立ツヘシ

第十條 勸業課方頒布スル雜誌報告類ハ洽ク通徹セシムル様注意スヘシ

第十一條 擔當部内ノ農産物及重要生産物ノ産額統計ハ其實ヲ失ハサル様注意スヘシ
第十二條 博覽會共進會其他勸業上有益ノ舉アルキハ人民ヲ具サニ其旨趣ヲ了悉セ

シメ之ヲ勸誘スヘシ

第十三條 世話掛ハ兼テ通信員トナリ通信假規則ニ據リ擔當部内農工商況通信ノ事務ヲ負擔スヘキ者トス

第十四條 毎月五日間以内適宜其擔當内ヲ巡回シ農工商業ノ實況ヲ觀察スヘシ

第十五條 天災時變ニ因リ大ニ民業ノ損害ヲ爲シ又ハ其豫想アル場合ニ於テハ臨時其部分ヲ巡視スヘシ

第十六條 世話掛ハ互ニ氣脈ヲ通シ協和戮力スヘシ

第十七條 世話掛ハ勸業課ニ於テ定時及ヒ臨時開ク所ノ勸業會員タルヲ得

勸業通信假規則

第一條 勸業通信ノ事務ハ總テ勸業課ニ於テ擔理スルモノトス

第二條 勸業課ハ勸業世話掛ヲ以通信員ニ充テ實地通信ノ事務ヲ擔任セシムル者トス

第三條 通信員ハ專ラ擔當部内農工商業ノ景況ヲ勸業課ヘ報告スルヲ掌ル

第四條 通信ノ部ヲ分テ臨時報月報ノ二類トス

第五條 臨時報ハ事ノ重大ニ屬シ急遽ヲ要スル事件ノ報告ニシテ其事項ハ左ノ類ニ準シ迅速報道スルヲ要ス

一 氣候節ヲ失ヒ冷熱遽カニ至リ或ハ風雨水旱等ノ災ニ由テ農産ヲ害シ農事ヲ妨クル等渾テ急報ヲ要スヘキ件

一 植物虫害或ハ家畜傳染病ノ兆候アル類

第六條 月報トハ事ノ急遽ヲ要セサル月次通報ニシテ左ノ事項ニ從ヒ毎月七日迄二前月ノ景況ヲ報告スヘキ者トス

第一類 農業ノ部

一 氣候表(寒暖風雨霜雪ノ類)

二 地形及地質

三 諸作物選種播種生育培養収獲ノ景況盛衰ノ原因

四 肥料ノ種類及需用供給ノ狀況

五 澆水排水ノ方法及便否

六 原野荒蕪地及開墾

七 耕作上ノ習慣及作付ケノ順序

八 菓樹菓物ノ景況及栽培法

九 官府ヨリ頒布セル種子苗木類試作ノ景況

十 牧畜ノ景況及増減附傳染病ノ事

十一 養蠶ノ景況附蠶病ノ事

十二 水産盛衰ノ景況及其原因附食鹽

十三 田圃虫害ノ状態及其豫防驅除法

勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

- 十四 鳥獸獵捕獲ノ景況
- 十五 水旱豫防ノ方法及耕作ヲ改良シ改具ヲ改製シテ勞費ヲ省ク類
- 十六 農業器械ノ品目及功用
- 十七 水陸ノ遺利ヲ拾ヒ新ニ物産ヲ起シタル類
- 十八 諸試作物ノ景況成跡及向來ノ見込
- 十九 共進會博覽會農事會農學校等ノ景況
- 二十 農事ニ關シ設置セシ事業及取締諸規則
- 廿一 農業用動物交換競賣場等ノ景況
- 廿二 農業上改良進步發明ノ景況
- 廿三 農業ニ關スル著書譯書報告書紀行ノ類
- 廿四 農事力役者傭賃ノ高低及原因
- 廿五 官民林ノ景況及盛衰ノ原因向來ノ見込
- 第二類 商業之部
- 廿六 各市場賣買盛衰ノ景況及原因
- 廿七 諸會社ノ景況
- 廿八 金融ノ景況利子ノ昂低並原因
- 廿九 商業用雇入ノ賃錢

- 三十 賣買ノ線路
- 卅一 物價ノ昂低及其原因
- 卅二 物貨ノ有餘不足及其原因
- 卅三 内外輸出入ノ景況
- 第三類 工業之部
- 卅四 在來工業ノ方法ヲ改正シ或ハ用具ヲ改良シ及便宜ノ機械ヲ用ヒ又ハ水力氣力等ヲ用ヒ大ニ勞費ヲ省クノ類
- 卅五 從來粗惡ナリシ製造物ノ品位ヲ改良シ及產出ヲ増殖セシ類
- 卅六 人民一種ノ工業ヲ新興シ或ハ摸造セシ類
- 卅七 人民ニ於テ試驗セル工業ノ成績及景況
- 卅八 各工業ノ盛衰及其原因
- 卅九 海外輸出品ニ代用スヘキ工産及外國へ輸出スヘキ工産ノ景況
- 四十 漸次衰頹ニ屬セル工業ヲ挽回セル類
- 四十一 工業ニ關スル雇夫ノ賃錢
- 第七條 前各項ノ外實地ノ景況ニ由リ事ノ利害ニ關スルモノハ可成報スルヲ要ス
- 第八條 凡ソ通信書ハ勉メテ平易ノ文ヲ用ヒ虛飾失實ノ弊ナキヲ要ス其利害得失ニ關スル者ハ最モ注意スヘシ

第九條 通信中文意ニテ悉シ難キ物質形狀等ハ雛形見本等ヲ添ヘ且數量比例等ニ係ル者ハ成ルヘク表ニ作リ報告スルヲ要ス

但各地ニ於テ慣用ノ數量又ハ各地方言等ノ一般ニ解讀シカタキ者ハ傍訓ヲ施シ或ハ分註ヲ加フヘシ

第十條 通信員ノ報告書ニ對シ事實明瞭ナラサルカ或ハ疑義アリテ質問スルハ通信員ニ於テハ速カニ其質問ニ應スヘシ

第十一條 通信員ニ於テ勸業上ノ疑件ヲ質問セント欲スルハ其事由ヲ詳記シ勸業課ヘ差出スヘシ

第十二條 通信員ハ通信事務ニ付戸長及ヒ人民ニ對シ質問又ハ説示スルヲ得ル者トス第十三條 總テ通信ハ專ラ迅速ヲ尙フカ故ニ時季ヲ過マタサル様最モ注意スヘシ

●明治十五年六月廿八日示第七十五号達
郡區勸業世話掛配置方ノ儀客年本府甲第百六十四號ヲ以テ及布達置候處大阪四區勸業世話掛ノ儀ハ本年本府通常區部會ニ於テ右ニ對スル支出費豫算廢案ノ決議認可セリ依テ本月卅日限り相廢止候條此旨告示候事

現行

●明治十五年九月十八日示第五百十号達

本府勸業月報ノ儀ハ客年八月及度告置候通從來東西南北ノ四區ハ戸數二百五十七強ニ各郡及堺區中村ハ毎村町ハ戸長役場部内ヘ一部ノ割ヲ以テ配布候處本年府會ノ決議

現行

ニ依リ部數減少候就テハ第十九号七月刊行以下ハ郡區役所及各郡區勸業世話掛ニ限リ配布候條有志ノ者ハ勸業課若クハ郡區役所若クハ勸業世話掛ヘ就キ閱覽シ深ク右報告ノ旨趣ヲ体スヘシ此旨告示候事

●明治十六年五月十六日太政官第十三号布達(農商務卿連帶)
各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會並勸業委員ヲ設置スルヲ得

第一條 諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條 諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管内農商工事ニ名望アル者ヲ撰テ之ニ充ツ其人員並處務ノ順序等總テ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

第三條 諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨ス可シ

第四條 勸業委員ハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ又ハ區郡長戸長ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條 勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之レヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シ

第六條 區町村若シクハ聯合區町村ニ於テ勸業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲシテ會員タラシムル事ヲ得

第七條 府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及ヒ第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキハ誘導シテ之レヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

請ク可シ

第八條 勸業委員ノ旅費日當及ヒ第六條ノ各會諸費ハ區町村及ヒ聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニオイテ協議支辨スルコトヲ得但シ有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例ニ非ス

第九條 農商務卿及ヒ主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フコトアルヘシ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

右布達候事

非現行

●明治十六年六月廿九日示第百八十五号達

郡區勸業世話掛配置方ノ儀十四年本府甲第百六十四号ヲ以及布達置候處各郡勸業世話掛ノ儀ハ本年本府通常部部會ニ於テ右ニ對スル支出費豫算廢按ノ決議認可セリ依テ本月卅日限り相廢止候條此旨告示候事

非現行

●明治十六年七月二日乙第九十五号郡區役所戸長役場ヘ達

明治十四年本府乙第百一十一号達相廢候條此旨相達候事

現行

●明治十七年二月十三日乙第十八号郡區役所戸長役場ヘ達

明治十六年太政官第十三号布達ニ塗據シ勸業諮問會ヲ設置シ規則左ノ通り相定候條爲

心得此旨相達候事

勸業諮問會規則

第一條 本會ハ勸業上ニ付府知事ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條 本會ニ諮スヘキ條項ハ概テ左ノ如シ

其一 農事ニ關スル事 其二 商業ニ關スル事 其三 工業ニ關スル事

其四 農商工事統計ノ事 其五 海陸運漕道路河港ノ開鑿修築ニ關スル事

第三條 會員ヲ三十名トシ府知事之ヲ撰任ス

第四條 本會ハ通常會臨時會ノ二類ニ分チ其通常會ハ毎年九月ヲ以テ開キ臨時會ハ臨時諮問ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ開ク

第五條 本會ノ期日ハ凡ソ十五日以前ニ報告スヘシト雖トモ至急ヲ要スルトキハ此限ニ非ラス

第六條 會頭ハ府知事之ニ任ス但事故アルルハ書記官又ハ各課長ノ内ヲ以テ代理セシムルコトアル可シ

第七條 幹事二名書記二名屬官中ノ之ヲ命ス幹事ハ會頭ノ指揮ニ從ヒ會場諸般ノ事務ヲ管理シ書記ハ筆記ノ事ヲ掌ル

第八條 主務ノ屬官ヲ以テ番外委員トナシ問題ノ説明ヲナサシム

第九條 農商務省官吏及農商工上等會員又ハ府知事ノ許可シタル屬官ハ會場ニ列シ意

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

見テ陳ルヲ得ヘシ但可否決ノ數ニ加ヘス

第十條 開會中會頭ノ許可ヲ得サル者ハ會席ニ入ルヲ許サス

第十一條 會場ハ午前第九時ニ始メ午後第四時ニ終ルヘシト雖モ會頭ノ意見ヲ以テ伸縮スルヲアルヘシ但其始終標ヲ以テ報ス

第十二條 會員着席ノ順序ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ會員ノ稱呼ハ番號ヲ用ユルモノトス

第十三條 會員發言セント欲スル者ハ起立シテ會頭ト呼ヒ自己ノ番号ヲ唱ヘ其許可ヲ得テ會頭ニ對ヒ陳述スヘシ會員互ニ應答スルヲ許サス

第十四條 問題毎ニ書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシムヘシ

第十五條 諮問按又ハ報告書ニ對シ質問ヲ爲サシメントスル者ハ書記朗讀ノ後意見ヲ述ルニ先テ之ヲ辨明ヲ要ムルヲ得

第十六條 本會ハ問題ニ對シ意見ヲ述ルニ止ルヲ以テ甲乙其意見ヲ異ニスルモ互ニ討論スルヲ得ス但會員ノ意見ヲ識別スル爲メ討議セシメ起立ノ作用ニヨルヲアルヘシ此場合ニ於テハ出席會員ハ可否ノ數ニ入ラサルヲ得ス

第十七條 一問題未タ終ラサルニ他ノ事件ヲ説キ或ハ質問スルヲ許サス

第十八條 會員ノ論說無用ニ渉ル乎或ハ問題外ニ渉ル者アリト認ムルハ會頭之ヲ制止スルヲアルヘシ

第十九條 會員中建議ヲ提出セント欲スル者ハ録シテ文案トナシ之ヲ會頭ニ出シ又ハ

現行
十七年十
月二十第
百四十三
號
達
者

會席ニ於テ陳述スルヲ得

第二十條 開會ニ付會員ヲ召集スルハ旅費日當ヲ給與ス

●明治十七年十月九日甲第六十九号達

勸業委員設置及庶務準則並勸業會設置準則左之通制定ス

勸業委員設置及所務準則

第一章 勸業委員設置

第一條 勸業委員ハ郡區町村若クハ聯合區町村ニ於テ設置ス但一名ノ受持區域ハ一戸長役場ヲ踰ヘサルモノトス

第二條 勸業委員ノ人員ハ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評定シ府知事ノ裁可ヲ受ク可シ

第三條 勸業委員ハ其受持區域區町村會若クハ聯合區町村會議員或ハ農商工事ニ名望アル者ヲ擧スルモノトス

第四條 勸業委員ノ擧ハ戸長之ヲ管理スルモノトス但時機ニ因リ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ撰セシメ府知事ニ於テ之ヲ擧スルヲアルヘシ

第五條 勸業委員ハ其郡區役所ニ於テ投擧狀ヲ渡スヘシ但府知事擧拔ノ際ハ府廳ニ於テ渡スモノトス

第六條 勸業委員ノ任期ハ滿三ヶ年トス但滿期再撰スルヲ得

○勸業委員設置及所務準則並勸業會設置準則

第二章 勸業委員所務

第七條 勸業委員ハ專ラ受持部内農工商業ノ進歩ヲ圖リ及府廳郡區役所ヲ指揮スル所ノ事務並ニ戸長ヲ協議ノ事務ヲ所辨スルモノトス其概目左ノ如シ但通信事項ハ別ニ定ムル所ノ順序ニ因ルヘキモノトス

其一 農業ニ關スル事

其二 商業ニ關スル事

其三 工業ニ關スル事

其四 農商工事統計ノ事

其五 農商工ニ關スル通信ノ事

其六 海陸運送(道路河港ノ開鑿修築)ニ關スル事

第八條 勸業委員ハ第七條各項ノ事項ニ關シ郡區長戸長ノ諮問ニ答辨シ或ハ自己ノ意見ヲ陳述スルモノトス

第三章 勸業委員經費

第九條 勸業委員ノ給料及旅費日常額並事務取扱費ハ區町村會若クハ聯合區町村會議決ヲ經該區町村費ヲ以テ支辨スヘシ

勸業會設置準則

第一章 勸業會設置及會員選舉

第一條 區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業商業工業ノ各會又ハ三業併合ノ勸業會其他同業會ヲ設立スルヲ得但此場合ニ於テハ區町村會或ハ聯合區町村會ノ評決ヲ以テ府知事ノ裁可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ各勸業會員タルヲ得ヘクキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニメ其郡區町村若クハ聯合郡區町村内ニ本籍ヲ定メ農商工事ニ名望アル者ヲ公撰スヘシ其人員區町村會或ハ聯合區町村會ノ見ル所ヲ以テ定メ其二度選舉々ハ各會ノ評定ニ因ル可シ但(大阪四區ハ凡ソ七百戸各郡ハ凡ソ五百戸)ニ付壹名ヲ少ナカラサル者トス

第三條 左ノ各款ニ抵觸スル者ハ會員タルヲ得ス
第一款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期后五年ヲ經サレ者新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止中ノ者又ハ一ヶ年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期后五年ヲ經サル者

第二款 身代限ノ處分ヲ受負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三款 官吏

第四款 勸業各種會ニ於テ退職トセラレタル後三年ヲ經サルモノ

第四條 會員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿廿歲以上ノ男戸主ニメ其郡區町村内ニ本籍ヲ定メタル者ニ限ルヘシ但前條ノ第一款第二款第四款ニ該ル者ハ選舉人タルヲ得ス
第五條 各勸業委員ハ勸業委員ヲシテ會員タラシムルヲ得

勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

第六條 各勸業會員ノ任期ハ滿三ヶ年トシ一ヶ年半毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス但シ滿期再撰スルヲ得

第二章 勸業會々務

第七條 各勸業會ハ其會則ヲ設ケ府知事ノ裁可ヲ受ク可シ

第八條 各勸業會ハ會員中々正副會頭及幹事各一名ヲ公撰スヘシ但會區ノ廣濶ナルモノハ幹事ヲ増置スルヲ得

第九條 會頭ハ該會ノ諸般ヲ整理スヘシ會員若クハ傍聽人ニシテ會頭ノ指揮ニ從ハサル者アルハ退出セシムルヲ得

第十條 各勸業會ハ農商務卿及主務ノ官署方勸業上ノ事件ニ付諮問アルハ之ヲ審議スヘキ者トス

第十一條 各勸業會ハ勸業上公益ノ事件ヲ講究談話シ農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルヲ得

第三章 勸業會經費

第十二條 各勸業會員ノ旅費日當額及會費ハ區町村會若クハ聯合區町村會議決ヲ經該區町村費ヲ以テ支辨シ又關係各業者ニ於テ協議支辨スルヲ得但有志者ヲ以テ組織スルモノハ此限りニアラス

現行

●明治十七年十月廿七日乙第四百四十二号郡區役所戸長役場へ達

本年甲第六十九号ヲ以テ勸業委員設置及處務準則布達候ニ付テハ右取扱手續左ノ通り相定候條此旨相達候事

勸業委員設置及處務準則取扱手續

第一條 準則第一章第二條ニ依リ勸業委員ノ人員確定セシキハ戸長ハ同第三條ニ基キ適任者ト思料スル者ヲ撰舉シ郡區長ニ具狀スヘシ

第二條 郡區長ハ前條ノ具狀ニ就キ其常否ヲ審案シ差支ナシト認ルルハ第一号辭令書ヲ下付シ其旨戸長へ通達スヘシ

第三條 戸長ノ具狀ニ係ル者ノ内郡區長ニ於テ若シ不適當ト思料スル者アルハ府知事ニ具狀シテ指揮ヲ受クヘシ

第四條 勸業委員任期中病氣其他事故ニテ退職スルモノ等補欠撰舉ハ渾テ新任同様ノ手續ニ從フヘシ

第五條 勸業委員滿期又ハ病氣其他事故若クハ其職ニ堪ヘスシテ退職或ハ免職スヘキ場合ニ於テハ其郡區役所方第二号書式ノ辭令書ヲ渡スヘシ

第六條 郡區役所ニ於テハ部内勸業委員ノ名簿ヲ備置キ時々其異動ヲ更正シ其郡度府知事ニ具狀スヘシ

第七條 一戸長役場部内ニ於テ勸業委員數名アルハ戸長ハ其受持區域ヲ定メ郡區役所ヲ經由シ勸業課へ報告スヘシ

○勸業委員設置及處務準則取扱手續

第八條 勸業委員ノ事務所ノ戸長役場内ニ設クヘシ但止ヲ得サル場合ニ於テハ其他ニ於テ之ヲ設クルヲ得

第九條 準則第八條ニ依リ諮問ヲ要スヘキ場合ニ於テハ勸業委員各人ニ諮問スヘキモノトス

第十條 勸業委員旅費日當ハ準則第三章第九條ニ據ルヘシト雖モ本府へ招喚ヲ要スヘキ場合ニ於テハ其旅費日當ハ地方税中勸業費ヲ以テ支給スヘシ

第壹号書式 用紙大奉書四ツ折

第二号書式 用紙全上

姓 名
何 郡 區 何 町 村 勸 業 委 員 申 付 候 事
年 号 月 日
郡 區 役 所

何 郡 區 何 町 村 勸 業 委 員 姓 名
滿 期 ニ 付 (依 願) 委 員 差 免 候 事
年 号 月 日
郡 區 役 所

△伺及指令

○本年第十三号公達之儀ニ付東京府伺 十六年六月十四日

第一項 該公達第六條諸項ニ依レハ「區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ勸業會ヲ合セタル農商工其他同業會ヲ設置スルルハ」云々ト有之抑々區町村等ノ名義ヲ以テ此等ノ各會ヲ設置スルハ即チ公共ノ事業ナルニ付本條別ニ明文ナシト雖モ之ヲ設置スルト爲サ、ルトヲ始メ諸般ノ事項ニ至ル迄區町村會若クハ聯合會ノ評議ニ付ス可キ者ノ如シ然レモ同第八條ヲ參觀スルニ此等ノ各會均ニ屬スヘキヲ以テ詰リ事業ト經費ノ間ニ於テ公私ノ別ヲ生スル場合モ有ヘシ蓋シ區町村會ハ其第一條法文ノ通り公共ニ關スル事件ト其經費ノ収支方法トヲ合セ議スル所ニシテ經費ナキノ事件ヲ議スルハ其本文ニ有之間敷右ニ付其公費即チ協議費ヲ以テ支辨スル場合ニ任テハ之ヲ該會ノ評議ニ付スルヲ可ナリト雖モ其私費即チ各業者支辨ノ場ニ在テハ該會之ヲ評議スルノ限リニ非サル可シ果シテ然トセハ第六條ノ各會ハ其支辨方ノ如何ニ依リ該會ノ評議ニ付スルト付セサルトノ別アル儀ニ候哉若其別ナシトセハ均シク付スル儀ニ候哉又ハ均シク付セサル儀ニ候哉

第二項 第六條末項ニ依レハ「勸業委員ヲノ會員タラシムルヲ得」ト有之蓋シ得トハ許可ノ言葉ニシテ其レヲノ會員タラシムト否ラサルトハ一ニ區町村會ノ意思如何

ニ在ルノミ然ハ則チ勸業委員ノ本條各會ニ於ケルハ客員タルニ止リ視テ以テ正員ト爲ス可カラサルニ似タリ然ニ本條單ニ客員ノ組成ノミヲ示シ其正員ノ結構ヲ定メラレス元來會アレハ必ス其定リタル正員アルヘキハ事物自然ノ數タリ今假令言明ナキモ苟モ爰ニ該各會ヲ設クル上ハ必ス正員ヲ置キ而シテ其正員ハ區町村會ニ於テ適宜之ヲ撰舉可致儀ト相心得可然哉

第三項 同第七條ニ依レハ「府知事縣令於テ勸業委員ノ設置及ヒ第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルハ誘導シテ之ヲ設置セシムルヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議ノ認可ヲ請クヘシ」ト有之本條ヲ以テ第六條ト對照スルニ農商務卿ニ稟議認可ヲ請クルノ一項ハ前條ニ無之シテ本條特ニ之ヲ示セリ今其然ル所謂ヲ考フルニ前條各會ハ既ニ民意ノ赴ク所トナリ自然ニ興起シタル者ニ付稟議認可ヲ請クルノ要ナシト雖モ本條ノ如キハ自然ノ興起ニ先タチ文化増進ノ爲メ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ設置セシムルモノナレハ特ニ稟議認可ヲ請クルヲ要シ其手續ヲ一層鄭重ナラシメタルノ法意ナル可シト被存候由之觀之其所謂誘導シ設置セシムルヲ得トハ假令區町村人民其誘導ニ應セサルモ府知事縣令ニ於テ要用ト認ムルハ其職權ヲ以テ設置セシムルヲ得ル義ト相心得可然哉果シテ然ラハ第六條自興起ノ各會ト本條誘導設置ノ各會トハ元來其組織性質相異ナルヲ以テ好シ自然興起ノ各會ニ就テハ區町村會若シクハ聯合會ノ評議ヲ用ヘキ者トスルモ誘導設置ノ各會ニ付テハ其評議

ヲ用フルニ及ハサル儀ニ候哉

○農商務省指令 年月日欠ク

伺ノ趣左ノ通り可相心得事

第一項 農業會商業會工業會及勸業會ノ設置ニ付テハ區町村會又ハ聯合區町村會評議ニ付シ其他ノ同業會設置ニ付テハ該同業者ノ評議ニ任スヘシ

第二項 伺之通

第三項 前段見解ノ如シト雖モ命令ヲ以テスルノ限ニアラス但本文誘導ノ設置セシムル場合ト雖モ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ附セサルノ限ニアラス

○勸業委員勸業會設置ノ儀ニ付三重縣伺 十六年六月十四日

明治十二年本縣廳下於テ始テ勸業會ヲ開キシ以來講究談話ノ益少カラス尤種苗交換ノ如キハ實驗上頗ル其功ヲ見ルヨリ一般勸業會ノ急要ナルヲ感覺シ之カ爲メ郡村ニ於テモ追々此會ヲ設置スルニ至リ廳下ノ會ト氣脈相通シ稍其便益ヲ見ルモ未タ一般普設スルニ至ラス畢竟勸業會ノ如キハ人民各自營業ノ進步改良ヲ謀ルノ淵源ニ付町村ヨリ郡ニ郡ヨリ縣ニ派絡貫通スルノ組織ニ非レハ首尾完然セス其効用充分ナラザルニ付一定ノ方法ヲ設ケ發達セシメ度候得共只費用ノ一點ヨリ猶豫致シ居候處縣會ニ於テモ其感ヲ同フシ別紙勸業委員勸業會規則ノ趣旨ヲ以テ十六年度ヨリ施行相成度旨建議致シ其費額ハ地方稅方補助スルニ議決セリ右建議ハ素々一時ノ考案ニ成立

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

タル者ニ無之議員等開會以前ヨリ頗ル精神ヲ尽シ議場へ呈出シタル者ニ有之本縣勸業ノ進度ニ於テ着實穩當ノ考察ニシテ勸業委員勸業會ヲ設置スルハ最モ要用ト相認候ニ付縣會ノ美譽ヲ嘉容シ來十六年度ヨリ別紙規則ニ照準シ一般ニ實施セシメ候様致度依テ本年第三号御布達第七條ニ依リ相伺候條速ニ御認可相成度候也

但勸業通信ノ如キハ去ル十三年度ニ於テ各郡ニ通信一員ヲ置キ其緒ヲ開キ候得共縣會ニ於テハ元來通信掛ノ人員僅少ニシテ其實舉ラサルヨリ却テ之ヲ戶長ニ兼子シムルヲ得策トナスノ見込ヲ以終ニ其費用ハ翌年度々否決スル處トナレリ然ルニ戶長ニ於テハ本務ノ爲ニ自ラ注意周密ナルヲ得ヌ又物産統計調査ノ如キモ之カ專務ニ任スルモノ無キ以テ自ラ其實ヲ得難ク共ニ隔靴ノ歎ヲ免レス今ヤ是等ノ事務ヲシテ勸業委員勸業會幹事ニ取扱ハシムルニ於テハ數百ノ擔任者カ郡村ニ散在スルヲ以テ初メテ其實ヲ舉ルニ至ラント信候此段申添候也

○農商務省指令 十六年七月三十一日
伺之趣認可候事 但別紙附箋ノ廉修正ノ上届出ツヘシ

(別紙)

勸業委員勸業會規則(附箋(準則))

第一章 町村勸業委員

第一條 勸業委員ハ町村若クハ聯合町村ニ設置シ勸業ノ事務ヲ擔任ス

第二條 勸業委員ノ人員撰擧ノ方法及處務ノ順序並給料ノ有無ハ町村會又ハ聯合町村會ニ於テ之ヲ評定シ縣令ノ裁可ヲ得テ施行ス可シ

第三條 勸業委員ノ任期ハ二年トス但再撰スルヲ得

第四條 勸業委員ノ旅費日常及事務取扱費ハ町村又ハ聯合町村ノ協議費ヲ以支辨ス

第二章 町村聯合勸業會

付第二章ニ郡勸業會部勸業會ノ文字有之ハ
箋(總テ町聯合會ノ一郡ニ及フモノノ修正スヘシ)

第五條 勸業會ヲ分テ郡勸業會部勸業會ノ二種トス

第六條 郡會ハ郡役所部内ノ町村ヲ聯合シ其全部内ニ係ル勸業ノ事ヲ講究談話スル者トス

第七條 郡會ハ便宜町村ヲ聯合シ一郡ヲ數部ニ分チ其一部内ニ係ル勸業ノ事ヲ講究談話スル者トス

第八條 郡會部會ハ主務ノ官廳ヨリ勸業上ノ事ニ付諮問アルキハ之ヲ審議ス

第九條 郡會部會ハ各部内勸業上ノ事ニ付主務ノ官廳ニ意見書又報告書ヲ呈スルヲ得ヘシ

第十條 郡會部會々場ノ細則ハ各會ニ於テ之ヲ議定シ郡長ノ檢閲ヲ經テ之ヲ執行スル事ヲ得

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

第十一條 郡會部會ハ毎年二回以上開會スル者トス

第十二條 郡會部會ノ會員ハ各部内ノ勸業委員及戸長ヲ以テ之ニ充ツ但各會ノ意見ヲ以テ定員外ニ專業者ヲ會員ニ加フルヲ得

第十三條 郡會部會ハ各會員ノ員數及撰擧ノ方法ヲ定ム但戸長ヲ會員ニ撰擧スル員數ハ總會員三分ノ一ヲ超過ス可ラス

第十四條 郡會ハ部會ノ區域ヲ定ムル者トス

第十五條 郡會ハ地方稅勸業補助費ヲ郡會部會ヘ配付ノ方法ヲ定ム

第十六條 郡會ハ種苗交換ノ方法ヲ設クルヲ得

第十七條 郡會部會ノ會頭ハ各幹事ヲ以テ之ニ充ルモ或ハ會員中ヨリ公撰スルモ各會ノ適宜トス

第十八條 郡會部會ニ幹事一名ヲ置キ各會ニ於テ其會員中ヨリ公撰シ之ヲ郡長ニ報告シ郡長ハ縣令ニ報告スヘシ但郡會幹事所在地ノ部會ハ別ニ幹事ヲ置カス郡會幹事ニ於テ部會ノ事務ヲ執行スルモノトス

第十九條 郡會部會ノ會頭ハ會場ヲ整理シ若シ會頭ノ指揮ニ順ハサル者アルハ之ヲ會場外ヘ退出セシムルヲ得

第二十條 郡會部會ノ各事ハ會務ヲ執行シ及各部内勸業ノ事務ヲ擔任ス

第二十一條 郡會部會ノ會員及幹事ノ任期ハ各二ケ年トス但滿期再撰スルヲ得

第二十二條 郡會部會幹事ノ手當ハ地方稅勸業費中ヨリ支給ス但郡會幹事ニメ部會幹

事ノ事務ヲ執行スル者ト雖モ部會幹事ノ手當ハ別ニ給セス

第二十三條 郡會部會ノ聯合町村ノ協議費ヲ以テ支給スヘシ但地方稅勸業費中ヨリ會費ノ幾部ヲ補助ス

一同上會員ノ旅費日當支辨方ノ儀ハ未項伺之通

○勸業委員及諮問會設置ノ儀ニ付宮城縣向 十六年八月九日

本管地方ノ儀ハ勸業委員及勸業會ノ設立殊ニ要用ナルヲ以テ明治十二年來勸業委員ヲ各地ニ配置シ專ラ農商工ノ業ヲ勸奨シ或ハ勸業各會ヲ開設シテ其利害得失ヲ審議セシメ頗ル裨益アルヲ以テ認定致候就テハ今回太政官第十三号ノ御布達ニ基キ左ノ通其設置方法ヲ更正シ各郡區長ニ指示シテ同一施行爲致度候間速ニ御認可有之度準則相添此段上申候也

追テ管下勸業委員ノ儀ハ是迄一般ノ布達ヲ以テ設置致來候處本文御認可相成ル上ハ該布達廢止ノ見込此段モ申添候也

勸業委員設置準則

第一條 區町村若クハ聯合區町村ニ於テ勸業委員ヲ設置シ勸業上諸般ノヲ擔任シ及ヒ郡區長又ハ戸長ノ諮問ニ答フ可シ

第二條 勸業委員ノ人員撰擧方法及處務ノ順序ハ區戸長ニ於テ方案ヲ設ケ之ヲ其區町

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

村會若クハ聯合區町村會ニ付シ決議ノ上縣令ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 勸業委員ヲ撰定シ若シ縣令ニ於テ不適當ト視認スルハ任期内ト雖モ改撰セシムルヲアルヘシ

第四條 勸業委員ハ其區町村若クハ聯合區町村ニ於テ開設スル所ノ勸業各會ノ會員タルヲ得

第五條 勸業委員ハ其區町村若クハ聯合區町村ノ議定ニヨリ年給及旅費日當ヲ受クルヲ得

第六條 前條ノ費用ハ區町村若クハ聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支給スヘシ

勸業會設置準則

第一條 區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業商業工業ノ各會又ハ三業併合ノ勸業會其他同業會ヲ設立スルヲ得

第二條 前條ノ各會ヲ開設スルハ其區町村若クハ聯合區町村内農工商事ニ名望アル者ヲ公撰シテ會員タラシム可シ

第三條 各勸業會ハ其方法ヲ定メ縣令ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 各勸業會ハ農商務及主務ノ官署ノ勸業上ノ事ニ付諮問アルハ之ヲ審議ス

第五條 各勸業會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スル事ヲ得

第六條 會議ニ關スル費用ハ區町村若クハ聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルヲ得但有志者ヲ以テ組織スルモノハ此限ニ非ス

○農商務省指令 十六年八月十六日
上申之趣認可候事

○勸業委員勸業諮問會準則ノ儀ニ付茨城縣伺 十六年八月十八日

本年八月四日付ヲ以テ勸業委員設置ノ儀相伺置候處石ハ御省本年達第八号第十三項ニ據リ左ノ如ク準則ヲ設ケ郡長及戶長等ニ諭達シ同一ニ施行可致見込ニ候條併セテ至急御認可相成度此段相伺候也

追テ勸業委員撰舉並ニ處務順序心得ノ儀ハ各郡區々ニ涉ルノ弊ナカラシメンカ爲メ即チ心得トシテ郡長迄指示シ置候見込ニ付此段申添候也

勸業委員勸業會準則

第一章 常務

第一條 勸業委員ハ請持部内ノ勸業事務ヲ擔任スルモノトス

第二條 勸業委員ハ縣廳及郡役所ノ指揮スル所ノ事務並戶長ノ協議ノ事務ヲ可處辨
第三條 諮問ノ事項ハ概子左ノ各項ニ依ル者トス

- 一 海陸運ノ利害道路港灣ノ開鑿修築ニ關スル事
- 二 溝渠用惡水疏通ニ關スル事

○勸業委員設置及處務準則並業勸業會設置準則

- 三 惡虫及虫害鳥獸驅除ノ事
- 四 動物蕃殖及改良ノ事
- 五 山林栽培及保護ノ事
- 六 農商工事統計ノ事
- 七 前六項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事

第二章 會務

- 第四條 農業會商業會工業會及水産談話會蠶糸談話會ノ如キ之ヲ總稱シ勸業會ト唱
- 第五條 會則ハ各會員ノ協議ニ由ルモノト雖モ總テ談話ノ体ヲ用ユルヲ常トシ但會
- 員ノ意見ヲ識別スル爲メ等必用ノ場合ニ於テハ起立ヲ要スルヲアル者トス
- 第六條 勸業會ヲ大小ノ二種ニ區別シ大會ハ町村聯合會ノ一部又ハ其一小部ニ及ブ
- 者トシ小會ハ一聯合村ニ止ル者トス
- 第七條 大會ハ一郡又ハ其一小部ニ係ル勸業上ノ事務ヲ講究談話スル者トス
- 第八條 小會ハ一聯合村ニ係ル勸業上ノ事務ヲ講究談話スルモノトス
- 附 第八條小會ハ一町村又ハ一聯合
- 第九條 大小二會ハ第三條ノ各項及其他ノ事項ヲ縣廳又ハ郡區役所ヨリ諮問スルト

キハ之ヲ審議ス

付 第九條中縣廳又ハ郡役所及ヒ

箋ハ長ヨリ云々ト修正スヘシ

- 第十條 大小二會ハ第九條ノ場合ニ拘ハラス會長又ハ會員三分ノ二以上協議ノ上開
- 會スルヲ得

- 第十一條 第十條ニ於テ決議シタル意見書等ハ縣廳又郡役所ニ呈出スルヲ得

第三章 通信

- 第十二條 町村若クハ聯合町村ノ勸業委員中一名ヲ以通信擔當者ニ充ルモノトス但
- シ通信擔當者ハ其勸業委員之ヲ擢舉シ縣廳及郡役所ニ届出ル者トス
- 第十三條 通信報告ノ事類ハ概テ左ノ各項ニ依ルモノトス
 - 一 氣候節ヲ失ヒ冷熱俄ニ至リ或ハ風雨水旱等ノ災害
 - 二 植物虫害動物ノ病患其蔓延傳染ノ徵候
 - 三 物産ノ生育及豐凶増減
 - 四 新ニ試驗セル植物類生育ノ景況及需用ノ適否
 - 五 種子苗木類交換ノ方法
 - 六 從來相惡ナリシ物産ノ改良セシモノ
 - 七 農業上ニ於テ新ニ一種ノ營業ヲ興セシモノ
 - 八 從來廢棄ニ屬セシ遺利ヲ拾收シ新ニ一物産ヲ興セシ類

勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

九 養蠶生糸製茶牧畜等ノ實況

十 農事ノ方法及器械ヲ改良シ水力風力火力及牛馬力等ヲ用其勞費ヲ減シタル類

十一 海外輸入品ニ代用スヘキ物産及新ニ輸出シテ外國ノ需用ニ適スヘキ物産ノ
増殖或ハ發見試驗ノ類

十二 其地ノ商業ニ盛衰ヲ來シタル所以ノ近因及遠因

十三 河岸場輸出入物品ノ増減

第十四條 第十三條ノ項目及之ニ準擬類推シテ郡役所或ハ勸業課ニ通信報告スルニ
當テハ其事ノ緩急利害ノ輕重ヲ斟酌シテ臨時報或ハ定期報ノ區分ヲナスヘシ

勸業委員選舉並處務順序心得

附 心得ノ二字準則ト修正ス可シ

第一條 勸業委員ノ人員及選舉方法ノ如キハ本年太政官第十三号布達第五條ニ據リ區
町村會或ハ聯合町村會ニ於テ評定ス可シト雖モ今其各地區々ニ涉ルノ弊ナカラシメ
ンカ爲メ左ノ各項ヲ舉示シテ參考ニ附ス

其一 勸業委員ハ其地ニ本籍アル者ニノ農商工事ノ一ニ慣熟シ若シクハ之ニ通曉シ
且其名望ト相當ノ財産ヲ有スルモノヲ選舉ス可シ

其二 選舉區域ハ實地景況ノ便否ニ在テ豫シメ之ヲ一定セスト雖モ其受持部ノ甚々
廣大ニ失セザラントヲ要ス但人員ハ凡一聯合町村ニメ三名ヲ極度トスヘシ

其三 勸業委員ハ實際其要ス可キ人員ノ二倍ヲ選舉セシメ以テ縣令ノ撰拔ニ供スル者
トス 附 其三 中人員ノ二倍ヲ選舉シ以テ云々ト修正ス可シ

其四 勸業委員ノ選舉會ヲ開カントスルモハ戶長ニ於テ豫メ會場及會日ヲ定メ郡役所
ヲ經由シ縣廳ニ届出少クモ十日前ニ之ヲ聯合區町村ニ公告スヘシ

其五 選舉會豫定ノ日ハ戶長役場ニ臨ミ百般ノ事務ヲ管理スル者トス

其六 戶長ハ豫定會日ヲ公告スルト同時ニ選舉人ニ向テ投票用紙ヲ頒布ス可シ

其七 選舉人ハ豫メ戶長ヨリ付與サレタ投票用紙ニ自己及被選舉人ノ住所姓名ヲ明記
シ之ヲ會場ニ出ス可シ戶長 選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開封シ其投票順序多數ヲ得タル
者何名ヲ以當選人ト假定スヘシ但投票會場ニ出スハ代人ヲ用ルモ妨ケナキ者トス
其八 投票畢ルノ後被選人ノ當否ヲ覆査シ若シ普通投票法ニ觸ル、者アルカ或ハ當撰
人之ヲ辭スルモハ順次多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツル者トス

其九 戶長ハ其當選人ノ住所姓名年齢族籍職業等ヲ記シ郡役所ヲ經由シテ縣令ニ上申
スル者トス

其十 第九項ノ場合ニ於テ郡長ノ意見アル者ハ之ヲ添申メ縣令ノ參考ニ供スル者トス
○農商務省指令 十六年九月八日
伺之趣認可候事 但附箋ノ廉々修正之上可届出事

○勸業諮問會其他之儀ニ付島根縣伺 十六年八月八日

勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

一官報第十九号(七月廿三日)登載東京府同第一項指令ニ農業會商業會工業會及勸業會ノ設置ニ付テハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ付シ其他ノ同業會設置ニ付テハ該同業者ノ評議ニ任スヘシト有之案スルニ同業會中有志者各一己人ノ資格ヲ以テ組織スル者アリ區町村又ハ聯合區町村ノ公共上ヨリ成立ヘキ者アリテ其有志者ヲ以テ組織スル者ハ固ヨリ第十三号布達ノ範圍外ニ屬ス可シト雖モ彼ノ區町村又ハ聯合區町村成立ツ者ニ至テハ便宜上ヨリ見ルモ理論上ヨリスルモ到底同業者ノ協議ニ放任スヘカラサル可キ乎例之沿海漁村ニ漁業會ヲ開キ養蚕地方ニ養蚕會(共ニ同業ナリ)ヲ設クルカ如キハ(本縣下石見國製紙業ノ如キ其盛衰消長ハ忽チ該國一般ノ損益利害ニ關スルヲ以テ之ヲ聯合町村ノ公共事業ト云フ亦敢テ不可ナカルヘシ)猶農業地方ノ農業聯合會ニ於ケル商業區ノ商業會ニ於ケルト一般ニ付其公共上ヨリ(一己人ノ資格ニアラサルヲ云フ)成立所ノ同業會ハ先ツ區町村會若クハ聯合區町村會ノ議決ヲ經セシムルモ不苦哉

一第十三号布達(本年五月)第八條ニ勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會議諸費ハ區町村ノ協議費ヲ以テ支辨ハ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルヲ得云々ト有之抑モ勸業委會ノ設置各會ノ設立タル先ツ區町村會若クハ聯合區町村會ノ決議ヲ經テ然ル后成立ツ可キ者ナレバ其設置方ヲ議定スルノ際必スヤ其費用ノ支辨法ヲモ併セ議セサル可ラス就テハ事業ノ設立方ハ區町村會ノ議ニ付シ其費用ノ支辨方ハ各業者ノ協

議ニ讓ルカ如キハ實際行ハレ易カラサル儀ニ付假令ハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業會又ハ農業會等ヲ設立セントスルハ先ツ其區町村會若クハ聯合區町村會ノ評決ヲ取リ(協議費支出ノ方法トモ)主事者(區郡長戸長等區町村會法ニ依リテ議案ヲ發シタル主任者ヲ云フ)之ヲ實施セントスルノ場合ニ當リ其部内ノ農業者若クハ商業者一同協議ノ上其費用ヲ負擔センヲ請フハ之ニ應スルヲ得ト云ノ精神ニ候哉一第八号(本年七月)御達中第十一項ニ勸業委員ノ選舉ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ選舉セシメ府知事縣令之ヲ撰拔スルノ場合アルヘシト有之右ノ場合(變則)ニ於テハ其辭令狀ハ府知事縣令ヨリ交附スヘキハ勿論ト被存候處單ニ投票高點者ヲ以當選人ト定ムル場合(正則)ニ於テハ其當撰狀ハ區戸長ヨリ(數町村聯合ノ者ハ郡長交附スル儀ト可相心得哉右相伺候差掛リ候儀モ有之至急御指令相成度候也

○勸業委員及勸業會設置準則ノ儀ニ付初木縣伺 十六年九月一日
本縣管内勸業委員設置要用ナルヲ以明治八年以來各郡凡勸業區ヲ分テ勸業委員ヲ配置シ官民ノ間ニ紹介シ農商工事ノ諸業ニ注意勸奨爲致且時期勸業設立ヲ要シ候ニ付客年八月諭達候處目下數十ヶ所ニ民業談會ヲ開設シ農商工其他都テ民業ノ利害得失ヲ審議シ頗ル勸業上ニ裨益有之候間本年五月太政官第十三号御布達ニ基キ其設置方法ヲ更正シ各郡長ニ指示シ同一ニ施行爲致度候間至急御認可相成度準則相添此段相伺候也追テ本文御認可相成候上ハ從前設置有之候勸業委員ハ廢止候間此段申添候也

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

勸業委員設置準則

- 第一條 每町村若クハ毎戸長役場管理内ニ於テ便宜勸業委員ヲ設置シ勸業上諸般ノ事ヲ擔當シ及ヒ郡長又ハ戸長ノ諮問ニ答フヘシ
- 第二條 勸業委員ノ撰舉方法及ヒ處務ノ順序ハ戸長ニ於テ方案ヲ設ケ之ヲ其町村會若クハ聯合町村會ニ付シ決議ノ上縣令ノ裁可ヲ受ク可シ
- 第三條 勸業委員ハ撰定若シ縣令ニ於テ不適當ト認ムルハ任期内ト雖モ改撰セシムルコトアルヘシ
- 第四條 勸業委員ハ縣令ノ裁可ヲ受ケタル處務順序ニ依リ請持部内ノ農商工事ノ進歩ヲ圖リ及ヒ縣廳郡役所ノ指揮スル處ノ事務并戸長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨ス可シ
- 第五條 郡長及ヒ戸長ニ於テ各勸業委員ニ諮問スルモノハ概テ左ノ事項ニ依ル可シ
 - 一 川陸運漕ノ利害道路開鑿修築ニ關スル事
 - 二 溝渠用惡水疏通ニ關スル事
 - 三 惡虫及ヒ有害鳥獸驅除ノ事
 - 四 動植物蕃殖及ヒ改良ノ事
 - 五 山林栽培及ヒ保護ノ事
 - 六 農工商事統計ノ事
 - 七 前六項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事

第六條 勸業委員ハ其町村及ヒ聯合町村ニ於テ開設スル勸業上各會ノ會員タルコトヲ得

第七條 勸業委員ノ旅費日當ハ其町村若クハ聯合町村ニ於テ議定シ相當ノ額ヲ支給スヘシ但町村及ヒ聯合町村ノ議定ニ依リ年給ヲ受クルコトヲ得

第八條 前條ノ費用ハ町村若クハ聯合町村ノ協議費ヲ以テ支辨ス可シ

勸業會設置準則

第一條 町村若クハ聯合町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ開設スルコトヲ得

第二條 前條ノ各勸業會員ハ町村若クハ聯合町村ニ於テ公撰ス可シ

第三條 各勸業會ハ其會則ヲ設ケ縣令ノ認可ヲ受ク可シ

第四條 各勸業會ハ農商務卿及ヒ主務ノ官署ヨリ勸業上ノ件ニ付諮問アルトキハ之ヲ審議ス可シ

第五條 各勸業會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

第六條 各勸業會費ハ町村若クハ聯合町村ノ協議ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スルモノハ此限ニ非ス

○農商務省指令 伺之趣キ認可候事 十六年九月十一日

○勸業委員並勸業會設置ノ儀ニ付能本縣伺 十六年八月廿七日

農工商ノ事業ヲ勸誘スルハ目今ノ緊要ニ候處本縣ニ於テハ去ル明治十三年ヨリ更ニ其費用ヲ地方稅ニ課シ農事通信委員若干名ヲ置キ專ラ改良蕃殖等ノ事ヲ獎勵セシメ時々實況通信爲致且春秋二回農隙ヲ以テ該委員ヲ招集シ勸業談話會ヲ開キ便益不尠候處十四年度ニ及ヒ縣會ニ於テ地方費多端民力難堪ヲ以テ該費用削除スルコトニ議決セリ依テ之ニ換ルニ各郡區內ニ勸業篤志者一名宛撰ヒ通信事務ヲ囑托致來候モ固ク無給ニテ督責ノ効無之猶其方法改正ノ見込ニ罷在候處本年五月十三号布達及御省八号布達ノ趣モ有之飽迄商業上ニ於テ便益ナル義ハ認定致候譯付不取敢及誘導候得共篤志者ノ奮起設置候運ニハ何分至兼候見込ニ付不得止一般ニ實施セシメ候都盛ヲ以準則ヲ制定シ上申候條御差問ノ廉モ無之候ハ、至急御認可相成度此段相伺候也

勸業委員及農工商會設置準則

第二章 勸業委員設置及處務順序

第一條 勸業委員ハ區町村若クハ聯合町村ニ於テ設置ス尤勸業委員一名ノ請持ハ戶長三區域ヨリ踰ヘサル者トス

第二條 勸業委員ハ其請持區域町村會若クハ聯合町村會議員於テ撰舉スル者トス

第三條 勸業委員ノ撰舉ハ戶長之ヲ管理スル者トス

第四條 勸業委員ハ其郡區役所於テ當撰狀ヲ相渡スヘシ

第五條 勸業委員ノ任期ハ滿二ケ年トス但滿期再撰スルヲ得

第六條 勸業委員ノ給料及旅費日當事務取扱費ハ區町村若クハ聯合町村ノ協議費ヲ以テ支辨ス其項目左ノ如シ付箋(ヘシ)

除刪箋付

一 勸業委員ノ給料ハ年給ニシテ一名拾圓乃至三拾圓迄トス

二 勸業委員ノ旅費日當ハ片道六里以上拾里迄ヲ以テ一日ノ並旅行六拾錢ヲ給シ片道二里以上六里未滿ハ日歸一泊ノ別ナク往復ニテ一日分並旅行ヲ給シ滞在スレハ滞在日當廿五錢宛ヲ支給スヘシ但シ三里未滿ト雖モ不得止宿泊スルルルハ滞在日當ヲ給ス

三 勸業委員一名ノ取扱費ハ一ケ年金三圓ヨリ五圓迄トス

第七條 勸業委員ハ專ラ請持部內農工商業ノ上進ヲ圖リ及縣廳郡區役所ノ指揮スル所ノ事務並戶長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スルモノトス其概目左ノ如シ

- 一 項 動植物蕃殖及改良
- 二 項 耕作ノ方法及農具ノ改良
- 三 項 惡虫及有害鳥獸驅除
- 四 項 水陸繁殖及捕獲網罟ノ改良
- 五 項 山野ノ遺利ヲ拾ヒ有益ノ物產ヲ興ス
- 六 項 博覽會共進會及物產陳列場出品ノ誘導

○勸業委員設置及處務準則並勸業會設置準則

- 七項 獸醫術ノ誘導
 - 八項 苗種交換及諸試驗ノ報
 - 九項 普通物産收穫ノ歩通ヲ定メ請持内戸長ヘソ通知
 - 十項 受持内ノ特有物産及製作品ノ一ケ年出來高統計ノ通告
 - 十一項 家畜傳染病ノ報告
 - 十二項 植物ニ就キ風雨虫害旱損等障礙ノ報告
- 第八條 勸業委員ハ郡區長戸長ノ諮問ニ答辨シ或ハ自己ノ意見ヲ陳述スルモノトス
其概目左ノ如シ
- 一項 農工商業ノ利害
 - 二項 山林栽培及保護法
 - 三項 道路港灣開鑿
 - 四項 溝渠溜池ノ修築
 - 五項 原野海面ヲ開墾シ廢田ヲ興ス
 - 六項 農工産及牛馬市場ノ設置
- 第二章 農工商會設置
- 第九條 區町村若クハ聯合町村ニ於テ農業會工業會商業會又ハ農工商ヲ併セタル勸業會或ハ同業會ヲ設置スヘシ

- 第十條 農工商會及勸業會ノ設置ハ區町村會又ハ聯合町村會ノ評議ニ付シ同業會ノ設置ハ該同業者ノ評議ニ任スヘシ
- 第十一條 農工商會及勸業會ノ諸費ハ區町村又ハ連台町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ同業會ノ諸費ハ該同業者協議支辨スル者トス
- 第十二條 前條各會ハ農工商ノ事ヲ講究シテ改良ヲ圖ル可シ
- 第十三條 各會ハ農工商事ニ付主務ノ官廳ヨリ諮問アルルハ審議ノ答上ス可シ
- 第十四條 各會ハ農工商事上公益ノ件ニ付主務ノ官廳ニ意見書又ハ報告書ヲ呈上スルヲアル可シ

諸物貨取引並仲仕賃錢

●慶應四年二月九日達

金銀取引并爲替取組等之儀御變革ノ折柄ニ付危踏候向モ有之哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候御新政ノ儀ハ万事條理相立候様トノ御主意ニ候間自今別テ無掛念是迄ノ通取引可致候万一心得違ノ者モ候ハ、御取糺ノ上御沙汰ノ品モ可有之候事

右之通京都ニ於テ御沙汰ニ相成候處當地ニ於テハ別テ金銀融通專一ノ事ニ付右御主意

○諸物貨取引並仲仕賃錢

厚ク相心得可申方一心得違ノ者有之ニ於テハ屹度其節可相糺候此旨相達候様醍醐大納言殿被仰聞候間大阪三郷町々へ不洩様可申渡事

●慶應四年四月裁判所達

此度金錢直増被仰出候翌日ヨ日用品類直段五六分カ甚敷ニ至候テハ一倍程モ引上ケ小前ノ者共別テ難澁ノ趣相聞候不埒ノ事ニ候早々右直増以前ノ物價ニ引下ケ候様可致候若不相用者ハ無用捨召捕可及吟味候
右之趣三郷町々中不洩様早々可觸知モノ也

●慶應四年四月十二日達

此度御一新ノ折柄大阪銅會所御取建相成候間舊來ノ通諸國出納ハ勿論古銅地銅ニ至迄右會所へ屹度可相廻事但大阪表へ運送ニ指支ノ廉有之候ハ、其旨銅會所へ可届出事

一外國人ハ勿論自國タリ共銅直賣不相成若シ心得違ノ者於有之ハ銅取上ノ上急度御沙汰可有之事

一荒銅諸山元ニテ勝手ニ吹立諸物等ニ仕立候義不相成候事

一諸國方大阪表へ荒銅積込ノ節ハ其船問屋カ員數并送り狀トモ右銅會所へ可届事

一荒銅古銅御買上ケ直段ノ儀ハ外國并諸方へ御拂ニ相成候直段ニ應シ時々相定候事別紙之通被仰出候間大阪三郷町々へ不洩様可觸知者也

●慶應四年五月十九日達

非現行

此頃搗米屋共之内米相場不相建又ハ近在ノ内霖雨洪水ノ爲メ田畑水入ニ相成リ或ハ不時季ニ附入恣心ヲ發シ搗米直段格外引上加之止米仕舞相場ノ節身分ニ應シ多少米穀買持居候テモ店先へ白米不差出殊ニ居宅ニ於テ不相變春米致シ居ナカラ米切ノ由申斷得意先ノ外不賣渡様致シ候ニ付小前ノ者難澁ノ趣相聞不埒ノ事ニ候尤右体不實ノ賣方致シ候者ハ疾ニ内調致シ有之候間嚴重ノ可及汰沙ノ處全ク一時ノ心得違ト存候間此度ハ用捨致置候間心底相改平日之通白米店先へ差出シ元直段カ相當ノ利徳ヲ取買渡可申自然同業ノ内米切ノ者へハ融通致シ遣シ小賣米差支へサル様可取計候且見聞ノ者差置候間若シ前條ノ趣不相守者ハ無用捨召捕可及吟味候事
右之通大阪三郷町中へ不洩様早々可相觸モノ也

●慶應四年七月八日達

諸國山ノ金銀銅古銅ニ至迄當地通書町鑛山局ニテ一手ニ引請候間銅吹屋其外トモ都テ銅取扱ノ儀ハ鑛山局カ差配可致ニ付銅ヲ携候者共ハ此旨可相心得事

一諸國カ相廻候金銀荒銅古銅共鑛山局ノ外ニテ賣買堅ク令停止候間廻リ次第多少ニ依ラス荷請人カ員數書付鑛山局へ差出シ差圖ヲ可請候

一大阪廻船ハ素カ何國ノ廻船ニテモ銅積取候ハ、廻着次第其船主船宿ノ者カ員數書付鑛山局へ可差出候

一職業ニ寄り銅望ノ者ハ商法會所へ賣下ノ儀可願出候事

○諸物貨取引並仲仕賃錢

非現行

非現行

右之條々觸知セ候上ハ銅廻着ノ節若船方ノ者方鑛山局へ不相届外へ積送り候歟又ハ鑛山局ノ外ニテ金銀荒銅買買於有之ハ其品取上ケ急度可申付者也

●慶應四年七月八日吹屋職之者共へ達

其方共儀是迄ノ通銅吹職申付候ニ付職方ノ儀ハ諸事鑛山局差配ヲ請ケ諸國山々々相廻候荒銅并古銅共吹方入念出灰吹銀出白目出鉛等迄明白ニ勘定可相立候事

一荒銅古銅共銘々ノ吹立高ニ應シ可割渡候間無油斷吹方可致ハ勿論吹方ニ渡置ケ銅等閑ノ取計ヒ致間敷方一何レノ内ニテモ紛失吹込等有之候ハ、一同ノ者引請辨納可申付候間互ニ申合セ不取締無之様可致候

一荒銅古銅共鑛山局工押隠シ内密ニテ吹替ノ儀堅ク致間敷候

右之趣堅ク可相守候若シ違背セシムルニ於テハ吹職取放急度可申付者也

●慶應四年八月九日達

此節於東京表追々米穀及騰貴候ニ付テハ右ヲ見込當地々同所へ米穀差送候者有之哉ニ相聞此上自然右所業及增長候テハ當地在當追々拂底ニ及ヒ諸民難澁致シ候間以來他國ニ米穀積廻候節ハ其段當府へ訴出見分請ケ可積出尤モ兼テ外國人へ賣渡候約定ニテ來ル十五日迄ニ積出候分ハ運上所へ其段訴出請差圖候上可積出候自然右之趣不相用積出候者有之候ハ、嚴重可及沙汰候
右之趣三郷町中不洩様可觸知者也

非現行

●明治二年正月廿一日達

春來他國へ米穀賣出候者共有之追々代價及騰貴窮民別テ難澁ノ趣相聞候間京師へ積送りノ外他國賣米ノ儀ハ伺ノ上取組候様可致候

一油ノ儀追々及騰貴春來紋リ元休職罷在油拂底方ノ事ト相聞候得共窮民別テ難澁可致候間京師へ積送りノ外他國賣米ノ儀ハ伺ノ上取組候様可致候

右之趣不相用者ハ嚴重可申付候右之通三郷町中へ不洩様可相布令モノ也

●明治二年三月晦日達

市中諸商人ノ中ニ立交ハリ俗ニ(トンビ)ト稱シ候惡黨モノ有之諸色相場ニ付キ四方ニ浮説ヲ申唱へ近日金札相場ノ儀ニ付テモ兩替屋共ノ間ニ立交跡方モナキ虛説ヲ申觸シ奸利ヲ貪リ人心ヲ動搖爲致一己ノ利欲ヲ逞シ良民ヲ惑ハセ候ノミナラス朝廷普ク御仁恤ニ付諸民融通ノ爲メ御發行相成候紙幣ヲシテ追日賤シク成シ困窮ノ小民共是カタメ如何計難澁ニ陥ラシムル條言語同斷不埒ノ至ニ候然レモ從來ノ流弊ニ相泥ニ候頑愚ヨリ相營候モ可有之候ニ付今日ヲ限リ悔悟改心致候ハ、嚴重ノ不及所置候得共猶相改メサルニ於テハ速ニ召捕斯ル惡徒ノ懲シメニ嚴刑可申付候間心得違無之正路ノ産業ニ立歸リ可申者也

右之趣三郷町中へ不洩様可相布令者也

●明治二年六月達

非現行

○諸物貨取引並仲仕賃錢

諸物價日ヲ追テ及沸騰候ハ正金札ノ區別ヲ付諸取引致候ヨリノ弊害ニ候處此度金札ノ儀ニ付尙又嚴重被仰出糶以正金同様流通相成候ニ付テハ諸物價ノ儀是迄正金ニテ賣渡候直段ニ引下ケ賣買可致候尤普請方諸職人日雇變結洗湯屋等モ物價ニ準シ賃錢引下ケ可申候且在方々持出候野菜物ハ作柄ニ應シ直安ニ賣渡可申候
右之趣相背ニ於テハ屹度可申付除市中ハ年寄在方ハ庄屋カ一町一村限り小前禾々マテ不洩様厚ク懇ニ申諭シ候様可致候
右之通町々無洩可相布令者也

●明治二年六月廿二日達

米穀他所積差廻シ置候處入津米ニモ差障候趣相聞候間明廿三日カ他所積相解候尤モ積出候節前以伺出免許受候様可致候
右之趣四組町々無洩可達モノ也

●明治二年八月二日達

米價非常ニ高直諸民難澁不少一時不得止儀ニテ是迄御定相場被相立置候ハ共追々諸方ト平均ヲ失ヒ却テ不融通ニ至リ候趣相聞ハ依之是カ自然相場ニ任セ各所鈎リ合正路ニ賣買可致候也
右之趣四組町々無洩相達スル者也

●明治二年八月十五日達

此頃搗米屋共ノ内ニハ糠ヲ水ニテ練リ米ニ交セ搗立米嵩サセ賣渡候者有之趣不持ノ事ニ候以來右休奸商ノ者ハ無用捨可及吟味候條早々改心致シ正路ノ渡世可致候若シ不相守者ハ可申出旨年寄行司共ハ申渡置候間彌心符違無之様可致候
右之趣四組町々無洩相達スル者也

●明治二年八月達

此度米穀出入ノ節仲仕共差取米惡弊令禁止候上ハ各仲仕賃ヲ米ニテ拂方致候儀ハ決テ不相成諸品賃錢見合ヲ以相當金錢ニテ取引可致候
右之趣四組町々無洩相達スル者也

●明治二年八月達

米穀ノ儀ハ人命最モ必要ノ品ニメ諸價ノ高下モ自然代價ニ關係致シ候處近年米仲買ノ内奸曲ノ者モ有之自己ノ利慾ニ拘リ諸藩拂米從來ノ流弊トハ申ナカラ聊ノ敷金差入糶買致シ代金皆渡ノ期日ニ至リ相場下落等致候節ハ右敷金流レトシテ忽チ及返米從テ米價騰貴庶民難儀ニ立至リ右ハ畢竟敷金些少カ前段弊害相生シ候趣相聞候向後敷金ノ儀ハ總代價ナニニ差入買請候様可致若シ右相背ニ於テハ可處嚴科者也

諸藩藏米陸揚或ハ藏出ノ御其者ニ限り仲仕ト唱候株体ノ風儀ニ成行何ノ無謂每俵サシヲ入レ多少援取り且堂島仲買ノ者モ諸藩廻米納屋米共右同様ノ風習有之趣方々惡弊ニテ米價彌々高直ニ相成庶民ノ難澁不少候爾來ハ右体ノ所業無之様可致候自然相背候者

於有之ハ前條ノ通可申付者也
右之趣四組町々無洩相達スル者也

並裂行

●明治二年十月廿六日達

町家此店外へ商品差置候儀不相成旨先達相布令置候處此節百姓下人共ノ内軒下ヲ借り請白米小賣店差出候者有之往來障リニモ相成候哉ニ付一切停止申付候間向後右跡ノ者有之候ハ、丁役人共相制シ追拂候様可致候尤モ荷ヒ賣致候儀ハ可爲勝手候間可成丈直安ニ賣拂候様可致候

新規搦米渡世相始候者搦米岸仲間へ加入不爲致難澁致シ候者有之趣ニ付右仲間年行司共へ右体ノ儀無之様申渡置候間猶年行司共へ引合通商司へ相願鑑札申請渡世相始メ候様可致候且加入料ト唱へ法外ノ金錢乞候者有之候ハ、可申出候

搦米岸仲間ノ内直安ニ小賣致シ候者ハ年行司共ハ外賣出直段同様ニ賣渡候様申談候由相聞候間詮議可致ノ處全ク風説迄ニ付猶豫致シ置候へ共事實ノ儀ニ候ハ、万民難澁ニ可相至儀ヲ厚ク汲量無斟酌可申出候
右之條々和布令候モノ也

●明治二年十月廿六日達

川口運上所前へ爲替商社御取建ニ付右請負望ノ者ハ來廿八日土木司へ罷出入札可致候右之趣四組町中無洩相達スル者也

●明治二年十一月大中少三年寄共へ達

此節諸品凡ニ割金モ元直段下落致有之候處小賣直段依然トシテ不引下其外髮結賃ハ格別引揚日雇賃モ同様ニ相聞候間其方共申合一町限直段賃取調不相當ノ者ハ引下サセ何々ハ何程直下々致候段早々可申出候事

●明治二年十一月達

近頃駄賃ノ儀格別高價ニ付此度詮議ノ上御用物共總テ

馬一疋付ケ價目三十六貫目迄此駄賃左ノ通り

道程壹丁ニ付

代錢六拾文

同 壹里ニ付

代錢一貫六百文

右之通相定候尤モ從來一ヶ年毎ニ商家荷物出入ノ多寡ニ應シ差遣候砌并金圓錢ノ儀向後可爲停止候若相背キ如舊乞受ケ又ハ馬子共ノ内聊タリ共酒手等食リ不法ノ所業有之候ハ、無斟酌早速可申出モノ也 右之趣四組町々無洩可相布令者也

並裂行

●明治四年八月諭達

人たる者他人の迷惑に構はず己ばかり利益を占んとせる時ハ他人もまた此方の難義に構いざらんとす然れハ我身の勝手ばかりを計るハ只人間世に接むの道理に外れたるのみならず終に我身を難義の地に陥るゝの道也今我人一家の生計を顧るに屋宅ハ工匠に賣り釜飯ハ陶治了賣り米穀ハ農に賣るが如き凡そ百般の需用皆之を其職々に仰き以て

○諸物貨取引並仲仕賃錢

人間生活の道を全ふす其之を得るの道は役人は役人の道を勤め農工商は農工商の業を脩め概ね一業を以て百需ふ交易する物なれば我も人も其交易の間に不均な様にと互に心配せずには有よりき筈なり殊に吾國は米穀を以て常食となすの風なるに依りて凡そ賣買の利益を計り傭工の賃錢を取るも皆こゝをもつて面々の口腹に宛んとするが基なれば米價沸騰するときは據らなく諸物價も昂らざるを得ずされ米價低くある時は諸物價も亦従つて下るべきに方今は諸品の價位に手間賃等米價を比すれば拔群高直にして諸人遞ひに迷惑はかりを唱ふるは是己れが迷惑のみを考へて他の迷惑を察せざるの謬りなり試みに己か迷惑を他の迷惑に思ひ比べて譬へば己の賃錢を稍引下て察よ人もまた其賃錢の賤きを喜びて雇ひに来るもの従前より多くなるべし是己の賃錢を下るの徒だ他人の爲めにあるのみならず即ち己が傭工に間斷なくして多く賃錢を得るれ道なり此理を推して面々の覺悟をなし凡そ諸品商人諸職人共萬つ米價を根元として其價を極め不公平の事なき様に必得べし儻シ此論告を容ひず一己の利欲を擅にする者の終に我身の難義を招き或は冥罰を受け或は明罰を蒙るべきもの也

●明治十二年八月廿二日天第二百六十号達
右之趣不洩様可示問尙又大中少年寄共ハ勿論仲問年行司棟梁等無油斷可致致諭事

●明治十二年八月廿二日天第二百六十号達
目今米價騰貴人民ノ困難不少依之常平局ニ於テ貯米時々入札相成候處之ヲ幸ヒニ一己ノ利ヲ謀リ候様ノ者有之候テハ不相濟儀ニ付必ス必得違致問敷右糶買ノ都度々々揭示

相成候筈ニ候條特リ米商人ニ限ラス糶買望ノ者ハ各自入札致シ一般人民ノ困難不相成様可致此旨管内無洩諭達候事

工務

諸物品製造及販賣

●明治五年三月廿八日申第百十一号達

今般東京市街總テ赤瓦ヲ以家宅築造相成候ニ付テハ煉化石余分入用有之候條常管内右販賣或ハ製造廻漕致度者ハ別紙ニ照準シ直段書見本瓦相添四月十五日限り可申出候事
右之趣管内無洩相達スル者也
(別紙零ス)

●明治十一年一月卅一日天第十九号達

諸職工ニ於テ海外ノ販賣ヲ見込諸品製造致候者其工案難決向ハ勿論或ハ相應ノ圖式ヲ望候者ハ其製造ノ品種書并本人ハ工案有之者ハ其略圖等相添申出候ハ、精々時ノ流行ヲ酌量シ製圖貸與可致旨勸商局方照會有之候條志願ノ者ハ當府へ申出候歟或ハ都合ニ因リ直子ニ該局へ願出候モ不答候條此旨各區職工業ノ者へ無洩相達候事

十一月六日
第九號
○

○

●明治十一年十一月八日天第百六十八号達

本年一月當府天第十九号ヲ以テ諸職工海外ノ販賣ヲ見込品類製造候者目下時好或ハ使用等明了ナラサルヨリ工案決シ難キハ勿論相應ノ圖式等要求候者ハハ勸商局ハ製圖貸與可致旨兼テ及布達置候處該願書面精密ニ涉ラス製圖ノ際差支ヘ候ニ付爾後出願ノ向ハ各種製品ノ原質寸尺并ニ仕上ケ代價ノ見込等其他必用ノ廉々分明記載可差出旨該局ハ照會有之候ニ付右出願ノ際工案等詳記ヲ怠リ無用ノ時日ヲ往復ニ費シ候テハ自然成功ノ期限ヲ誤リ需用者ノ屬望ヲ損シ候ニ付不明了ノ廉ハ一時ノ勞ヲ憚ラス巨細質問ヲ遂ケ各自伎倆ノ精工ヲ盡シ販路ヲ海外ニ擴張候様注意可致此旨管内無洩相達候事

●明治十三年四月廿一日地第三十七号郡區役所ヘ達
各郡區内ニ有之製造所別紙雛形之通取調來區廿五日 郡廿七日迄ニ可差出此旨相達候事

(別紙雛形)

一製造所

何拾ヶ所

内

上等

何ヶ所

大凡一ヶ年製造ノ品額五千圓以上トス

内紙製造所

何ヶ所

寒天製造所

同

硫酸製造所

同

中等

何ヶ所

大凡一ヶ年五千圓未滿ヲ中等トス

内

同

内

何ヶ所

内

同

下等

何ヶ所

大凡千圓以下三百圓以上トス

内

何ヶ所

右之通ニ候也

年月日

某郡區役所

進行

●明治十四年四月四日甲第六拾号達

植物肥料商又ハ製造商ニ於テ近來肥料中へ砂土等ノ雜物ヲ混和シ販賣スルモノ往々有之哉ノ趣抑肥料等ノ植物ニ於ル其施量ヲ誤ルルハ自然収獲上ニモ相關シ候義ニ付右等不都合之所爲有之候節ハ相當ノ處分ニ可及候條心得違無之様可致此旨布達候事

●明治十四年四月九日甲第六十五号達

今般商務局ニ於テ本邦固有ノ美術者ニ其工案難決向及ヒ精工品製造ノ目的ニ圖案ヲ需メ候者ニ限リ其技倆ヲ酌量シ相當ノ圖式ヲ新調貸與可致旨照會有之候ニ付テハ各職工ニ於テ借用望ノ者ハ製造品ノ原質寸尺及仕上ケ代價ノ見込等其他必用ノ廉々詳密記載シ常應或ハ都合ニ依リ直チニ同局へ願出候義不苦候條此旨布達候事

進行

○諸物品製造及販賣

現行

但明治十一年當府天第十九号布達ハ相廢候事

●明治十五年一月廿八日乙第十四号和泉國郡區役所戸長役場へ達
 和泉國各郡ハ舊來木綿產出ノ地ニシテ年々各地方へ輸出スルモノ無慮四百萬反ノ夥數
 ニ至ル其國益タル實ニ僅少ニアラストス此際一層勉勵ヲ加ヘ益々其產出ノ旺盛ヲ圖リ
 公益ヲ進涉セサル可ラサルハ勿論ノ儀ニ有之處近來不良ノ徒漫リニ眼前ノ小利ニ迷ヒ
 永遠ノ鴻益ヲ忘却シ間々濫製粗造尺巾ヲ短縮シ着用ノ効ヲ爲サ、ルモノ往々有之趣以
 ノ外ノ事ニ其カ爲メ良品ノ聲價ヲ墮シ需用者ノ信用ヲ失シ其極產地ノ衰頹ヲ來シ織
 元一同ノ損害ヲ招クハ眼前ノ事ニ候其弊ノ生スル所畢竟揀束ノ法未タ其宜ヲ得サルニ
 因ル依テ各織元同業者協議ヲ盡シ便宜申合規約ヲ設ケ尺巾ノ定度ヲ立漸次品質改良ノ
 法ヲ設クルニアラストハ向來ノ隆盛ハ期スベカラザル儀ニ有之候條深ク其趣旨ヲ體シ
 織元一同へ其旨懇篤説諭ヲ加ヘ地方ノ衰頹ヲ招カサル様取締方精々盡力可致此旨相達
 候事

現行

●明治十五年二月十五日乙第十八号郡區役所戸長役場へ達

火力又ハ蒸氣力ヲ用ヒ或ハ爆發性ノ物質ヲ扱フ製造所設置願ノ儀ハ其構造ノ如何或ハ
 人家疎密等ニ據リ實地公害ノ有無ヲ檢シ許否候儀ニ有之然ルニ其旨趣ヲ了解セス出願
 ニ先于既ニ地所ヲ買求メ或ハ構造ニ着手候向往々有之哉ニ相聞若シ其際ニ莅ミ許可無
 之ニ於テハ本人ノ損害不少義ニ付以來其許可ヲ俟ツテ諸般着手候様兼テ部内人民へ爲

心得示シ置ヘシ此旨相達候事

●明治十五年五月一日乙第五十六号 大和國郡區役所戸長役場へ達

兩國各郡ハ舊來木綿類產出ノ地ニシテ年々各地方へ輸出スルモノ無慮千萬反ノ多キニ
 及ハントス其國益タル實ニ僅少ニアラストス此際一層勉勵ヲ加ヘ益々其產出ノ旺盛ヲ
 圖リ公益ヲ進涉セサル可ラサルハ勿論ノ義ニ有之候處近來不良ノ徒漫リニ眼前ノ小利
 ニ迷ヒ永遠ノ鴻益ヲ忘却シ間々濫製粗造尺巾ヲ短縮シ着用ノ効ヲ爲サ、ルモノ往々有
 之趣以ノ外ノ事ニシテ其カ爲メ良品ノ聲價ヲ墮シ需用者ノ信用ヲ失シ其極產地ノ衰頹
 ヲ來シ織元一同ノ損害ヲ招クハ眼前ノ事ニ候其弊ノ生スル所畢竟揀束ノ法未タ其宜ヲ
 得サルニ因ル依テ各織元同業者協議ヲ盡シ便宜申合規約ヲ設ケ尺巾ノ定度ヲ立テ漸次
 品質改良ノ法ヲ設クルニアラストハ向來ノ隆盛ハ期スベカラザル儀ニ有之候條深ク其
 趣旨ヲ體シ織元一同へ其旨懇篤説諭ヲ加ヘ地方ノ衰頹ヲ招カサル様取締方精々盡力可
 致此旨相達候事

現行

●明治十六年五月七日乙第六十三号郡區役所へ達

德島縣下產出ノ製藍ニ來濫製粗造ニ流レ且販路競争等ノ所爲有之候ニ付勞今般全縣ノ
 勸奨ニ因リ全縣下ニ於テ新規藍商取締法ヲ設ケ隨テ該品取扱會所ヲ置キ將來該縣下產
 出ノ製藍ニ限り右會所ヲ經ズ輸出販賣候分ハ渾テ不正品ト可相認旨該縣ヨリ特ニ報導
 有之候條右ハ部内藍商及該業取扱候者等へ爲心得可相示置此旨相達候事

○諸物品製造及販賣

現行

●明治十五年十二月十六日諭第九号

米鹽ハ人生一日モ欠ク可ラサル要品ニ付特ニ俵造ニ注意可致ハ勿論ニ候處近來其製漸々粗造ニ流レ海陸運輸ノ際米鹽ノ散失スル者多ク國家ノ損失ヲ致ス不尠候條各自米鹽ヲ始メ水陸産ノ重ナルモノハ逐次其俵及荷造ヲ改良候條篤ク注意可致此旨告諭候事

現行

●明治十六年十二月廿七日乙第百八十六号郡區役所へ達

凡ソ人生需要ノ物品ハ其國開明ノ進度ニ隨ヒ自ラ變史セサルヲ得ス今ヤ本邦ニ於テ固有ノ製品ニ改良ヲ加ヘ又ハ外國輸入品ニ模造シ或ハ新發明ノ物貨ヲ製出スルモノ歳々多キヲ加フ然ルニ未タ其得失利害便否如何ヲ講究スルノ道備ハラサルヲ以テ就業ノ後動モスレハ得失相償ハス或ハ害ヲ世間ニ及ホスモノナキニシモアラス依テ自今右等ノ工事ヲ企ツルモノハ農商務省工務局ニ於テ講究實驗ノ道ヲ開キ可成其需メニ應シ當業者ノ望ミヲ満足セシメ候旨通知有之候條郡區役所ニ於テ能ク此意ヲ體シ起業者ヲ誘掖候條注意可致此旨相達候事

博物館及勸工場

現行

●明治八年四月九日第百十八号達

八年四月廿三日
第百廿三號
三月十七日
○三月十七日
示第六十
六號ヲ以
公立大阪
博物館ヲ
改稱スル
ト

今般府下東大組第七區内本町橋詰町四十三番地ニ於テ當年々博物館ヲ設置候ニ付別冊概則條例頒布候條商品ハ勿論古器物船載之諸品ニ至ルマテ之ヲ藏スル者右出品條例ニ倣ヒ成ルヘク丈出品可致事 但當年開場日限之儀ハ追テ可相達事 右之趣管内無洩田達候事

大阪博物館概則並條々

此ニ設置スル博物館ノ旨タルヤ觸百物ノ奇觀ヲ以テスルニアラス各地ノ物産品位ノ精粗直價ノ昂低博ク比較ヲ取ルニ便ナラシメンヲ要ス抑々我阪ノ地タルヤ海陸四達便チ全國ノ中央ニ占メ四方物品ノ來輸スル恐ラクハ之カ右ニ出ルナシ故ニ該地ノ商估多クハ坐シテ來ルヲ待ノ風アリ從來得意ノ取引ト稱シ彼地ニ産スル物ハ此家ニ非サレハ來ラス此家ニ出ルモノハ某ノ地ニアラサレハ輸セス互ニ其一ヲ株守シテ他ノ如何ヲ知ラヌ是カ爲ニ商客ノ外來スルモノ一般輸入ノ産物原質ノ善惡品位ノ精粗ヲ通觀スルニ便ナラス彼我共ニ舊ニ安シ新ヲ追ヒ精ヲ競フノ情ニ乏シ故ニ今此場ヲ設ケ各地ノ物品ヲ蒐集シ其原由自價ノ當否チ一目ノ下ニ瞭然タラシメ其精粗ヲ評判シ其直價ヲ審定シ四方商客ノ便利ヲ取リ府下賣買交換愈盛大ナラシメ記スルノミ

概則

第一條 此會場ヲ創立スルハ内外古今ノ物品ヲ陳列シ歷代ノ沿革ト現今經濟ノ形狀トヲ徴シ廣ク衆庶ノ縱覽ニ供シ知識ヲ進メ商品ヲ競ハシムルタメナリ

○博物館及勸工場

第二條 明治七年ヨリ以往十ヶ年間開場スヘキ官許ヲ得タリ因テ當府下東大組第七區内本町橋詰町四十三番地ニ於テ開場ス

第三條 會ニ大小ノ二種アリ毎年三月十五日カ六月廿二日迄一百日間ヲ大會トシ其餘ヲ小會トス小會ハ一六開場セス三八ノ日ヲ以テ開場ス

但毎年一月六日ヲ以テ開場ノ始トシ十二月廿一日ヲ終トス

第四條 三月十五日カ八月卅一日迄八午前八時ニ場門ヲ開キ午後三時大會中ニ閉ツ其他七ヶ月間八午前九時ニ閉キ午後三時ニ閉ツ

第五條 該場一切ノ諸事ヲ取扱カ爲メ事務局ヲ設置ス

第六條 場ニ入ル者ハ必ス一人一枚ノ通券ヲ持ツヘシ券ノ價小會ハ新貨三錢大會中ハ五錢トス尤嬰兒ハ之ヲ用ユルニ及ハス

第七條 門側ニ通券賣捌所ヲ設置シ以テ覽客ノ購求ニ應ス

第八條 券ヲ見テ門ヲ入レ券ヲ收テ門ヲ出ス若シ券ヲ遺失スル者ハ更ニ一枚ヲ買フテ償フヘシ

第九條 大會中ハ物品差出人カ若干名ヲ選舉シ検査掛トナシ物品ノ精粗ヲ檢セシム

第十條 物品ヲ出ス者來リ觀ル者俱ニ某物品ニヨリ質問答問正誤教示スヘク思フ所アル者ハ其意趣ヲ記シ事務局ヘ渡スヘシ事務局ハ之ヲ受取り其品ニ添置クヘシ

第十一條 諸術ノ發明ハ勿論我邦未嘗有ノ物品ヲ製造シ公益ヲ裨補スル者ヘハ褒賞ヲ

與フヘシ

第十二條 該場ニ於テ時々陳列品ノ目錄ヲ作り發兌ス

會場條例

第一條 會場ヲ分テ二場トシ一ヲ商品場一ヲ名品場トス又之ヲ各三區トス一ヲ天造物一ヲ人工物一ヲ古器物トシ陳列品ノ部類ヲ定ムヘシ

第二條 商品場ハ現今内外ノ物品ニノ製造シタル者未タ製造セザル物等總テ日用賣買ニ係ル品ヲ陳列スヘシ

第一節 當場ニ於テ物品ヲ修飾列置シ或ハ新陳更換スルハ品主隨意ニ出ルト雖此事務局ヘ達スル上設施スヘシ尤遠隔ノ地方又ハ之ヲ煩ハシク思フ者ハ該場一般ノ方法ニ據リ取扱フヘシ

第二節 場中ニ設置スル玻璃蓋ノ箱及ヒ玻璃戸棚ハ品主ノ望ニ依リ之ヲ貸與フヘシ但箱并ニ戸棚等借料ハ毎月末ニ事務局ヘ差出スヘシ

第三節 陳列ノ品熱覽セント欲スル者ハ其旨監護人ヘ報告ノ上隨意視察スルヲ許ス第三條 名品場ハ諸人ノ愛藏スル内外古今ノ物品ニシテ歴代ノ沿革ヲ徵スルニ足ルモノ及ヒ新製ノ器物等ヲ陳列スヘシ

第一節 當場ニ於テ物品ヲ修飾列置スル該場ノ務トス尤モ特別ノ趣向アル者ハ品主自ラ修營スヘシ

第二節 同類ノ物品ハ舊ヨリ新ニ移ル順序ヲ逐ヒ列置スヘシ

第三節 場中ノ物品ハ一切覽客ノ抵觸ヲ禁スヘシ

第四條 禽獸魚蟲草木類生活アル者ハ大會限リ別ニ一場ヲ設ケ列置スヘシ

第五條 陳列ノ物品ヲ見テ更ニ之ヲ注文シ或ハ商法ヲ取組ントスル者アラハ懇々之ヲ導キ又ハ其品主ヘ報知スルハ該場ノ義務トス

出品條例

第一條 凡ソ物品ヲ該場ヘ寄スルヲ開場前三十日ヨリ訪メ十年間終期ナシ

第二條 物品ヲ寄ル者ハ目錄ヲ添ヘ大阪博物館ノ名宛ニテ送ルヘシ受取返戻共同所ニ於テ取扱フヘシ

第三條 物品ヲ該場ニ寄來ラハ事務局々預リ券ヲ渡シ置キ後日何時ニテモ其券ト引換ニ品物ヲ返スヘシ

第四條 凡ソ物品ヲ出サントスル者ハ内外人ヲ論セス先ツ賣物ト所藏物トノ區別並ニ大會限リト大小會共陳列スヘキ物トテ明白ニ別ツヘシ

第五條 賣物トハ廣ク覽客ノ購求ニ應スル爲メ遠近ノ商估各自所持スル物品ノ見本ヲ顯ス物ヲ云フ

第一節 賣物ハ必ス其代價ヲ記スヘシ代價ハ新貨ヲ以テ何圓何錢何厘ト墨ニテ書記スヘシ洋價ハ米國金兩ヲ以テ定メ何(ト)ラ(何)セント(ト)記スヘシ内外金兩ノ文字

ヲ翻譯スルハ該場ノ務タルヘシ

第二節 其物品賣買スル時高下セサル的當ノ價ヲ記スヘシ尤日々ノ相場ニ拘ルモノハ時價ニ從フモ妨ケナシ

第三節 賣物ヲ陳列セシ后品主儲蓄ノ同品殘ラス賣却セシキハ速ニ其旨ヲ事務局ニ届出預リ券ヲ返還シテ見本ヲ引取ルヘシ

第四節 賣物ヲ陳列スル者ハ其場ノ借料ヲ出スヘシ但箱並ニ戸棚等借受ル者ハ此限ニアラス

第六條 所藏物トハ諸人受藏スル珍奇ノ品ニメ尋常坊間ノ物ト異ナル者ヲ云フ

第一節 所藏物ヘ價格ヲ記スト記サハルトハ其持主ノ隨意タルヘシ但シ之ヲ記サントスル者ハ朱ヲ以テ書スヘシ

第二節 所藏物ト雖モ其品ニ依リ賣却セントスル者ハ必ス其代價ヲ書シ其趣ヲ事務局ヘ兼テ告ケ置クヘシ

第三節 所藏物ヲ陳列シタル場所ノ借料ハ出スニ及ハス但賣却品ハ此限ニ非ス

第七條 大會限陳列ノ品ヲ寄ルヲ會前三十日ヲ訪メ百日間ニ終ル之ヲ取纏メ歸ルヲモ亦會後三十日ヲ限ルヘシ

第八條 開場後大小兩會陳列スヘキ物品ハ寄來ルヲ取歸ルヲノ期日ナク只品主ト該場ノ熟議ニヨルヘシ

- 第九條 品主物品ノ檢査ヲ受ント思フ者ハ其廉書ヲ添ヘ旨趣ヲ事務局ヘ告クヘシ
- 第十條 大切ノ物ハ勿論粗賤ノ品タリモ破壊シ易キカ又ハ忌避アル物ハ夫々の當ノ器ニ入レ差出スヘシ
- 第十一條 危険ナル(火藥ノ類)或ハ穢レタル物ナトハ擯斥スルコトアルヘシ
- 第十二條 大ナル器械物品ヲ出サントスル者ハ畧圖又ハ詳記シタル書面ヲ以テ豫メ該場ヘ送達ノ日ヲ約スヘシ
- 第十三條 禽獸蟲魚草木等生タル物ヲ出サントスル者ハ相當ノ器ニ内レ必ス之ヲ生養スルノ方法ヲ記スヘシ但其方法ヲ以生養スルト雖モ萎枯斃死スルハ品主ノ損失トス
- 第十四條 大鳥猛獸ノ類ハ豫メ該場ヘ送達ノ日ヲ約スヘシ
- 第十五條 該場ノ所轄タルヘキ動植二物ノ外生植物ノ陳覽ハ大會限リト定ムヘシ
- 第十六條 菓物業蔬ノ類大小會ヲ論セス暫時ノ陳覽物ト定ムヘシ
- 第十七條 茶紙煙草砂糖及生糸直綿綿麻等ノ類其他ノ產物ヲ寄ル者ハ地名製造人姓名及元直段ヲ記スヘシ但一ヶ年產出高概表ヲ記シ特ニ効用アル物ハ其事由ヲ添ユヘシ
- 第十八條 鑛石ノ諸類ハ之ヲ得ヘキ山名開坑人姓名等ヲ記スヘシ但書前同
- 第十九條 木材ハ各種木性工目ヲ著ハス爲ナレハ巨材ハ板ニ取リ小木ハ丸ノ儘ニテ長サ三尺前後ニ斷截シ其木名ヲ記スヘシ
- 第二十條 各種植物油ヲ搾ヘク糖ヲ製スヘク藥用ニ充ツヘキノ類新發明ニ出ル者ハ其

- 花葉一枝ヲ腊葉トナシ產所並ニ樹名ノ方言ヲ記スヘシ
 - 第廿一條 器械ノ類ハ未タ成効セスト雖モ多年研究ニ關係スル物ハ雛形ヲ作り其趣ヲ記シ陳列スルモ妨ナシ
 - 第廿二條 會場中ニテ出品ヲ盜マレ又ハ傷損スルコトアル片ハ該場ヲ辨償スト雖モ火災地震等非常ノコトハ物主ノ損失タルヘシ
 - 第廿三條 物品ヲ送り又ハ返ス時ノ運賃ハ其人ノ自費タルヘシ
但重大ノ器械物品ハ當府下限リ運搬人夫ヲ與フヘシ
 - 第廿四條 出品監護ノ爲付添人アル片ハ場門出入等總テ該場ノ監護人ト同權タルヘシ
 - 第廿五條 古器物及新發明ノ器械等ハ製造ノ年月并ニ作者ノ姓名ヲ記スヘシ
但製造年月姓名不分明ノ品ハ此限ニ非ス
 - 第廿六條 府下產業ノ者新ニ製造ノ器械物品ハ必ス一箇ヲ寄センヲ要ス
- 紀元二千五百三十五年明治八年(月日欠)

●明治八年四月十三日第百廿三号達
 當府本年第百十八号ヲ以及布達候博物場開場之儀當年ハ初發ノ儀ニ付九月十日及十一月八日迄六十日間大會相開候事
 右之趣爲心得管内無訛相達候事

●明治八年八月十三日第二百九十二号達
當府下博物場開場日限之儀本年第百廿三号ヲ以及布達置候所普請中烈風之物ニ右場所
破損致シ定日開場ニ至リカキ候ニ付延期致候條追テ開場日限相達候迄出品等見合可申
此旨管内無洩相達候事

●明治八年九月二十四日地第百壹号市中區戸長へ達
本年當府第二百九十貳号ヲ以府下博物場風災ノ爲メ場所破損ニ付開場延引就テハ出品
ノ義見合可申旨相達置候處追々取繕ヒ方出来ニ付出品ノ儀各区内へ可相達候尤開場日
限ノ義ハ追テ更ニ可相達候事

●明治八年十月四日第三百三十八号達
當府下博物場開場之儀先頃風災ニ付延引之儀本年八月十三日第二百九十二号ヲ以相達
置候處來ル十一月一日ヲ三十日迄ハ日々小會開場其餘ハ該場條例ノ通一六三八ヲ以テ
開場之事 右之趣管内無洩相達候事

●明治八年十月九日第三百四十五号達
來ル十一月一日ヨリ三十日マテ府下博物場小會相開候旨當府第三百三十八号ヲ以テ相
達置處右三十日間ハ大會開場ニ改定候事 右之趣管内無洩相達候事

●明治八年十二月十八日地第百五拾号市郡區戸長へ達
當府下ノ生産ニシテ各所輸出ノ物品段々有之候處右製造ノ精粗品位ノ高低ニ依リ輸出

ノ多寡ヲ生シ自ラ地下ノ盛衰ニ關シ候義ニ付各自盡力可致ハ勿論ニ候然ニ其精粗ヲ認
ルニハ各所出產同品ノ比較ヲ取ルニ在リ今幸ニ大阪博物場ヲ始メ近傍西京奈良等ニ於
テモ博覽會相開大ニ物産ノ精粗ヲ評シ候折柄ニ付精々出品致シ府下ノ生産一層精良ニ
シテ盛大ニ相成度就テハ博物場懸リヨリ猶悉詳可申該義モ有之候間此旨各区内へ無洩
可相達候事

●明治九年一月十九日地第六号市郡區戸長へ達
大阪博物場開場當年ノ義都合ニ依リ小會ハ本月廿八日ニ終リ更ニ大會三月十五日カ百
日間開場其餘ハ都テ條例ノ通施行ノ旨申出候ニ付此段相達候條區々無洩通知可致候事

●明治九年二月十九日地第卅三号市郡區戸長へ達
博物場ノ儀ハ府下商估ノ賣買ヲ盛大ナラシメ人智ヲ開達スルノ基ニ付當年ノ義モ今一
層勉勵出品可致様各区内無洩諭達可致候事

●明治九年六月八日地第九十二号市郡區戸長へ達
大阪博物場本年大會ノ義當月廿二日ニテ終會都合ニ依リ更ニ七月一日カ兼テ定日ノ通
一六三八ヲ以テ小會相開候申出候ニ付此段爲心得相達候事

●明治九年十月廿八日第二百八十二号達
府下本町橋詰博物場ノ儀都合ニ依リ來ル十一月十二日カ明治十年三月十四日迄開場同
十五日カ例年之通大會相開候旨申出候條出品ノ儀精々勉勵候様可致事

○博物場及勸工場

右之趣管内無洩相達候事

●明治十年一月十七日地第五号市郡區戶長へ達

當府下博物場例年之通三月十五日ヨリ百日間大會開場候ニ付府下諸物産及目今賣買上ニ關スル物品盛大出品ヲ要シ候條必ス一區毎ニ取調二月十五日限り日録可差出此旨各區内無洩可相達候事

●明治十年六月廿二日地第八十一号市郡區戶長へ達

大阪博物場本年大會ノ儀都合ニ寄り更ニ七月二十二日マテ日延申出候ニ付此段爲心得相達候事

●明治十年七月廿一日地第九十号市郡區戶長へ達

府下博物場小會ノ儀一六三八日ヲ廢止更ニ秋分ニ至リ六十日間開場日限ノ義ハ追テ同場々可申出趣ニ付此旨各區内無洩可相達候事

●明治十年七月廿八日第百七十二号達

當府下博物場開場ノ義更ニ左ノ通相改候旨申出候條此旨爲心得管内無洩相達候事

大會每年 三月十五日ヨリ 百日間 小會每年 十月一日ヨリ 六月廿二日マテ 十一月廿九日迄 六十日間

●明治十一年一月廿二日地第六号市郡區戶長へ達

來ル三月十五日ヨリ例年ノ通博物大會開場相成候ニ付自家職業ノ物品ハ勿論所藏ノ古

器珍玩等一層勉勵出品可成就テハ出品ノ有無二月十日迄ニ該場へ可申出此旨諭達候事

●明治十二年二月十日天第廿一号達

當府下博物場例年ノ通來ル三月十五日ヨリ百日間大會開場候ニ付精々出品可致此旨管内無洩相達候事

●明治十二年五月廿九日天第百七号達

大阪博物場大會六月廿二日閉場期限ノ處來ル七月廿二日迄延期候條此旨管内無洩相達候事

●明治十二年六月廿四日天第百三十七号達

大阪博物場本年七月廿一日迄開會ノ處同場近傍追々虎列剝病蔓延ノ景況ニ付當分ノ内閉場候條此旨管内無洩相達候事

●明治十二年十二月十九日天第三百九十六号達

長崎縣下長崎公園内ニ有之博覽會本館ヲ以テ博物館トシ本年十一月二日ヨリ毎日曜日開館候旨全縣應ヨリ通知ノ次第有之候條有志ノ者ハ精々出品可致該規則書見閱致度者ハ當府勸業課へ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十三年一月八日天第二号達

當府下公立博物場都合有之本年ニ限リ南御堂即難波別院ニ於テ例年ノ通三月十五日ヨリ百日間開場候條精々出品可致此旨管内無洩相達候事

現行

非現行
十二年
第十百
十六號
年天第
百五第
號天第
三十九
九號參
○十三
天第九
一號連
以廢止

●明治十七年三月七日示第六十六号達
公立大阪博物館ノ義自今府立大阪博物館ト改稱ス 右告示候事

●明治十一年八月十日天第百二十号達

當府下製出ノ品類使用ノ便ヲ謀リ工作ノ精ヲ極候凡需求者品等較視評價ノ便ヲ闕キ候
方粗製濫造從テ品價ヲ墮シ候ハ遺憾ノ至ニ付這回供需双功ノ便ヲ謀リ第三大區二小區
江戸堀南通三丁目廿四番地於テ勸工場ヲ設置シ管下ノ製産ヲ蒐集一場ニ羅列シ點檢開
引ノ具ニ供シ内外需求者ヲシテ一目瞭然精粗鑑別ノ便ヲ與ヘ從テ工藝ノ精巧ヲ振作シ
販路ノ擴張ヲ要シ候旨趣ニ候條篤ク此意ヲ體認シ左ノ規則ニ照準各自競テ出品可致此
旨管内無洩相達候事但左ノ條款解シ難キ廉ハ第二課へ問合スヘク又出品期日ノ義ハ該
場建築落成ニ際シ更ニ可相達事

大阪府勸工場規則

第一條 出品者心得

- 第一項 出品セント欲スル者ハ願書差出スニ及ハス直チニ其物品ト實印ヲ持參シ該場
事務局へ申出ヘシ然ルルハ該局ヨリ預リ証書ヲ交付スヘシ但該品注文アルルハ何程
ノ日數ニシテ何程ヲ製出スヘキ旨出品ノ際申出置ヘシ
- 第二項 列品ヲ引換ヘ或ハ取下ケ共第一項ノ通願書差出スニ及ハスト雖凡曾テ交付ス
ル所ノ預リ証書ヲ持參シ該局ノ調査ヲ經ルニ非サレハ許サス

- 第三項 出品ハ常分動植物及ヒ危險ノ恐アルモノヲ除クノ外府下ノ製産物ハ都テ陳列
スルヲ得ヘシ但飾付ノ爲メ坪數ヲ要スル者ハ先ツ其旨申出差圖ヲ受クヘシ
- 第四項 重大ノ物品ニメ運搬裝置ニ便ナラサル者ハ其形狀ヲ摸造或ハ摸寫メ出スヘシ
- 第五項 出品ノ類ニ依リ用方功能産所作人ノ姓名ヲ尋問スルコトアルヘシ
- 第六項 出品都テ其製造ニ注意シ堅緻精良ニシテ能ク時好ニ適スヘキヲ考案シ且ツ成
ルヘク廉直ヲ要スヘシ但シ數箇注文アルルハ何個以上ハ定價何分ヲ減シ製出スルヤ
否ヲモ申出置クヘシ
- 第七項 列品ノ手入及ヒ變色等ニヨリ引換或ハ取下ケ共出品者ノ望ニ任スヘキニ付必
ス第一項預リ証書ヲ持參シ該局ノ調査ヲ經ヘシ
- 第八項 物品陳列方并ニ掃除等都テ出品人ノ手數ニ及ハサルヘシ
- 第九項 出品ヘハ必ス一品毎ニ其價值ト住所姓名トヲ記シタル小札ヲ貼付スヘシ若シ
代價ノ高下ヲ生スルルハ無遺漏其時々該場へ申出小札ヲ交換スヘシ
- 第十項 物品賣却及ヒ結約濟ノ節ハ其旨出品主へ報知スヘシ此場合ニ當リテハ再ヒ其
品ヲ陳列スヘシ
- 第十一項 賣却代金ハ前月二十日方其月二十日迄ノ分ヲ計算シ毎月廿五日方廿八日迄
ノ間品主へ下渡スヘシ依テ第一項ノ預リ証書ト代金調取証書ノ二通ヲ以テ該場へ持
參シ受取ルヘシ但二十日以後ノ賣却ニ係ル分ハ翌月末ニ下渡スヘシ直チニ受取度者

○博物館及勸工場

- ハ申出ニ因リ其意ニ任スヘシ
- 第十二項 該場列品賣買約定スル手附金ハ其都度品主ヘ下渡サス皆金請取ノ上第十一項ノ手續ヲ以テ出頭スヘシ
- 第十三項 陳列ノ見本ニ據リ製造ヲ注文スル者アルハ製造期月等明瞭ニシテ支ナキ品類ニ限リ該場於テ結約シ該品一割以上ノ手附金ヲ受取出品主ニ交付スヘシ出品主ハ精製ヲ注意シ其見本劣ラサルヲ期シ引渡シ期日正午マテ該場ニ運搬シ授受ノ際ハ本人出頭之ヲ擔任スヘシ
- 第十四項 注文スル者出品主ト直接ニアラサレハ辨シカタキ者ハ求需人ヘ添書シテ出品主ニ差向クヘシ然ルルハ万般實直ヲ旨トシ價格等皆テ該場申告ノ額ヨリ騰貴ナサシムヘカラス
- 第十五項 場中ノ品物ヲ保全シ偷竊ヲ防キ非常ヲ警ムル爲メ巡查ヲ晝夜巡監セシム
- 第十六項 出品ヲ保護監督スルノ懈リナシト雖モ天災火盜難其他人力ノ及ハサル非常ノ損害ハ該場之ヲ借フノ責ニ任セサルヘシ
- 第十七項 不注意其他故意カシテ物品失損スルノ蹤跡顯然タルモノハ其人ヨリ償還セシムルコトアル可シ
- 第二條 來勸者心得及ヒ賣買或ハ注文ノ手續
- 第一項 該場ハ府下ノ物産ヲ勸奨シ至當ノ價格ニ歸セシメ普ク販賣流通ノ途ヲ開ク爲

- メ設クル所ナレハ無代價縱覽ヲ許ス
- 第二項 縱覽ハ毎日午前第八時午後第四時 長日ハ午前第七時ヨリ午後第五時ニ至ル迄トス但大祭祝日ノ外都テ休場ナシ
- 第三項 列品ヘ手ヲ觸ルハ許サスト雖モ親シク觀ンコト欲スルハ其旨監護人ヘ申入レ差圖ヲ受クヘシ
- 第四項 列品ヲ買ハント欲スルハ看護人ヘ申入レ代金ト交換スヘシ但現品ヲ賣買約定ナシ手附金ノミヲ入ルモノハ其日カ卅日間ヲ以テ物品受取ノ期限トナスヘシ
- 第五項 列品ノ見本ニ據リ製造ヲ注文セント欲スルハ看護人ヘ申入レ授受期日等ヲ結約スヘシト雖モ都府ニ因リ出品主ニ添書シ直ニ約定ナサシムルコトアルヘシ
- 第六項 總テ約定期限ヲ過キ物品受取ヲ申出サルモノハ其手附金ヲ沒収シ解約タルヘシ但總テ手附金ハ該金高ノ一割以上タルヘシ
- 明治十二年十月十一日天第三百四十六号達
- 當府勸工場落成ニ付來ル十一月一日開場候條本月廿日カ各自就テ出品可致此旨管内無洩相達候事但出品手續ノ儀ハ明治十一年天第百廿号布達ニ照準可致候事
- 明治十二年十月廿七日天第三百五十九号達
- 昨十一年當府天第百廿号ヲ以テ相達置候勸工場規則第二條第二項左ノ通改正候條此旨管内無洩相達候事

第二項 縦覽時限ハ三月十五日カ九月十四日マテハ午前第八時カ午後第四時迄トシ九月十五日カ三月十四日マテハ午前第九時ヨリ午後第三時迄トス但毎月曜日及大祭祝日ヲ以テ休場スヘシ

●明治十二年十二月二十二日天第三百九十九号達

客年當府天第百二十号ヲ以及布達置候勸工場規則第二條第三項但書中左ノケ條增加候條此旨管内無洩相達候事

每年 十二月廿五日ヨリ 閉場
一月七日ヨリ 開場

●明治十三年六月卅日天第九十一号達
府立勸工場本日限り廢止候條此旨布達候事

博覽會

●明治三年六月廿五日太政官布達
イキリス國都府ロンドン於テ來未年三月頃カ毎年五ヶ月間博覽會有之右ハ各國商人銘々製作物品ノ精巧ヲ示シ詭物等可引請爲ニ有之候候テハ府藩縣商人共新ク詭物等可引

請見込有之目力ヲ以其品物右會場へ差出度者ハ別紙規則書熟覽ノ上管轄府藩縣ヨリ來ル七月中外務省へ可願出事
(別紙規則書畧ス)

●明治五年二月達
別紙摺物ハ外務省ニ有之候間何部ニテモ申立次第相渡可申事

來ル三月十日カ四月晦日迄京都府本願寺知恩院建仁寺ヲ會場トシ當時海外諸國ニ專ラ行ハル、博覽會有之候ニ付新器械ハ勿論所持ノ名物寄器妙品社寺寶物什器其他品目書ノ通本月廿日マテニ可差出之段先達布告ニ及ヒ置候處未タ何等不申出向不少社寺等ノ儀ハ寶物古器ノ類モ多分可有之哉ニ候得者右有無トモ來廿五日限り可申出候事

●明治五年二月申第七十一号達
先般御布告相成候澳國維納府博覽會へ品物差出方ニ付實地試驗閱歷トメ右事務局御雇山本藤十郎田中獲之助兩人出張當管内巡回取調候條休泊渡海其外臨時人足雇人等諸事不差支様取計可申尤巡回中博覽會へ可差出物品ハ其場ニヨリ當府へ持出候様兩人可及差圖義モ可有之候間不都合無之様兼テ相心得居可申事
右之趣管内無洩相達スル者也

●明治五年二月申第七十七号達

京都府下三井八郎右工門小笠善助熊谷久右衛門會主ニテ來ル三月十日カ四月晦日迄五十日之間本願寺知恩院建仁寺之三寺ヲ以會場トシ當時海外諸國ニ於テ專ラ行ル、博覽

會ヲ催シ度段京都府へ願出則許可ヲ得猶内國ハ素々廣ク外國人へモ此會ニ來集シ新奇
機巧之器物等差出候様御布告相成度段同府々太政官へ伺出候處伺之通夫々御達ニ相成
候旨申來候抑博覽會ハ人之智識ヲ開キ學術工業ヲ發明シ加之内外有無交易ノ通致ヲ擴
メ其裨益不少儀ニ付得卜此理ヲ了解シ新機器古器ハ勿論所持ノ名物奇器妙品并ニ社寺
ノ寶物什器其他別紙品書ノ中差出度者ハ其品目書記シ本月廿日迄ニ當府又ハ大年寄迄
申出ヘシ差送方ノ手順且途中等ノ儀ハ万端於當府世話致シ可遣候尤開場中ハ京都府ニ
於テ警衛人數差出候旨ニ付危疑ノ心ナク精々數品ヲ出シ外國人ニ對シ御國美ヲ輝ス此
大一舉ヲ助ク可シ且其節品物賣捌度者ハ勿論其外ノ品タリ凡職業ノ差障ニ不相成様操
合セ上京致シ會場一覽互ニ智識ヲ磨勵シ學業之裨益ヲ可心掛候委曲之儀ハ大年寄中年
寄ヘモ申達置候條猶可承合候事
(別紙品書略ス)

右之趣管内無洩相達スル者也

●明治五年二月中第七十四号達

澳國博覽會へ御國産被差出方ニ付管内所産別紙書載ノ物品近來發明之製造物取揃へ博
覽會事務局へ差出候様御達有之候條兼テ達置候通り三月晦日迄當府へ差出可申事
(別紙略ス)

●明治五年六月申第二百九十九號達

兼テ合勸奨候澳國博覽會へ差出候物産并手細工者其他之品々今度奉供 天覽候處左之

通御用相成實以冥加之至ニ候就テハ向後彌丹誠ヲ盡シ成丈無用ノ翫物ニ流レサル様心
ヲ用ヒ新規發明ノ機械ハ勿論諸物産ヲ興シ往々盛大ノ御用相勤候儀工商ノ者業休ノ本
タル事厚ク可相心得モノ也 右之趣市中無洩相達スル者也 (品書略ス)

●明治五年六月申第二百二十一号達

此度京都ニ於テ別紙汎告ノ通博覽會取設有之毎月六ノ日開館展列相成候間博識ニ志ア
ル者ハ爲見物上京可致事 但物品差出度者ハ當府へ申出候ハ、添書可下渡候事
右之趣管内無洩相達スル者也 (別紙略ス)

●明治九年二月廿八日地第卅六号市郡區戶長へ達

京都府博覽會ノ儀ハ追年盛大ニ至リ當年ハ内務省官員出張ニ相成諸府縣ノ出品ヲ比較
參考シ物産工藝ヲ興起セラル、趣ニ付猶一層注意致シ且勸業殖産有志ノ者ハ親シク參
會習討論ヲ遂ケ世益ヲ増加爲致候様同府方申來候條此旨各區内無洩諭告可致候事

●明治九年三月廿九日地第五十五号市郡區戶長へ達

今般熊谷縣下上野國群馬郡高崎驛ニ於テ博覽場取設ケニ付出品致度有志ノ者ハ右規則
書等第一大區廿三小區會議所ニ備置候條該所へ罷出認視ノ上其規則ニ照準シ差出スヘ
ク此旨各區内無洩可相達候事

●明治九年八月卅一日地第四百四十九号市郡區戶長へ達

常府本年第二百廿九号ヲ以相達置候來ル明治十年東京ニ於テ内國勸業博覽會設置被仰

出候ニ付是迄府下出產物ハ勿論管下製造品ニテ他方へ輸出可致諸商品並新發明品等總
テ現品又ハ雛形圖面ニテ草木菓實ニ至ル迄出品可致候付テハ出品可致輩ハ九月廿日限
リ目錄ヲ製シ一小區限リ取纏メ可差出候尤其品柄ニ寄り直ニ買上ケ或ハ製作方可申付
候條右布告熟讀シ該會場ノ趣意瞭知シ難解儀モ有之節ハ内本町橋詰町大阪博物會場掛
役員へ可伺出此段各區無洩至急可相達事

●明治九年十二月九日地第百廿一號市郡區戶長へ達

京都府下ニ於テ博覽會來十年三月十五日カ百日ノ間開場相成候ニ付例年ノ通當府下諸
物產及珍器等盛大出品ヲ要シ是迄出品相成候分進モ爾來一層ノ進歩致シ候物類或ハ然
ラサル共精製致シ品評審定ヲ望候等決テ願慮セス出品可致尤物品審定ニ付一層詳細ナ
サシメン爲メ別紙問題書市ハ四大區郡ハ七大區會議所ニ一部ツ、備置候條致一覽審查
ヲ望ム者ニハ條件ノ内可成丈報答ヲ相添へ可差出右諸品ニ付テ甲乙可否ヲ評論シ其長
善ナルハ賞讀シ其及ハサル處アルハ懇々之レヲ教諭スルハ此會ノ大主意ナレハ精々審
査ヲ請求候様厚ク可及教諭旨同府カ申越候ニ付出品ノ有無來十年一月十五日限リ一小
區毎ニ取調可申出此旨各區内へ無洩可相達候事
(別紙略ス)

●明治十年二月廿六日地第廿三號市郡區戶長へ達

長崎縣下長崎諏訪神社境内於テ來ル五月十五日カ一百日ノ間博覽會開場有之有志ノ者
ハ出品可相成様該縣廳カ申越候條精々出品可致此旨各區内へ無洩可相達候事

●明治十年三月十五日地第卅三號市郡區戶長へ達

石川縣下福井舊城内ニ於テ來四月十日カ廿日ノ間博覽會場設置ニ付府下人民ヨリモ出
品相成度旨該縣ヨリ申越候條有志ノ者ハ精々出品可致此旨各區内無洩可相達候事

●明治十年三月廿七日地第卅九號市郡區戶長へ達

本年地第三十三號ヲ以石川縣下福井ニ於テ博覽會設置ノ儀相達置候處五月十日カ向フ
廿日間ニ開場延期相成候旨該縣廳カ申越候條此旨各區内へ可相達候事

●明治十年四月十六日地第五十四號市郡區戶長へ達

内國勸業博覽會出品出願ノ者夫々許可相成候就テハ出品心得方左ノ通
一物品ノ儀ハ本年六月廿日限府下本町橋詰博物會場へ可差出尤現品一應見分候ニ付
荷造リ不致可差出候事 但物品出來次第速ニ差出可申候事

一出品主並代理人ノ儀ハ本年七月廿日迄ニ上東京致シ物品陳列方ニ從事候儀ニ付山
京ノ人名來ル六月中ヲ限リ可申候事 但出品主事故有之上京難致者ハ代理人差出
候者モ同日迄ニ可申出代理人ノ儀ハ二三名乃至四五名ヲ兼候儀不苦候事

一物品陳列所へハ住所姓名ヲ大書セル記標或ハ各家所持ノ記号ヲ染抜タル旗ヲ揭示
候筈ノ處該旗ノ儀ハ凡堅曲尺二尺六寸四步流三尺三寸カ大ナラサル様相調可申事
右之通各區内出品ノ者へ無洩可相達候事

●明治十年五月十二日地第六十八號市郡區戶長へ達

本年二月地第廿三号ヲ以達シ置候長崎縣下博覽會五月十五日方開場ノ處延期相成追テ會日ノ儀ハ可及報知旨該縣方申越候條此旨各區内へ無洩可相達候事

●明治十年七月十四日第百五十六号(内務省甲第十四号布達)達

●明治十一年佛國巴里府方國大博覽會諸規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

明治十年七月五日

内務卿大久保利通代理

内務少輔 前 島 密

右之通達有之候條管内無洩相達候事 但別冊ハ會議所ニ備置候事(別冊略ス)

●明治十年八月一日第百七十三号(内務省甲第十六号布達)達

●明治十一年佛國巴里府方國大博覽會區分目錄別紙ノ通候條此旨仰達候事 別紙客ス

明治十年七月十四日

内務卿大久保利通代理

内務少輔 前 島 密

右之通達有之候條管内無洩相達候事 但別冊區分目錄ハ會議所ニ備置候事(目錄略ス)

●明治十年十一月十三日地第百五十六号市郡區戶長へ達

●愛媛縣下伊豫國松山公園内ニ於テ來明治十一年三月廿日方五十日間博覽會開興ニ付新器古品ニ不拘出品相成度旨該縣方照會有之候條有志ノ者ハ精々出品可致此旨各區内へ無洩可相達候事 但該規則ハ區長詰所へ爲備置候條遂認視度者ハ同所へ可罷出事

●明治十二年一月廿五日天第十二号達

京都府下舊大宮御所内ニ於テ本年三月十五日方六月廿二日迄一百日間例年ノ通博覽會開場候旨ヲ以テ同府方通知ノ次第モ有之候條有志ノ者ハ精々出品可致尤該會規則書見閱致度者ハ當府第二課へ可申出此旨管内無洩相達候事

但出品致度者ハ該品ヲ當府下本町橋東詰博物場へ可差出候事

●明治十二年一月廿八日天第十五号達

岡山縣下岡山ニ於テ有志ノ者結社シ本年四月一日方日數七十日間博覽會開設候旨ヲ以同縣方通知ノ次第モ有之候條有志ノ者ハ精々出品可致尤該會規則書見閱致度者ハ當府第二課へ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十二年二月三日天第十八号達

左書ノ通有志ノ人民申合博覽會開設候旨ヲ以テ該管廳方通知ノ次第モ有之既ニ夫々及廣告置候通リ有志ノ者ハ精々出品可致尤該會規則書見閱致シ度モノハ當府第二課へ可申出此旨管内無洩相達候事

明治十二年三月一日方同六月三十日迄百二十二日間

愛媛縣下讚岐國琴平山金刀比羅宮社務所内ニ於テ開設

明治十二年三月十日方六十日間

堺縣下大和國奈良大佛殿内ニ於テ開設

明治十二年三月十五日方六十日間

長崎縣下長崎公園内ニ於テ開設

明治十二年三月廿日々八十日間

茨城縣下常陸國筑波郡筑波町筑波神社境内ニ於テ開設

●明治十二年三月十四日天第六十号達

本年二月當府天第十八号ヲ以テ茨城縣下常陸國筑波郡筑波町筑波神社境内ニ於テ本月二十日ヨリ博覽會開設ニ付出品方及布達置候處今般更ニ三週日延期即チ四月十日ヨリ開設候旨申來候ニ付精々出品可致此旨管内無洩相達候事

●明治十二年五月六日天第九十四号達

長崎縣博覽會之儀本年三月十五日ヨリ五月十三日迄開會ノ處引續六月四日迄延期相成候旨該縣ニ通知有之候條此旨管内無洩相達候事

●明治十二年六月廿七日天第百五十号達

本年當府天第十八号ヲ以テ愛媛縣下讚岐國琴平山金刀比羅官社務所内ニ於テ本年三月一日ヨリ同六月三十日迄博覽會開設候旨及布達置候處目今虎列刺病流行蔓延ノ景況ニ付本月十五日限り閉場候旨該縣ニ通知有之候條此旨管内無洩相達候事

●明治十二年十月廿三日第百四十八号達

明治十四年第二回内國勸業博覽會列品區分別紙ノ通被達候ニ付出品人心得トシテ此旨管内無洩相達候事
(別紙畧ス)

●明治十二年十二月二日天第三百八十七号達

長崎縣下長崎公園内ニ於テ來ル明治十三年四月一日ヨリ五十日間博覽會開設候旨全縣ヨリ照會ノ次第有之候條有志ノ者ハ精々出品致スヘク尤該規則書見閱致度モノハ當府勸業課へ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十二年十二月十日天第三百九十一号達

京都府下博覽會來ル十三年三月一日ヨリ一百日間例年ノ通舊大宮御所内ニ於テ開設相成候旨該府應ヨリ報知ノ次第有之候條有志ノ者ハ精々出品可致且該規則書見閱致度モノハ當府勸業課へ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十二年十二月十一日地第九十九号郡區役所へ達

内務省本年甲第十一号ヲ以テ來ル十四年第二回内國勸業博覽會開設ニ付該出品概目錄ノ儀ハ來ル十三年三月限り可差出旨布達相成候ニ付テハ取調方ノ都合有之候條各布達ノ旨ヲ休シ精々出品候様勸奨ノ上來ル十三年一月十日限り出品人名並ニ品名共取纏メ可申出此旨相達候事 但勸奨ノ都合等勸業課へ至急申談可取計候事

●明治十二年十二月十五日天第三百九十三号達

愛媛縣下讚岐國那珂郡琴平宮ニ於テ明治十三年三月十五日ヨリ六月十五日迄第二回博覽會開設候旨該縣應ヨリ通知有之候條有志ノ者ハ精々出品可致尤該會規則書見閱致度者ハ當府勸業課へ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十二年十二月廿五日天第四百一號達

宮城縣下陸前國仙臺區片平町ニ於テ明治十三年八月十日ヨリ十月八日迄日數六十日間博覽會開設候旨同縣ヨリ通知ノ次第有之候條有志ノ者ハ精々出品可致尤該會規則書見閱致度者ハ當府勸業課ヘ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十三年一月七日天第一號達

三重縣下伊勢國安濃郡津公園内ニ於テ本年四月一日ヨリ日數三十日間博覽會開設ノ義全所魚町岡嘉平治外三名ヨリ出願許可候旨該縣方通知ノ次第有之候條有志ノ者ハ精々出品可致本會規則書見閱致度者ハ當府勸業課ヘ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十三年一月十二日天第五號達

堺縣下大和國奈真大佛殿内ニ於テ本年三月十日ヨリ八月十日間例年ノ通り博覽會開設候旨該縣方通知有之候條有志ノ者ハ精々出品可致該會規則書見閱致度者ハ當府勸業課ヘ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十三年一月十六日天第六號達

愛知縣下名古屋區四前町名古屋博物館ニ於テ本年四月一日ヨリ五月十日間博覽會開設候旨該縣方通知有之候條有志ノ者ハ精々出品可致尤該規則書見閱致度ハ者當府勸業課ヘ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十三年一月廿日天第八號達

大分縣下ニ於テ開設有之候展覽會ノ儀今般博覽會ト改稱規則ヲ改正シ本年四月十日ヨリ六十日間大分町ニ於テ開設致シ候旨該縣方通知有之候間精々出品可致尤規則書見閱致度者ハ當府勸業課ヘ可申出此旨管内無洩相達候事

●明治十二年二月二日天第十八號達

客年當府天第四百壹號ヲ以宮城縣下陸前國仙臺區片平町ニ於テ本年八月十日ヨリ博覽會開設候段相達置候處右出品物ハ片道返路遞送料丈ケ該會方支辨可致旨同縣方通知有之候付精々出品可致此旨管内無洩相達候事

●明治十三年二月十三日天第廿五號

來ル三月十五日ヨリ南御堂難波別院ニ於テ公立大坂博物館博覽會開設候付勸工場陳列品ノ儀當分ノ内總テ同會府下製品ノ部類トシ出品爲致候就テハ該場ハ本月廿日限リ相館博物館内ニ於テ右事務取扱候條此旨管内無洩相達候事

但閉會後勸工場開場日限ハ追テ可相達候事

●明治十三年六月八日天第八十號達

大分縣下大分博覽會本年四月十日ヨリ六十日間開設ノ義本年一月當府天第八號ヲ以テ及布達置候處尙廿日間日延致候段全縣方申越候條爲心得此旨相達候事

●明治十四年二月廿六日號外廣告

當府大阪博物館ニ於テ來ル三月十五日ヨリ六月廿三日迄一百日間博覽會開設況ノ諸物

品ヲ蒐集排列シ殊ニ古今内外ノ彫刻物ハ別ニ一區ヲ設ケ衆觀ニ供シ候旨申出候間競テ出品候様可致其出品手續等ハ同場又ハ所轄郡區役所ニ就テ詳悉スヘシ此旨廣告ス

●明治十四年三月廿四日第廿七号廣告

第二回内國勸業博覽會東京上野公園ニ於テ本月一日カ來ル六月卅日迄開設相成候付テハ本會出品人ハ勿論一般人民ニ於テモ本會開設ノ趣旨ヲ体シ精々會場ニ參觀シテ品位ノ精粗製作ノ巧拙ヲ熟覽シ以テ各自ノ主業ヲ改良擴張タランヲ望ム此旨廣告ノ

●明治十四年十二月六日號外廣告

當府下大和國奈良大佛殿内ニ於テ例年ノ通來明治十五年三月一日カ五月廿八日迄博覽大會開場專ラ工藝勸獎ヲ旨トシ汎ク諸物品ヲ蒐集陳列シ審査ノ上褒狀賞金等附與候旨各自競フテ出品候様可致尤其運送費ハ該會社カ辨償ノ等ニ候此旨廣告ス

●明治十六年十二月廿八日示第三百一十一号達

府下大和國奈良大佛殿内ニ於テ例年ノ通來ル十七年三月一日カ博覽會開設專ラ工藝勸獎ヲ旨トシ汎ク諸物品ヲ蒐集陳列シ審査ノ上賞牌並ニ褒狀附與候旨申出候間各自競テ出品候様可致尤運送費ハ該會社ヨリ辨償ノ等ニ候 右告示候事

●明治十七年一月廿九日示第廿九号達

當府下公立大阪博物館ニ於テ例年ノ通來三月十五日カ六月廿二日迄一百日間博覽會開設專ラ人智ノ開達工藝ノ進歩ヲ圖リ汎ク諸物品ヲ蒐集陳列シ供衆觀候旨申出候間府下

製產品ハ勿論各自競テ出品可致其規則ハ同場ニ就キテ參觀スヘシ 右告示候事

●明治十七年十二月廿日示第二百四十七号達

府下大和國奈良大佛殿ニ於テ例年ノ通來明治十八年三月一日カ博覽會開設專ラ工藝美術ノ勸獎ヲ旨トシ汎ク諸物品ヲ蒐集シ審査ノ上賞牌又ハ褒狀等附與候旨届出候條各自競テ出品可致尤運送費ノ儀ハ繪畫及美術上ノ製品若クハ會社カ特ニ懇望スル物品並豫メ書面ヲ以會社ヘ協議シ承諾ヲ得タルモノ、外ハ各自辨タルヘシ 右告示候事

共進會及品評會附觀古美術會

●明治十二年十二月四日地第百九十二号郡區役所ヘ達

内務大藏兩省甲第十三号布達第十五條ノ通綿砂糖共進會審査掛全員ノ半数ハ出品人ヨリ投票撰舉相成候等ニ付テハ府下出品人ノ内ニ於テ其鑑定審査ニ精シキ者ノ姓名履歷共取調來ル十日迄ニ有無トモ可申出此旨相達候事

●明治十二年十二月四日地第百九十三号郡區役所ヘ達

綿砂糖共進會來ル十三年當地ニ於テ開設相成候ニ付テハ該出品人ノ中平素業務ニ勉勵勞力ノ者及ヒ耕作等格別ノ功勞アル者又ハ其出品ニ付特別ノ功勞アル雇農夫或ハ近來

ノ新種 綿ハ「シ」アイチント「ア」ツアラ
ニ於テ有功者トモ稱スヘキ者ノ姓名并ニ其履歷共取調來ル廿日迄ニ有無トモ可申出此
旨相達候事

明治十三年三月十六日天第卅六号達

東京上野博物館出張所ニ於テ本年四月一日ヨリ全卅日迄日數卅日間觀古美術會開設ニ
付博物館ヨリ別冊該會出品順序通知有之候間種々出品可致此旨管内無洩相達候事

觀古美術會出品順序

- 第一條 上古已降明治維新已前ノ製作ニ係ル内外諸種ノ畫圖并ニ蒔繪器紋樣アル織物
類染艸紋紙諸種ノ彫刻物陶磁器七寶器等別紙區分目錄ヲ見合セ出品スヘシ
- 第二條 本會ハ明治十三年四月一日ヨリ全卅日迄日數卅日間東京上野博物館出張所ニ
於テ開設シ衆庶ノ來觀ヲ許ス
- 第三條 出品セントスル者ハ當三月廿日迄概目錄ヲ東京山下門内博物館ヘ差出シ現品
ハ明細目錄ヲ添ヘ全月廿五日々卅日迄ニ會場ヘ遞送スヘシ
- 第四條 無銘品ニテ時代又ハ作者ノ申傳等アル者ハ目錄ニ記載スヘシ並ニ傳記傳説ア
ル者ハ大意ヲ別紙ニ記シテ添出スルヲ要ス
- 第五條 府外ノ出品ハ往復トモ其運送ヲ給スヘシ仍テ請取證書ヲ以請取方申出ヘシ
- 第六條 府内ノ出品ハ持參次第品主立會荷開ノ上其品請取預證書ヲ渡スヘシ

第七條 出品陳列方ハ區分目錄ニ準シ陳列スルモノトス

但永ク風日ニ解ルヲ厭フ畫幅織物類ハ二日限交換スルモノトス

第八條 出品ハ本館ニ於テ賣買ヲ許サス

第九條 出品ノ多少ニ據ラズ優等品及藝術上最モ利益アル出品者ヘハ判者ノ薦告ニ據
リ褒狀ヲ與フヘシ

第十條 出品ハ看護人ヲ置キ警察ヲ嚴重ニナスト雖モ萬一盜難火災風震其他避ヘカラ
サル事故アツテ破損スルトモ本局其責ニ任セス

第十一條 出品還送ノ節府内ハ順次日限ヲ定メ可相達ニ付本局預証書持參本人又ハ代
理人出頭スヘシ乃チ証書引替ニ出品下戻スヘシ

第十二條 閉會ノ後山下門内博物館ニ出品ヲ望ム者其旨申出ヘシ然ルハ更ニ預リ証
書ヲ渡スヘシ

東京山下門内

博物館

觀古美術會出品區分目錄

- 第一部 水彩畫 油繪 諸種ノ畫
- 第二部 蒔繪附堆朱堆黑 ミツダ繪器
- 第三部 紋樣アル織物 織出共 刺繡 紋革 紋紙

○共進會及品評會附觀古美術會

第四部 金屬石竹木彫刻ノ偶像附鑄像

同彫刻品附鑄物

同建築彫刻物

第五部 陶磁器 七寶器

右區内ニ不適當ノ出品ハ退却スルモノトス

●明治十三年三月廿六日地第三十五号郡區長へ達
來ル三月廿八日午后第一時當府廳構内ニ於テ綿植共進會褒賞授與式執行相成候ニ付事
務ノ都合次第同日正午第十二時通常禮服用參觀可致此旨相達候事
但入場券受取方及着席ノ義ハ當日當府委員へ可問合候事

●明治十四年四月十八日第卅五号廣告

觀古美術會ハ昨十三年東京上野公園地博物局出張所ニ於テ創テ開設ナリシカ本年第二
回ノ開會ヲ同局ヨリ東京龍地會ニ命セラレ五月一日ヨリ六月卅日迄淺艸松葉山海禪寺
ニ於テ開會ノ筈ナリ本會ハ明治以前ノ製作ニ係ル内外諸書畫彫刻其他妙技ヲ主トセル
物品ヲ蒐列シ衆庶ノ覽觀ニ供シ本邦固有ノ美術ヲ研究勸奨シテ全國ノ工藝ヲ振起スル
ノ旨趣ナルニヨリ之ニ適當スル物品ヲ所藏スルモノハ可成之ヲ出品スヘシ尤美術區域
外ノモノト雖凡三百年前ノ製造品及世間稀布ノ品物ハ之レヲ出品スルヲ得ヘシ此旨
廣告ス

●明治十四年六月廿七日乙第九十四号郡區役所へ達

明治十五年山林共進會開設ニ付山林局ヨリ送致有之別冊心得書相渡候條今般番外ヲ以
調書差出方ノ義論達致置候得共尙其旨趣貫徹候様示諭勸奨可致調書ハ本年九月限可差
出筈ノ處調査ノ都合モ有之ニ付八月限之ヲ徵シ點檢書へ規則第十三條ニ當府於テ調
製可致候得共豫メ別冊點檢書取調方ノ條目ニ據リ取調九月限可差出此旨相達候事

山林共進會開設之心得

一今般共進會開設ノ大意ヲ左ニ

山林ノ國家經濟上貴重ナルハ論ヲ俟サルナリ本局ハ夙ニ山林ノ改良ヲ將來ニ希圖シ明
治七年以降官林調査ノ業ヲ起シ監守ヲ配置シ播種ヲ勉メ密林ヲ洗伐シ以テ其改良蕃殖
ヲ謀ト雖モ山林ノ事業タルヤ廣且大ナリ經費モ又限アリ未タ民林ヲ保護シテ之ヲ蕃殖
セシムルノ目的ヲ達スル能ハス然ニ人情ノ常タル目下ノ小利ニ吸ヤトシテ遠水ノ鴻益
ヲ期スル能ハス動モスレハ立木ヲ濫伐シテ栽植ヲ勉メ加之人智ノ開進ニ隨ヒ木材ノ需
用年一年々増加シ山林ハ益衰頽ヲ極メ木材ハ彌々匱乏ヲ告ク今ニノ匡救ノ方法ヲ設サ
レハ他日不測ノ困難ヲ醸生スルヤ必セリ因テ先ツ山林共進會ヲ開會シ山林ヲ所有スル
者ト否トニ論ナク山林ヲ蕃殖シタル實績功勞アル者ヲ褒賞シ自ラ樹木愛惜ノ念慮ヲ發
起セシメ競テ山林ヲ蕃殖シ將來蕃殖ノ進路ヲ開カンテ庶幾スルニアリ是今般本會開
設ノ主意ナリ

一 共進會設立ノ大意ハ右ニ略叙セル如ナリト雖モ尙一般人民へモ該會ハ何故ニ開ヤノ

理由ヲ會得セシメサルヲ得ス故ニ又山林共進會開設ノ大意ト題セル一篇ヲ刊行頒布セントス

一右刊行成ノ後一府縣へ凡五百部宛ヲ頒布スヘシ到達ノ上ハ山林篤志者ハ勿論山林多キ村落へハ可成行涉リ本會開設ノ主意徹底スルヲ要ス尤限アル部數ナルヲ以新聞紙へ掲載スルガ或ハ便宜ノ場所へ揭示スル等適宜處辨アランヲ希望ス

但東京府下各新聞紙へハ本局ニ於テ掲載セシムヘシ

●明治十四年八月廿二日甲第百六十六號達

來明治十五年東京ニ於テ米麥大豆烟草種山林共進會開會ニ付出品方ノ義本年六月号外ヲ以及諭達置候處石ニ關スル費用地方稅ヲ以左ノ通支辨候條精々出品可致此旨布達候事

一郡役所ヨリ會場迄出品運送並荷造諸費

一物品陳列及取片附諸費

一解説書用紙其他藏敷料等

一出品人總代出京手當

但一郡役所部内ヨリ二名ツ、撰拔

●明治十五年三月十一日乙第卅一号郡役所へ達

山林共進會出品調査ノ山林中或ハ其地所立木ノ所有區別ニ關係候箇所モ可有之候得共

元來本會ノ審査タルヤ本人ヨリ差出タル書面ニ就テ功勞ノ優劣ヲ判定スルニ止リ其所有ノ如何ヲ鑑別スルノ目的ニ無之ニ付縱令該褒賞ヲ與ルモ其所有ヲ認定セシ義ニハ無之旨農商務卿ヨリ達有之候條出品人へ可告示此旨相達候事

●明治十五年七月廿二日諭第四号達

大政官第十四号ヲ以布達相成候繪畫共進會開設ノ趣旨タルヤ美術中繪畫ノ用タル管ニ古ナ今ニ傳ヘ今ヲ後ニ傳ルノ要具タルノミナラス工藝上必用ノ學術ニノ人世欠ク可ラサル者トス然ルニ維新己降世ノ變遷ニ際會シ年二月ニ衰頽シ千百年間講究スル所ノ學術一朝滅絶セントスルニ至ル痛惜ノ至ニ堪ヘス加之近來海外諸邦ハ却テ我畫法ヲ講究セントスルノ勢ニ有之若シ早ク挽回スルノ策ナケレハ臍ヲ嚙ムモ及ハサラントス依テ先ツ此共進會ヲ開キ各地ノ繪畫ヲ一場ニ湊境セシメ其優劣ヲ比較シ優者ハ之ヲ賞ノ倍其伎ヲ研究卓絶ナラシメ劣者ハ之ヲ勵シテ亦其伎ヲ講究セシメ漸次挽回セシメントスルノ趣旨ニ有之將十年及十四年ノ兩博覽會ノ節ハ洋畫ノ出品多數ニシテ却テ我古來ノ畫法ヲ以揮毫シタル出品ハ實ニ僅少ニテ當時遺憾トスル所ニ有之候間各自此意ヲ體シ精々勉勵出品可致此旨告諭候事

●明治十五年七月廿四日示第九拾四号達

從來大和飛白之義ハ著大ノ物産ニ候處近來追々粗惡ニ流レ聲價ヲ墮シ販路日ニ縮マリ其損失不勘就テハ追々匡救之途相立可申候得共差向共進會ヲ開設シ當業者各自ヲシテ

廣ク比較考究セシメ能ク利害得失ニ注意シ改良ノ針点ニ誘致スルハ尤有益ノ事業ニ付別紙ノ通規則制定候條深ク此ノ意ヲ体シ奮勵出可致此旨告示候事

大和飛白共進會規則

第一條 太和飛白共進會ハ明治十五年十月一日ヨリ同月十日迄府下高市郡今井村ニ於テ開設スヘシ

第二條 本會ニ出品スル者ハ該製造者ニ限ル者トス其出品ハ各目平常ノ勤勉ヨリ現出スル結果ヲ比較シテ其優劣ヲ判定スル者ナレハ本會ニ供スル爲メ故ラニ精良ノ品ヲ撰擇シ又ハ他人ノ製品ヲ出陳スルヲ得ス若シ詐偽ノ所爲アルモノハ其出品ヲ斥ケ陳列ヲ許サス

但類集物ハ此限ニアラス尤審査ヲ爲サス

第三條 參考ノ爲メ總系染草器械等ヲ添ヘ出品スルモ妨ケナシ

但參考品ハ審査スル限ニアラス且其數量ハ本會事務所ニ於テ適宜増減スルヲアルヘシ

第四條 本會ノ出品ハ昨十四年以來ノ製出品ニ非サレハ出品ヲ許サス

第五條 出品ハ左ノ目ニ基キ之ヲ審査シ其優等ナル者ハ褒賞ヲ授與スヘシ

- 一品質
 - 一染法
 - 一織法
- 一飛白ノ仕法
 - 一丈量秤量
 - 一價格

- 一製造ノ數
- 一發明
- 一功勞

第六條 褒賞ハ左ノ等級ニヨリ配與スヘシ

- 一等賞 金拾圓
- 二等賞 金五圓
- 三等賞 金貳圓
- 褒狀

第七條 一人ノ出品中數品優等ニ位スル時褒賞金ハ其中ノ高等品ニ限之ヲ付與スヘシ

第八條 審査例則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第九條 出品者ハ出品目錄及申告書各壹通ヲ作り郡役所ニ差出スヘシ郡役所ニ於テハ之ヲ調査シ出品目錄ハ八月廿五日申告書ハ九月五日迄ニ本府勸業課ニ差出スヘシ

第十條 出品ハ九月十日迄本會事務所へ遞送スヘシ

第十一條 出品陳列ハ本會事務所ニ於テ之ヲ擔當スヘシ尤本人自陳列セント欲スル者ハ遅クモ開場五日前事務所へ申出指揮ヲ乞フヘシ

第十二條 出品往返ノ運賃出品人ノ旅費ハ自辨タルヘシ場内整頓費及陳列一切ノ費ハ本會ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第十三條 出品ハ本會事務所ニ於テ成ヘク保護スヘシト雖モ盜火難風雷地震等ノ如キ其力ノ及サル場合ニ生スル損害ハ本會其責ニ任セス

第十四條 陳列品ハ本會ニ於一定ノ票札ヲ製シ出品人住所姓名及價格等ヲ詳記スヘシ

第十五條 會テ内外博覽會等ニテ受領シタル賞牌及商標等アル者ハ可成之ヲ付スヘシ

第十六條 審査員ハ府知事ニ於テ之ヲ撰定スヘシ

但審査員ニメ自己ノ出品アルモノハ其審査ニ係ハルヲ得ス
 第十七條 開會中ハ公衆ノ入觀ヲ許ス
 但會場ノ都合ニ依リ觀客ノ人員ヲ限リ又臨時入觀ヲ止ルヲアルヘシ
 第十八條 觀客ハ總テ出品人又ハ看護人ノ承諾ヲ得ニ非レハ擅ニ物品ニ觸テ許サス
 第十九條 會中ニ於テ出品賣買ノ條約ヲナスハ勝手タルヘシト雖モ閉場后ニアラサレ
 ハ他ニ搬出スルヲ許サス

申告書

出品名	何郡何(町村)何番地何某
出品主	何飛白何反白飛白何反
原系及價格	洋糸何番或ハ何幼績場製糸何番又自製並一貫目ノ價格ヲ記スヘシ
染色法及費用	染工ノ住所姓名及染機(例ヘハ地盤或ハ阿波藍ヲ用ヒ何度染何度洗何々ヲ以テ色止チナスノ類)並一貫目ノ費用ヲ併記スヘシ
織法	元拵ノ仕様ヨリ總テ織上ケマテノ手續及一反織上ノ時間且織法ニ發明等アラハ其事由ヲ詳記スヘシ
飛白ノ仕法	飛白ノ仕様及工夫ノ發明等アラハ其事由ヲ詳記スヘシ
製造期	出品製造ノ年月ヲ記スヘシ
製造高	十四年中紺地 <small>上何程 中何程 下何程</small> 白地 <small>上何程 中何程 下何程</small> 此總計何反
賣上高	紺地 <small>上一反ニ付何程 中何程 下何程</small> 白地 <small>上一反ニ付何程 中何程 下何程</small> 一ヶ年總計何拾圓
織工及賃錢	男何人女何人賃錢 <small>男一人ニ付何程 女一人ニ付何程</small> 使用セサルモノハ〇点ヲ付スヘシ

右之通相違無之候也

年月日

大阪府勸業課

戸長 何某印

出品目録

品名	員數	賣價	賣否ノ別
紺飛白	何反	何圓何拾錢	賣
白飛白	何反	何圓何拾錢	賣
糸	若干	全	非賣
草	若干	全	非賣
機	何点	全	賣

右之通九月十日マテ無相違出品可仕候也

年月日

大阪府勸業課

何郡何村何番地 何某印

御中

明治十六年三月廿四日諭第二号達

共進會及品評會附觀古美術會

來十月一日ヨリ十一月十九日迄日敷五十日間當府下ニ於テ本府外十二縣
 口石川福井高知 聯合シ織物生糸繭綿紙五種ノ共進會開設ノ答ニ候抑モ織物及綿ハ外國
 岡山島根鳥取 ヨリ輸入スルコト一年ヨリ増加シ殆ト我内地ノ產ヲ厭倒セントス生糸ノ如ハ外國輸出
 ノ首位ニ居ルト雖モ未タ濫造ノ弊アルヲ免レス紙ハ之ニ亞テ内地重要ノ品ノミナラス
 輸出ノ目的アリト雖モ尙多クハ舊慣ヲ守リ改良ノ針路ニ赴カス共ニ匡救振作スヘキ急
 務ニ候條各自此旨ヲ体シ勉メテ出品可致尤本會規則書ハ郡區役所ニ備置候條有志者ハ
 就テ一覽スヘシ此旨告諭候事

但出品運搬費荷造費看護人給等ハ當府ヨリ補助スヘシ

●明治十六年三月廿六日乙第四十六号郡區役所へ達

本府外十二縣聯合織物外四品共進會開設ノ義告諭候ニ付テハ本會規則別冊ノ通候條左
 ノ庶々相心得出品勸獎可致此旨相達候事

- 一 平素ノ業務及品種ノ良美ヲ点檢シ他ニ競争シ劣ラサル篤志者撰拔出品勸獎スヘシ
- 徒ニ其多數ヲ欲シテ濫獎スヘカラス
- 一 出品目錄ハ六月卅日限取纏メ差出スヘシ
- 一 出品申告書ハ本府ニ於テ淨寫スヘキニ付成ヘク詳密取調七月十五日限差出ヘシ
- 一 出品ハ每郡區役所限取纏メ八月卅一日迄ニ直ニ會場へ輸送スヘシ
- 一 出品運搬費荷造費看護人給等ハ本府ヨリ補助スヘシト雖モ出品主自辨セント欲ス

ル者ハ勝手タルヘシ

但出品主ヨリ郡區役所迄ノ運賃ハ補助スル限リニアララス

一 出品陳列等ハ本府委員ニ於テ擔當スヘシト雖モ出品主自ラ陳列セント欲スル者ハ
 委員ノ指揮ヲ受クヘシ

●明治十六年四月二日諭第三号達

本年九月一日ヨリ全十月廿日迄兵庫縣下神戸港ニ於テ製茶共進會開設可相成旨本年二
 月大政官第五号ヲ以テ公布相成抑製茶ハ生糸ト相併テ本邦重要ノ物産ニシテ海外輸出
 品中之カ右ニ出ル者ナク而メ其製品ノ精粗ハ實ニ國益ニ關スル甚タ大ナリ蓋シ本會開
 設ノ趣旨須ク各地ノ製品ヲ釐列シ精粗優劣ヲ計較シ其優等ハ之ヲ賞シ競テ力ヲ精良品
 ノ製出ニ竭サシメ一層輸出ノ額ヲ増シ永ク其聲譽ト共ニ國益ヲ進捗セシメントスルノ
 趣旨ニ可有之尤本會規則ハ追テ頒布可相成候得共當業者ニ於テハ豫メ其旨ヲ体シ精々
 出品可致此旨諭告候事

●明治十六年六月十一日乙第七十七号郡區役所へ達

關西府縣聯合織物生糸綿紙共進會開設ニ付テハ右五種ニ對シ從前殖産改良方ニ刻苦
 盡力公益ヲ興シ一地方ノ模範トナルヘキ著シキ功績有之者ハ故人ト今人トヲ問ハス褒
 賞授與相成候答ニ付其事蹟明細取調來八月十五日限可差出此旨相達候事

●明治十六年八月廿七日乙第百廿壹号郡區役所へ達

來明治十七年四月一日ヨリ五月三十日迄東京上野公園ニ於テ開設相成候第二回内國繪畫共進會出品志願ノ者ハ本年六月第廿二号布達第二回内國繪畫共進會規則出品目錄(第一号書式)一通履歷書(第二号書式)一通ヲ製シ本年十一月十五日迄同古畫出品志願ノ者ハ全古畫出品目錄(第三号書式)一通ヲ製シ來ル十七年一月卅一日迄ニ差出候様可取計此旨相達候事

●明治十六年八月廿七日乙第百廿二号郡區役所へ達
來、明治十七年第二回内國繪畫共進會ノ義ハ別紙地方官心得ニ依リ勸奨可致此旨相達候事

第二回内國繪畫共進會地方官心得

第一條 本會ハ内國繪畫術ノ進歩ヲ圖ルヲ以旨趣トナス故ニ專門者ハ勿論名ヲ其地方ニ識ラル、ノ畫工ハカメテ勸誘シテ出品セシムルヲ要ス尤當ニ出品數ノ多キヲ望ミ兒童或ハ技術ノ未熟者ヲ勸誘スルヲ要セス

第二條 專門畫工又ハ名ヲ地方ニ識ラル、者ニメ第一回繪畫共進會十五年ノ時事故アリテ出品セサリシモノハ勸誘シテ可成出品セシムヘシ

第三條 出品畫ノ疎密ニ体ヲ具ルハ一目ニシテ之ヲ區別スルヲ得ル(猶書法ノ楷草アルカ如ク)ヲ要スルニ付出品ヲ請願スル者アレハ豫メ此事ヲ懇示シ其二葉^{出品ノ畫ハ}每人二葉ヲ限ルヲノ畫中孰レヲ密トナシ孰レヲ疎トナスヲ別ツ能サルカ如混淆アラシムル勿レ

第四條 出品畫ハ二葉各異種ノ圖ヲ畫シムヘシ譬ヘハ一葉ハ山水ヲ寫シ一葉花鳥或ハ人物又注獸鱗介等ヲ畫クノ類ナリ

第五條 古實史傳ニ由リ寫シ出ス所ノ畫ハ宜ク意ヲ用ヒ其事實ニ誤謬ナキヲ要ス

第六條 本會規則第八條ニ謂フ所ノ畫工ノ履歷書ハ他日或ハ畫工畧傳ヲ編纂スルノ料ニ供スルナシトセサルヲ以苟モ繪事ニ關シタル事項ハ勿論其他ノ履歷共カノテ詳記セシムヘシ

但第一回繪畫共進會ノ時差出シタル者ト差異ナキハ只ニ其以後ノ履歷ノミヲ舉ケ又己ニ差出タル者ト雖^凡猶ホ未タ盡サハル所アレハ更ニ之ヲ細記セシムヘシ

第七條 規則第廿六條ニ掲ケタル流派ノ分別ハ唯其名稱ノ大畧ヲ舉示スルノミ故ニ出品者ハ隨意ニ自己ノ畫風ニ因縁アルカ又ハ類似ノ區内ニ出陳スヘシ又古今諸家ノ長所ヲ集メテ一ノ風ヲナシ新ニ機軸ヲ出シ或ハ別ニ見解ヲ開キシ者ハ第七區出陳スルモノトス又第一區第五區ニ至ル區内ニ因縁ナク全ク殊異ナル畫体ヲナス者ハ之ヲ第六區ニ出陳セシムル者トナス宜敷出品者ヲメ畫區ノ分別ニ注意セシムヘシ

第八條 本邦ノ古畫ハ固ヨリ論ナシ支那ノ古畫モ亦之ヲ本會場内^三号ニ陳列シ以畫學ノ摸範ヲ示シ此道ノ進歩ヲ資ント欲ス宜ク之ヲ所藏スル社寺及其他ノ諸家ヲ勸誘シ出品セシムルヲ要ス

第九條 古畫ノ出品目錄ハ編纂ノ都合アルニ付十七年三月一日迄ニ事務所ニ送致セシ

ムハシ其現品ハ各出品人ノ便宜ニ從ヒ五月十日迄ニ全所ニ遞達セシムヘシ
第十條 出品新畫ノ審査ハ規則第廿五條ニ從ヒ開場ノ當日ヨリ着手ス故ニ其出品ハ延
着ナキ様注意アルヘシ

第十一條 出品者及荷モ繪事ニ志アル者ヲシテ廣ク出陳ノ新畫及別室ノ古畫ヲ通觀シ
以畫學ヲ研究スルノ感恩憤情ヲ興起セシメント欲ス宜ク此旨ヲ了シカメテ誘導來覽
セシムルヲ要ス

●明治十七年一月廿六日示第廿八号達

府下製産中凍瓊脂ハ全國中最モ上等ニ位シ古來名聲ヲ世上ニ得ル爰ニ久シ而ノ外國ニ
於テ該品ヲ需求スルハ獨リ清國人ニ止マリシモ近來洋人亦需用ノ端ヲ啓キタレハ後來
年ヲ逐テ販路擴張スヘシト雖モ該製造者問屋共ニ確タル規約等ナキヲ以テ甚キ惡弊ヲ
生セントスルノ傾向アリ若一度ヒ信ヲ海外ニ失セハ百方匡救ノ途ヲ求ルモ及ハサルヘ
シ之ヲ未雨ニ防クハ最モ緊要トス就テノ追々改進ノ途相立ヘクモ先共進會ト集談會ヲ
併セテ開設シ當業者各自ヲメ廣ク比較考究其利害得失ニ注意セシメ益盛大ノ域ニ誘致
スルハ尤有益ノ事業ニ付別紙ノ通規則制定候條深ク此意ヲ体シ奮勵出品致ヘシ

凍瓊脂共進會規則

第一條 本會ハ明治十七年三月廿一日カ全月卅日迄府下島下郡茨木村郡役所内於テ開
設スヘシ

第二條 本會ニ出品スル者ハ該製造者ニ限ル者トス其出品ハ各自平常ノ勤勉ヲ現出ス
ル結果ヲ比較ノ其優劣ヲ製定スル者ナレハ本會ニ供スルタメ故テニ精良ノ品ヲ選擇
シ又他人ノ製品ヲ出陳スルヲ得ス若シ詐偽ノ所爲アル者ハ其品ヲ斥ケ陳列ヲ許サス
第三條 本會ノ品ハ客冬以降ノ製品ニ限ルモノトス

但參考ノタメ前年ノ製品ハ機械染料等ヲ添附スルハ防ケナシト雖モ審査ヲ加ヘス
且其數量ハ本會事務所ニ於テ適宜増減スルヲアル可シ

第四條 各自發明ニ係ル機械雛形圖式及著述書等ヲ出品スル者ハ別ニ參考室ヲ設ケ陳
列セシムヘシ

第五條 褒賞ハ本會ノ目的ニ適セル優等ノ出品若クハ凍瓊脂ニ就キ發明功勞ノ著ルシ
キ者ニ授與シ又其功勞アル故人ハ之ヲ追賞スルヲアルヘシ

但出品主ニ非ルモ特ニ其技ニ熟達スル者及出品主ヲ助テ特殊ノ功勞アル者又該商
業上有功ノ者ニハ相當ノ賞ヲ與ルヲアルヘシ

第六條 褒賞等級左ノ如シ

一等賞 金員 二等賞 金員 三等賞 金員 褒狀

第七條 本會ハ一人ニテ四五品ヲ出スモ妨ナシト雖モ褒賞ハ其中ノ高等品ニ限り之レ
ヲ付與スヘシ

第八條 審査例則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第九條 出品者ハ出品目録及申告書各一通ヲ作り郡役所ニ差出スヘシ郡役所ニ於ハ之ヲ調査シ其誤謬ナキヲ確認セシ後出品目録ハ二月十日申告書ハ二月廿九日ニ本府勸業課ニ差出スヘシ

第十條 出品者ハ勿論商人ト雖モ平常凍瓊脂業ニ功勞アリ其地方ノ模範トナルヘキ者ハ各郡區役所ニ於テ詳細其履歷ヲ取調親展書ヲ以テ二月廿九日迄ニ勸業課長ヘ報告スヘシ

第十一條 出品ハ一種ニ就キ角製ハ一斤細製ハ三把ヲ限トス尤參考ノタメ各自ノ商票ヲ表記シ荷造ノマ、出品スルハ妨ナシ現品ハ三月十日迄十五日迄ニ島下郡茨木村本會事務所ヘ送致スヘシ

但審査用トノ角製ハ各貳本細製ハ一把宛損害ヲ防ニ足ヘキ手當ヲナシ添送ス可シ

第十二條 出品陳列ハ本會事務所ニ於テ之ヲ擔當スヘシ尤本人自ラ陳列セント欲スルモノハ遲モ開場五日前事務所ヘ申出指揮ヲ乞フヘシ

第十三條 出品往返ノ運賃出品人ノ旅費等ハ自辨タルヘシ場内整頓費及陳列一切ノ費ハ本會ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第十四條 出品ハ本會事務所於テ成ヘク保護スヘシト雖モ水火盜難風雷地震等ノ如キ其力ノ及サル場合ニ生スル損害ハ本會其責ニ任セス

第十五條 本會ニ於テ一定ノ票札ヲ製シ出品人ノ住所姓名及價格ヲ詳記スヘシ

第十六條 曾テ内外博覽會等ニテ受領シタル賞牌及商標等アルモノハ之ヲ付スヘシ

第十七條 褒賞授與式ハ三月廿六日ヲ以テ施行スヘシ

第十八條 審査員ハ府知事ニ於テ之ヲ撰定スヘシ

但審査員ニメ自己ノ出品アル者ハ其審査ニ係カルヲ得ス

第十九條 開會中ハ公衆ノ入觀ヲ許シ入場券ヲ附與スヘシ

但會場ノ都合ニ依リ觀客ノ人員ヲ限又ハ臨時入觀ヲ止ルコトアルヘシ

第二十條 看護人ノ承諾ヲ受スシテ檀ニ物品ニ觸ルヲ許サス

第二十一條 場内ニ於テ吸煙ヲ禁ス

第二十二條 開會中凍瓊脂集談會ヲ開クヘシ但期日會場及會則問題等ハ追テ定ムヘシ

第二十三條 會中ニ於テ出品賣買ノ條約ヲナスハ勝手タルヘシト雖モ閉場后ニアラサレハ他ニ搬出スルヲ許サス

第二十四條 出品ハ閉會后三日間ニ場外ヘ搬出スヘシ

出品目録

品名	員數	賣價	賣否ノ別
白角凍瓊脂	壹斤	何錢	賣品
赤角全	壹斤	何錢	非賣品
白細全	三把	何錢	賣品

○共進會及品評會附觀古美術會

赤細全	三把	何	錢	非賣品
白赤染分全	三把	何	錢	賣品
原草	若干	何	錢	非賣品
機械	何点			

右御定メノ期日迄無相違出品可仕候也

年月日

大阪府勸業課

御中

何郡何町何番地族籍
何 某 印

出品主

何郡(區)何町(村)何番地
族籍職業

何ノ誰印

出品名及

此區へハ白角赤角白細赤細染分等ヲ一種毎ニ區別左通記載スヘシ
白角一斤 外ニ審査用二本 百斤ニ付 賣價何拾圓
全細三把 外ニ審査用一把 百斤ニ付 賣價何拾圓

出品數

原州ノ產地
及其價格

此區へハ出品ノ原州ハ何國何地ノ産ニシテ拾貫目ニ付金何圓ト記
載スヘシ

製造ノ方法

此區へハ何月頃ヨリ原草酒ス下何度ニシテ何月頃何貫目ノ原草及
何品ニ水若干ヲ加ヘ釜ニテ何時間煮キ何々ノ器ニ入レ置キ何時間
ヲ經過シ何々ノ器ヲ用ヒテ切截シ凍結セシメ后チ結束メル等迄ノ
手續ヲ詳細記載スヘシ

製造ノ期

此區へハ出品製造ノ年月ヲ記スヘシ

十四年冬期ヨリ
十五年春期迄
十五年冬期ヨリ
十六年春期迄
十六年冬期ヨリ
十六年春期迄
計

製造高

赤角	上何程	全上	白角	上何程	全上	赤角	上何程	全上	白細	上何程	全上	赤細	上何程	全上	染分	上何程	全上	合計	何何何何	十四年	十五年	十六年	計
	中何程	全上		中何程	全上		中何程	全上		中何程	全上		中何程	全上		中何程	全上		中何程				
何圓	全上	全上	何圓	全上	全上	何圓	全上	全上	何圓	全上	全上	何圓	全上	全上	何圓	全上	全上	何何何何	何圓	全上	全上	全上	全上

○共進會及品評會附觀古美術會

賣上高	白細	何程	全上	全上	全上	全上
	赤細	何程	全上	全上	全上	全上
染分	何程	全上	全上	全上	全上	全上
	何圓	全上	全上	全上	全上	全上
合計						

業務沿革出品者履歴

此項へハ開業以來ノ沿革及ヒ凍壞脂業ニ付何々ノ方法ヲ發明セシ等ヲ記載シ中絶セシ者ハ何年ニ於テ開業シ何年ニ至テ又更ニ開業セシム云々等詳細記載スヘシ
右之通相違無御座候也

年 月 日
出品主 何 某印
戸長 何 某印
大阪勸業課 御中

●明治十七年三月廿七日示第七十七号達
●明治十八年四月東京上野公園ニ於テ開設ノ繭糸織物陶漆器共進會ノ義ハ專ラ製品ノ

改良増殖ヲ謀リ内需用ヲ足シ外輸出ヲ盛大ニスルノ旨趣ナレハ製造者ニ於テ虚飾ニ流
ノス務メテ實用ニ適スルヲ以テ目的トシ客年十一月第三十五号布達ノ旨ヲ服膺シ精々
出品致スヘシ

但本會へ出品セント欲スル者ハ出品目録ヲ製シ來十月限り及ヒ出品解説書ハ來ル十
二月限り差出スヘシ 右告示候事

●明治十七年四月十日乙第四十七号都區役所へ達
來明治十八年東京上野公園ニ於テ開設相成候繭糸織物陶漆器共進會出品ノ義ハ昨十六
年第三十六号公達該會規則ニ據リ勸奨可致ハ勿論ニ候得共尙左ノ廉々相心得勸奨方法
意スヘシ此旨相達候事

- 一 本會開設ノ旨趣ハ務メテ有益ニ實益ニ適スル物品ノ改良増殖ヲ計リ内需用ヲ足シ
外輸出ヲ盛ニスルニ在リ故ニ觀美虚飾ヲ主トスル物品ハ之ヲ出以セシム可ラス
- 一 前項ノ如ナルヲ以テ平素ノ業務及品種ノ良美ヲ點檢シ他ト競争シ劣ラサル篤志者ヲ撰
拔シ出品勸奨スヘシ徒ニ其多數ヲ欲シテ濫奨スヘカラス
- 一 出品運搬費荷造費看護人給等ハ本府ヨリ補助スヘシト雖モ飾箱飾臺等別段ノ望ミア
ル者ハ此限ニアラス但出品主方都區役所迄ノ運賃ハ補助スル限リニアラス
- 一 出品目録ハ本會規則中雛形ニ準シ都區役所ニ於テ一類毎ニ調製シ差出スヘシ
- 一 出品目録ハ會場地坪割當ノ都合アリ又出品解説ハ審査ニ必用ナルヲ以テ孰セ其差出

期限ヲ誤ルヘカラス

一 出品ハ郡區役所ニ於テ取纏メ十八年二月限無相違本府へ輸送スヘシ

一 出品主ニハ成ヘク本人ノ出京ヲ勸メ各地ノ出品ヲ實際ニ比較シ將來目的ヲ立ルノ稗

益ヲ得セシムヘシ

一 賣店建築ハ數人合併スルモ妨ナシ尤合併ハ管轄ノ異同ヲ問ハサル者トス

●明治十七年九月一日諭第六号達

本邦繪畫ノ万國ニ冠絶スルハ夙ニ内外人ノ噴々稱賛シ措カサル所ニシテ實ニ美術ノ淵源工藝ノ根本ナルヲ以決メ之ヲ等閑ニ付スヘカラサルナリ然ルニ本邦從來ノ習慣タル繪畫ヲ以テ一場ノ遊戲娛樂ノ玩具トナシ教フル者モ學フ者モ悠遠高尚ノ志望ニ乏シク其造設スル所亦甚卑クシテ本邦特異ノ美術モ漸ク將サニ湮滅セントス是ニ於テカ政府ニ於テモ篤ク之カ獎勵保護ヲ垂レラレ共進會ヲ開ル、是ニ二回稍ク流弊ヲ脱シ正緒ニ就ノ徵アリ就テハ本府畫師ノ内能ク此意ヲ休シ來十一月一日ヨリ府立博物場内ニ於テ繪畫品評會ヲ開設シ益此技ノ競争進歩ヲ謀ラントス此道ニ從事スル者宜シク從來ノ陋習ヲ破リ各派親和シ以テ益々美術ノ振作ニ注意スヘシ

但繪畫品評會手續書ハ各郡區役所ニ配布候條就テ見ルヘシ 右諭告候事

△質問及回答

第二回繪畫共進會規則ニ付秋田縣質問 十六年七月(日欠)

第一 規則第四條猥雜戲狂ニ屬スルトハ流派ノ何タルヲ問ハス風俗ヲ亂ス歟又ハ奇怪ノ書体等ヲ指タル儀ニノ鳥羽繪大津繪等ノ畫風ハ第廿六條第六區ニ當ル者ト心得可然哉

第二 規則第六條堅幅ノ絹紙ハトアルハ絹紙ノ二種ニ限り金巾又西洋麻布ト稱スル類ハ假令本條ノ寸方ニ當ルト雖モ探ル可ラサル者ト心得可然哉

第三 規則第十二條歴史肖像眞景ハ解説人各地名ヲ記載シテ之レニ附ス可シトアルハ目録ノ餘白ニ詳細記載セハ別ニ附セサルモ差支ナキ哉又畫旨畫語等ノ類ヲ以テ解説人各地名等ヲ記載スルハ出品者ノ意ニ任セ妨ナキト心得可然哉

第四 出品目録及履歷書雜形ニ出品者ノ押印ナキハ縣廳へ出願シ許可ノ上出品スルヲ以押印セシムルニ及ハサル義ト心得可然哉

○農商務省博覽會掛回答 (月日不詳)

第一 規則第四條猥雜戲狂トアルハ風俗ヲ亂カ如キハ無論其他奇怪ノ畫ニシテ畫格ニ適セス美術ノ資格モ有セサル者ヲ指候儀ニ有之就テハ普通鳥羽繪大津繪ト稱フルモノ、如キハ即チ畫格ニ適セス美術ノ資格モ無之者ニ付御差止相成候方ト存候
第二 規則第六條絹紙トアルハ絹紙ニ種ニ限候儀ニハ無之金巾又ハ西洋麻布ノ類モ不苦候事

第三 規則第十二條歴史肖像眞景等へ解説人名地名ヲ附ストハ目録ノ餘白ニ記スル

ハ無論規則第八條第一書式ニ準シ又衆人一目了解致候爲メ別紙ニ記シ現品ニ添付スヘク尤畫賛等ヲ以テ詳細ニ判別致サノ候分ハ御見込ノ通り

第四 出品目録及ヒ履歷書ヘハ可成本人ノ調印ヲ要シ候ヘトモ遠隔ノ地方等不得止分ハ御見込ノ通り

○内國繪畫共進會規則ノ義ニ付富山縣問合 十六年七月十七日

一古畫出品運送費ハ規則第十五條ニ照シ總テ自辨ニ限リ候哉或ハ其品ニ依リ官費支拂相成候儀モ有之候哉

一古畫ノ賣買ハ規則第拾壹條ヲ適用候儀ニ有之候哉

一第三号書式中摸寫斷ノ分ハ云々ト有之摸寫斷トハ如何相解シ可然儀ニ候哉

○農商務省博覽會掛回答 十六年七月廿四日

一古畫出品運送費等ハ規則第十五條ノ通り總テ自辨ニ有之候事

一古畫ハ賣買ノ限リニ無之ニ付規則第十一條ハ適用不相成候事

一第三号書式中摸寫斷トハ附則第四條中寫眞又ハ縮圖ヲ欲セサル者ハ其斷リヲ欄内ヘ記載スヘントアルヲ反復相示スモノニ有之候事

○民設共進會賞狀下與ノ儀ニ付長野縣伺 十六年八月八日

一郡内ニ於テ一町村若クハ數町村聯合シ民設ノ共進會ヲ開キ郡長ノ名義ヲ以テ賞狀(調製費ハ悉皆該會ノ協議費ヲ支出)下與ノ儀請願候者有之節ハ其望ニ任セ郡長ノ

名義ヲ以テ賞狀下與致シ不苦儀ニ候哉右ハ勸業上親密ノ關係ヲ有シ裨益スル所鮮カラサル儀ニ候得共準據ス可キ成例不相見目下伺出ノ向モ有之候間至急何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

○農商務省指令 十六年八月廿五日

伺之趣聞届候事但明治十一年内務省乙第三十三号達ニ準シ該會景况申報可致事

○私立共進會開設之儀ニ付新潟縣伺 十六年十月四日

人民私費ヲ以テ一村一郡内ノ農工產物ヲ蒐集共進會ノ名義ヲ付シ衆庶ノ縱覽ヲ爲サシメントテ出願スルルハ縣廳限リ許可シ可然哉差當リ出願ノ向モ有之候ニ付否ヤ電報ヲ以テ御指揮相成度此段相伺候也

○農商務省指令(電報) 十六年十月九日

共進會等ノ儀ハ伺之通但シ十一年内務省乙第卅三号達ニ據リ取計フヘシ

○繭絲織物陶漆器共進會規則之儀ニ付東京府伺 十六年十一月廿八日

本年太政官第卅五号布達繭絲織物陶漆器共進會規則中出品スルヲ得ルモノハ製造者ニ限ルノ明文ニハ無之候ヘ共其解說及業務沿革總說等ノ書式ニ據レハ商人ハ出品セシムルノ限ルニ非サルヤニ相見候右ハ果シテ然ル儀ニ候哉

○農商務省指令 十六年十二月十二日

伺之趣ハ製産者ニ限儀ト可心得事

○繭絲織物陶漆器共進會規則之儀ニ付京都府上申 十六年十一月廿七日

第一條 本年第卅五号御布達第二條中第三區織物ノ部第三類ニ麻毛ノ織物及ヒ各種ノ交織物トアツテ藤布紙布若クハ藁等ノ明文無之候ヘ共巳ニ各種ノ交織物トアル上ハ右藤布以下ノ織物モ無論出品スルヲ得ルモノト解釋ス

第二條 同第四條織物數量ノ制限中ニ繭一種ニ付云々又ハ生糸一種織物一種ト有之右一種トハ假令ハ織物ニ在テハ金襴チ一種縞子チ一種縞子チ一種トシ繭系陶漆器モ右ノ分別方ニ準スルモノト解釋ス

第三條 前同條中織物(中略)ニ反ヨリ三反迄陶飲食器一種ニ付(中略)二個ヨリ三個マテ云々トアルニ依レハ一個若シハ一反ノ出品ヲ願出ルモノ、如キハ許可セサル譯ニ候處或ハ高價ノ品物等其品柄ニ依テハ一個一反ト雖モ差許シ妨ケナク且ツ二個ニ反ハ同物ヲ出品スルモノト解釋ス

第四條 同上第十五條ニ繭生糸ノ出品ハ飼養者製糸者ニ限ルトアリ織物陶漆器ハ何等ノ明文ナシト雖モ是亦製作者ニ限ル者ト解釋ス

右之通解釋實際施行可致自然誤認ノ虞有之候ハ、施行之都合有之ニ付至急御指示相成度此段上申候也

○農商務省指令 十六年十二月十七日 上申之趣左之通り可相心得候事

第一條 交織物木綿麻毛ノ各種内ニテ交織セルモノニ限ル可シ

第二條 解釋ノ通り

第三條 織物及陶飲食器出品數量ノ儀ハ價ノ高低ニ拘ハラズ規則ノ通尤モ錦襪縞子縞子等ノ如キ卷ヲ以テ稱スル者ハ疋物ノ數ニ準ス可シ且二個ニ反ハ解釋ノ通り

第四條 解釋ノ通り

○勸業博覽會賞狀等へ御紋章ヲ附スル儀ニ付岩手縣伺 十七年三月十九日

本年四月廿一日カ六月九日迄五十日間當縣勸業場ニ於テ勸業博覽會開設候儀ハ曾テ主務省へ御届仕置候就テハ該會出品優劣ヲ審査シ其優等ナル者へ夫々區分ヲ定メ賞狀賞牌及褒狀ヲ授與致度ニ付右賞品へ御紋章(菊御紋章)ヲ附シ候儀御届被下度別紙雛形五葉相副此段相伺候也 (別紙雛形略ス)

○宮内省指令 十七年三月廿六日

書面之趣難問届候事

○郡設共進會賞狀賞品へ桐章描畫ノ儀ニ付群馬縣伺 十七年四月十二日

本年九月一日カ向フ廿日間管下佐位郡伊勢崎町ニ於テ開設ノ佐位郡波聯合繭共進會出品優等品へ附與候賞狀賞品共桐章描畫致度旨該會發起者カ出願候ニ付願意御許可相成度此段相伺候也

○宮内省指令 十七年四月十六日

書面ノ趣ハ禁令ノ限りニ非サル儀ト可心得事

舷燈製作及點燈並船舶

○ 明治八年四月廿三日地第三十六号市中區戸長へ達
 輸出入物貨運送ノ輝及客船等ノ渡世致度モノ號旗号燈下ケ渡方當地稅關へ願出候節從前ハ差配人ノ手ヲ經候處自今ハ當府ヨリ兼テ下渡置候鐵札ヲ添へ稅關へ可願出候様船持ノ者へ無洩可相達候事

● 明治八年十一月十二日地第百廿七号市郡區戸長へ達

明治五年第七月太政官第二百九号及七同七年一月第五号ヲ以海上衝突豫防規則公布相成候處今以点燈不認向モ間々有之自然衝突危難ノ場合ニ立至リ候者モ不少越甚以等圖ノ事ニ候就テハ今般府下第三大區十小區薩摩堀南ノ町杉谷市兵衛外一名ヨリ海船燈製製造發賣之儀願出許可シ本月廿一日方左ノケ所ニ於テ賣捌キ候條諸廻船持ノ者へ無洩可相達候事
 (賣捌ケ所零ス)

現行

● 明治九年三月十二日地第四十三号市郡區戸長へ達
 舷燈製作發賣規則別紙之通達有之候條此旨相達候事(別紙欠ク)

公上

● 明治十年五月十五日地第七十号市郡區戸長へ達

諸商船舷燈點火ノ義ハ明治七年第五号及明九年第十一号公布ノ趣モ有之候ニ付掲燈航海候ハ勿論ノ義ニ有之候得共日本形風帆船ニシテ往々紅綠白ノ三燈ヲ掲ケ候者有之趣右ハ風帆ト蒸氣トノ區別ヲ紊リ自然衝突等ノ大害ヲ可醸成ニ付豫テ御預布相成居候海上衝突豫防規則ノ通日本形及西洋形風帆船ノ義航海中ハ紅綠二燈ノ外決シテ他燈ヲ現出不致様注意且舷燈隔板ノ義ハ必ス長サ三尺方不少様裝置左右其適當方位ヲ光シ候様可致旨内務省方達有之候條御規則ニ觸サル様屹度注意可致此旨各區内船持ノ者ニ早々無洩可相達候事

● 明治十一年八月十二日天第百廿三号達

明治七年第五号ヲ以テ海上衝突豫防規則公布相成候就テハ積石百石未滿ノ日本形小船ニ相用候舷燈製造販賣致度モノハ百石積以上供用品ノ尺度ニ混同セサル様製造シ該品相添へ可願出此旨管内無洩相達候事

● 明治十一年十月十五日天第百五十八号達

明治七年第七号ヲ以海上衝突豫防規則同九年第十壹号ヲ以同豫防規則公布相成候ニ付テハ一般右規則ヲ熟知シ甲乙正向或ハ斜向ノ時ハ燈光ノ紅綠ヲ認認シ各其航路ヲ轉シ衝突ヲ避ヘキ處日本船ニ於テハ往々規則ヲ誤了シ點燈ノ方位宜シキヲ得サルノミナラス甚シキハ舷燈ノ位置ヲ誤リ紅燈ヲ右舷又綠燈ヲ左舷ニ掲出候趣右ハ航夫ノ不注意方衝突ノ危險ニ觸レ人命貨物ノ損失ヲ顧慮セス甚以容易ナラサル儀ニ付自今出入ノ船舶

非現行
 十二号天
 四百號送
 以テ取
 附ス

ハ船政所ニ於テ監査教戒可致儀モ可有之候得共右規則細心暗記冒險不致様注意可致此旨管内船持并ニ出入船舶ハ無洩論達候事

●明治十二年十二月廿三日天第四百号達

明治十一年八月當府天第百二十三号達ハ詮議ノ次第有之自今取消候條此旨管内無洩相達候事

由現行
十五年甲
八十六号
ヲ以テ廢
止ス

●明治十三年十月十四日天第五百一十一号達
府下舷燈受賣人又ハ鐵葉細工職等ニ於テ舷燈修繕致來候處以來該品製作免許人ノ外修繕不相成候條此旨布達候事

●明治十五年八月十二日甲第八十五号達

太政官明治十三年七月第卅五号公布海上衝突豫防規則中碇船燈漁船燈紅燈黑球燈等製造及販賣ノ儀ハ見本品相添所轄郡區役所ヲ經テ本府へ出願スヘシ此旨布達候事

現行

●明治十五年八月十二日甲第八十六号達

船燈(橋燈及舷燈ヲ稱ス)販賣ノ儀ハ農商務省昨十四年八月甲第四号布達船燈製造及販賣規則ニ據リ免許ヲ受ヘキハ勿論免許製造人ノ外該品修繕不相成候條心得違無之様可致此旨布達候事 但十三年天第百五十一号布達ハ廢止トス

●明治十五年十月十六日乙第四百十号郡區役所へ達

今般古來船舶ノ制度取調ニ付其筋方達ノ次第有之候條其管下社寺或ハ舊家舊船手册奉

行等相勤候者又ハ其他ニ於テ別紙目錄ノ書類並現品所藏ノ者取調其現品ハ繪圖面ニ書類ハ謄寫シ別紙ノ期日ヲ限リ取纏メ差出スヘシ此旨相達候事 但所藏ノ現品及書類無之向ハ同日限リ届出ヘシ

(別紙)

- 一 内外船舶ノ圖
- 一 同航路ノ圖
- 一 右ニ關スル書類并法律書
- 一 同造船仕法書
- 一 同海上交戰演習等ノ圖
- 一 同船具ノ圖
- 一 右ニ關スル書類并法律書
- 一 河海漁船ノ圖
- 一 右ニ關スル書類并法律書
- 一 遊船ノ圖
- 一 同船具ノ圖
- 一 右ニ關スル書類并戰方書等
- 一 右諸船舶其航海等ノ發明人ノ小傳并書類但海賊全斷
- 一 同船具ノ圖
- 一 同航海日記
- 一 河船ノ圖
- 一 同造船仕法書
- 一 舊公方將軍大名御召船ノ圖
- 一 古代海賊船ノ圖

○舷燈製作及點燈並船舶

一外國航海貿易ノ書類日記等

右ハ古代ヨリ慶應三年迄ノ分明治十六年一月三十一日限

一和樣航海荷船并各種造船明細圖

一船具全上

一川船全上

一川船具全上

一河海漁船全上

一河海漁船具全上

一河海遊船全上

右者現今ノ分明治十六年二月廿八日迄但右兩樣共圖面ニ認候分ハ現品ノ寸尺詳

細記載ナシ同種類ノ者ハ差出スニ及ハス

●明治十六年一月十六日乙第六号郡區役所へ達

客年十月乙第四百四十号ヲ以古來船舶ノ制度取調ニ付其部内社寺或ハ舊家舊船手船奉行等相勤候者其他ニ於テ所藏スル書類及繪圖面等云々相達置候處右ハ其筋へ差出期限切迫致居候條書類又ハ圖面所藏ノ者有之候ハ、原本借上ケ來ル二月廿五日限當府庶務課へ回送可致但現品ノミニテ圖面ナキモノハ其品名并ニ所有主姓名取調有無共同日マテニ申出ヘシ此旨相達候事

諸職工開止業及轉居届代替

非現行
第十四号
甲以テ
廢止ス

●明治十三年六月廿九日天第八十八号達

諸職工ノ者へ從來鑑札下附候處詮議ノ次第有之本年七月一日ハ廢止候條同日以後開止業ノ節ハ所轄郡區役所へ伺出公認ヲ受ケヘシ此旨布達候事
但從來下附ノ鑑札ハ速カニ所轄郡區役所へ返納可致事

現行

●明治十四年三月廿三日甲第四十八号達

諸職工ノ者開止業或ハ轉居代替等ニシテ尙繼續營業候者ハ自今所轄郡區役所へ届出ツヘシ此旨布達候事 但十三年當府天第八十八号布達ハ廢止候事

農務

農産會市

現行

●明治十一年二月十八日天第十七号達

農業勸誘ノ爲メ東京三田育種場ニ於テ別冊假方法ヲ以テ農産會市開設有之候處尙更ニ各地方著名ノ穀菜種物交換ノ爲メ毎年二月十一日ハ同廿一日迄八月十一日ハ同廿一日迄ノ間大小市日ノ外開場候旨勸農局ハ照會有之右ハ偏ニ農業ヲ勸獎誘導スヘキ爲ノ儀

○農産會市

ニ付該方法ヲ熟讀シ能ク其趣旨ヲ体認各自競テ該場ニ附會シ相共ニ利益ヲ謀候様可致此旨管内無洩相達候事 但本文會市方法書ハ各區會議所及ヒ事務所ニ下附候條熟讀可致尤不分リノ者ハ區戸長ヘ委細口頭相尋可申事

(會市方法書略ス)

現行
十三年八月
廿四號達
參看

●明治十一年五月十日天第七十六号達

東京三田育種場ニ於テ農産會市開設ノ義本年當府天第七十七号ヲ以相達候處這回種苗交換規則左ノ通相定候旨勸農局ハ照會有之候條豫テ相達候趣旨以テ体認シ精々出品交際候様可致就テハ出品者ノ都合或ハ僅少ノ出品等ニテ直ニ差立方不都合ノ向ハ荷道等都テ注意シ該則ニ準シ當府ヘ差出候ハ、送致可取計候條此旨管内無洩相達候事 但出品費ハ該出品者ノ自辨ト可相心得事

(規則書略ス)

現行

●明治十三年八月十二日天第百廿四号達

明治十一年五月當府天第七十六号布達東京三田育種場種苗交換規則第四則開市每年春秋兩次ニ候處來明治十四年ハ秋季開場廢止候旨勸農局ハ照會有之候條此旨布達候事

●明治十六年一月廿二日示第五号達

農務局東京三田育種場ニ於テ例年之通來ル二月一日ハ九日間種苗交換市開場候旨通報有之候ニ付有志ノ者ハ精々可致出品此旨告示候事

農事通信手續

非現行
十五年一月
乙第廿五日
号達ニ依
テ消ル

●明治八年三月四日地第廿号市中區戸長ヘ達

物産取調ノ義ニ付テハ追々達ノ次第モ有之候處去ル七年分ヲ未タ申出サル向モ有之石ハ其筋ヘ上申ノ都合モ有之事ニ付本月十日限無遺漏取調可差出候猶本年一月二分ノ義ハ當月中差出以來毎月十五日限前月分取調可差出此段更ニ相達候事

●明治十四年二月廿八日乙第卅一号攝津國郡區役所ヘ達

京畿農區視察員今般府下巡回ニ付左ノ通り事項取調方申出候趣キモ有之候間至急取調可差出此旨相達候事

但明治十三年九月三十日番外達ノ通視察員巡回ノ際直ニ照會相成候義モ有之ニ付此旨可相心得候事

(別紙略ス)

●明治十五年一月廿五日乙第十三号郡區役所戸長役場ヘ達

明治十年地第百八号及舊堺縣乙第六十四号ヲ以テ物産取調方ノ儀相達置候處今般別紙ノ通改正候條精々注意每翌年二月廿五日限り取調可差出此旨相達候事

(別紙) (十年地第百八号ハ誤テ商工通信事項ノ部ニ載ス)

非現行
十六年十一月
百六十二
号ヲ以テ
廢止ス

農産表編製例言

第一 此農産表ハ管内必用ナル農業上ノ産出物ニ就キ其播種地産額通價ノ増減ヲ徴センカ爲ニ編成スルモノナリ

第二 物産ノ種類ヲ大別シテ二種トナス第一普通物第二特有物産是ナリ

第三 普通物産トハ各地一般ニ耕種スル所ノ日用食糧ノ要品ヲ云フ此ヲ定メテ十四種トス其目左ノ如シ但第一号表式ノ如ク調成スヘシ

米 糯米 大麥 小麥 裸麥 粟 黍 稗 大豆
蕎麥 蜀麥 玉蜀黍 甘藷 馬鈴薯

第四 特有物産トハ地質氣候等ノ異同ニヨリテ産出ノ地方限リアル者ヲ云フ此ヲ假定シテ廿九種トス其目左ノ如シ 但第二号表式ノ如ク調成スヘシ

寶綿 麻 繭 生糸 藍葉 製茶 甘蔗 楮皮
生蠟 漆汁 葉煙草 菜種 紅花 紙類 蘭 椎茸
蜂蜜 寒天 乾鮑 乾蝦 乾魚 鱒 鱈 鱈 海參
鯉節 石花菜 干鰹 阿片 茴香

第五 特有物産ハ第四項ノ如ク假定シ蔬菜菓實ノ類其生質腐シ易クシテ久藏遠輸ニ堪ヘサルモノハ姑ク之ヲ除クト雖其貯藏法ヲ得テ遠ク地方ニ輸送スルモノ或ハ第四項ノ種類ニ均シキ生質ヲ有スル著名ノモノハ可成漏サ、ルヲ要ス

第六 凡ソ取調ハ戸長役場ニテ之ヲナシ郡區役所ヘ差出シ郡區役所ニ於テハ一郡毎ニ之ヲ調整シ本府ヘ指出スヘシ

第七 數量ハ穀類等ニハ石ヲ用ヒ其他ハ都テ斤(百六十匁)ヲ用ユヘシ

第八 耕地ハ現ニ植物ヲ栽培スル所ノ反別ヲ記載スヘシ

第九 凡ソ産額ノ増減平年ニ比較シテ大ニ差異アルモノハ其原因ヲ究認セサル可ラス例ヘハ風雨寒暑水旱霜蟲ノ災或ハ開墾培養種子器具方法ノ改良進歩等ニテ其産出ヲ増減シ或ハ貿易隆替ノ影響等ニテ栽培ヲ増減伸縮スルノ類宜ク注意シテ其事ヲ詳悉シ每郡ノ表尾ニ附記スヘシ

第一号表式

明治 年 國 郡 普通物産表

米	糯米	大麥	小麥	粟	石	播種地段別	前年比較		産額	前年比較		一石一斤ノ通價
							増	減		増	減	

○農事通信手續

非史行
十六年十
一月乙系
百六十二
號ヲ以テ
廢止ス

●明治十五年九月廿二日乙第百廿七号郡區役所へ達
農産物収期ノ景況及其増減價格等報告方今般別紙様式之通相定候條自今右ニ照準調理
ス可シ此旨相達候事

例言

- 第壹 是ノ様式ニ依リテ報告スヘキ農産物及期限ハ左ノ如シ
 - 一 大麥小麥裸麥粟種阿片
右七月三十日限
 - 二 製茶
右八月三十一日限
 - 三 早稻(粳糯)中稻全粟黍稗大豆小豆蕎麥蜀黍玉蜀黍馬鈴薯實綿葉烟草薑藍葉麻甘
蔗 右十一月三十日限
 - 四 晚稻(粳糯)當歸川芎吳茱萸芍藥牡丹皮楮皮生漆椎茸
右十二月二十七日限
- 第貳 平年ニ比シタル歩合ノ算出ハ現収獲高ト平年収獲高ト差引シテ其殘餘ヲ平年収
獲高ニテ扣除シ増減ヲ定ムヘシ
- 第三 播種以來成熟ニ至ル景況ハ風雨暑寒水旱、病蟲等ノ作毛ニ關係セン顛末ヲ記
載スヘシ

第四 參考部ニ掲クル平年一反歩ノ収獲ヲ最初ニ定ムルハ昨十四年以上五ヶ年ニ遡
リ平均額ヲ算出スヘシ其從來報道ニ係ル者ニモ既ニ詳カナルモノハ其額ニ從フ

第五 第一項ニ漏ル、處ノ農産物ハ其地方ニ於テ取調可成丈遺スナク此ノ様式ニ準シ
報告ス可シ

第六 是ノ報告ハ農産物ノ収期ニ當ツテ其概況ヲ知悉センカ爲メナレハ可成丈迅速ナ
ルヲ要スヘシ

明治何年農産物概況報

何國何郡何ヶ町村

品名	壹反歩ノ収獲高	平年ニ比シタル歩合	壹石壹斤或ハ壹貫目ノ通價
		同	同
		同	同
		減	
		増	

播種以來成熟ニ至ル景況

例言第三項ノ通り心得一品限り適宜ニ記述スヘシ

參考部

品名 平年一反歩ノ収獲高 品名 平年一反歩ノ収獲高

右之通報告候也

○農事通信手續

左ニ掲クル品類ハ附録第十九号ニ倣ヒ毎年其耕作ノ損益ヲ調査シ次年三月中ニ報道スヘシ

米○麥○粟○黍○稗○蕎麥○蜀黍○大豆○小豆○蠶豆○豌豆○甘薯○甘鈴薯○粟薺○苧綿○大麻○苧麻○苧葉○菜種○甘蔗○苧粟○葉烟艸○蘭

第六項 蠶 茶

茶園桑圃ノ段別ハ附録第十号第廿二号ニ倣ヒ五年毎ニ調査シ次年六月中ニ報道シ製茶副製糸及ヒ蠶卵紙産額ハ附録第廿一号第廿二号ニ倣ヒ毎年調査シ次年三月中ニ報道スヘシ但其概況ハ附録第廿四号ニ倣ヒ春夏蠶ハ其年八月秋蠶ハ十月製茶ハ七月中ニ報道スルモノトス

第七項 製 糖

各種糖業ノ景況ヲ報道スヘシ但其種類製額等ハ附録第二十六号ニ倣ヒ毎年調査シ次年三月中ニ報道スルモノトス

第八項 蜜蜂家畜

蜜蜂家畜等繁殖減耗ノ景況ヲ報道スヘシ但蜜蜂ハ附録第廿七号ニ倣ヒ毎年其産額等ヲ調査シ次年三月中ニ報道スルモノトス

第九項 畜 産

家畜及食料製造料ニ供スヘキ野生動物等ノ景況ヲ報道スヘシ但牛馬羊豚ハ附録第

二十八号ヨリ第三十二号マテニ倣ヒ毎年十二月三十一日ノ現數兩數ヲ調査シ次年三月中ニ報道スルモノトス

第十項 開墾 新地開墾荒地起返等着手ノ方法及ヒ其後ノ景況ヲ報道スヘシ

第十一項 肥料 種類製造需給ノ景況等ヲ報道スヘシ

第十二項 漁業漁場 鰻、烏賊、鱈、漁業ハ附録第三十三号ト第三十五号迄ニ倣ヒ漁場及漁船ハ附録第卅六号第卅七号ニ倣ヒ毎年調査シ次年三月中ニ報道スベシ

第十三項 水産物 河海湖沼ノ魚介藻類等繁殖減耗ノ景況漁業盛衰ノ原因等ヲ報道スヘシ但左ニ掲クル品類ノ養食及産出額等ハ附録第卅八号ヨリ第四十一号迄ニ倣ヒ毎年調査シ次年三月中ニ報道スルモノトス

鯉○鮭○鱒○鮠○丹麩○海鼠○海苔(以上養殖)○乾魚○鰯魚○海苔乾鰯搾滓○魚油(以上産出)

第十四項 漁業収益 河海ノ捕魚採藻ニ係ル數量價格等附録第四十二号ニ倣ヒ毎年調査シ次年三月中ニ報道スヘシ

第十五項 水陸産ノ災害 氣候ノ變鳥獸、蟲病ノ害都テ水陸ノ産物ニ影響アルモノハ其害ノ淺深及驅除豫防ノ景況成迹等ヲ報道スヘシ

第十六項 諸規則、著書、報告 農ニ關スル諸達、告示、規則、及調査書會社協會等ノ規則並報告書或ハ官民一般ノ著述、翻譯、報告書等ハ成ルヘク現品ヲ郵送スヘシ但著

●明治十六年十二月十八日乙第百七十五号郡區役所へ達
今般農商務省ニ於テ本朝農書編纂相成候就テハ農政農業ニ關スル古文書及舊記類ノ苟
クモ農書ニ參向スヘキ者ハ細大無漏其題名目次取調來十七年一月限當府勸業課へ可差
出此旨相達候事 但本文ノ書類無之向モ同月限其旨申出ヘシ

●明治十七年二月七日乙第十三号郡區役所戸長役場へ達
農事通信手續ノ儀客年十一月當府乙第百六十二号ヲ以テ相達置候處右附録様式中左ノ
通更正増補候條此旨相達候事

第二号 耕作地表

様式欄外附言

「田作付反別ハ区中ヲ縱テニ區劃シニ毛作以上ニ係ル分ヲ朱記シ圖作付反別ハ一
毛作ニ毛作ニ拘ハラス現ニ作付セシ分ヲ掲ケ不作付反別ハ其事故ヲ備考欄内ニ
詳記スヘシ」ト更正ス

第八号 新規開墾地表

様式欄外附言

「民有地ハ(開墾許可反別)ノ一区ヲ省キ別表ト爲スヘシ」ノ二十三字ヲ加フ
第十九号 地益表
様式中

栽植株數ヲ(播種量代價)ト改メ及糞培料ノ一項ヲ省キ該欄内ヲ二割ニ分チ(肥料代價)(諸費)ノ二目トナス

全欄外附言

「表中諸費トハ地租、地方税、町村費等ヲ云」十七字ヲ増加ス

第三十号 羊頭數表

様式中

洋種ノ次へ(雜種)ノ一評ヲ増加ス

第卅一号 豚頭數表

様式中

外種ノ次へ(雜種)ノ一評ヲ増加ス

現行

●明治十七年三月五日乙第廿七号郡區役所へ達

諸港灣河岸場輸出入物品及船舶ノ員數取調ノ義務ヲ相違置候處更ニ本年一月分ヨリ別紙調査凡例ニ基キ第一二表ノ通調整可指出尤各區内ノ如キ商業仲間ノ取締人設置有之向ハ其取締人各郡ニ在リテハ特ニ該地ノ戶長若クハ問屋仲買又ハ小賣商等ノ内ヲシテ調査報告セシムヘシ尙ホ調査スヘキ場所左ノ通り假定候條此旨相達候事
但十三年本府地第百十三号達中製産物調査ノ義ハ從前ノ通心得ヘシ
(此達商工通信事項中ニ其全文ヲ掲ク故ニ別紙調査凡例及調査場所ハ今之ヲ省ク)

現行

●明治十七年三月八日乙第卅号郡區役所戶長役場へ達

客年(十一月)乙第百六十二号達農事通信手續書式第一号氣候表ノ義左ノ通改正候條本月分ヨリ右ニ準シ報告スヘシ此旨相達候事

第一号氣候表 報道期毎月

明治何年何月氣候表

大阪府下何國何郡役所調査

月 日	華氏或ハ攝氏 温度		風 向	晴 雨	記 事
	午正	午正			
平均	度	度			

温度風向晴雨共當日正午ノ景況ヲ記スヘシ

記事欄内ニハ前二十四時間内ニ起リタル晴雨霰雪霜水霧露雷電風ノ強弱其他氣候上ニ關スル變化等ヲ簡略ニ記スヘシ此他前達ノ通りタル可シ

●明治十七年四月十一日乙第四十八号郡區役所へ達

客年十一月當府乙第百六十二号達農事通信ノ儀ハ毎期月五日限本年三月乙第二十七号

現行

○農事通信手續

現行

達港灣河岸場輸出入商品及船舶調ノ義ハ毎期月十日限調査報告スヘシ此旨相達候事

○明治十七年四月三十日乙第五十二号郡區役所戸長役場へ達

明治十六年十一月常府乙第六十二号達農事通信手續中左ノ通更正ス此旨相達候事

一 戸長役場ニ於テ調査ノ期限「毎期限十日前」トアルヲ「毎期月十日前」ト改ム

一 第三條第一項氣候表ハ自今戸長役場ニ於テ調査シ報告スルニ及ハス

▲伺及指令

○農商務通信規則ノ儀ニ付福岡縣伺 十七年一月廿八日

明治十六年十二月御省第廿一号ヲ以テ農商務通信規則ヲ被制定己ニ農事通信事項並
様式主務局ヨリ通牒有之候ニ付テハ自今該規則ニ準シ實施致シ候儀勿論ニ有之候處
營テ成規或ハ農商務局ノ求メニ依リ調製致來候普通特有物產表家畜表寒暖表疫牛表
被害反別調製桑茶反別調製等ノ如キハ今度主務局ヨリ通牒ノ様式ト大同小異ニシテ重複
ノ姿ニ相成候モノ有之右ハ兩様ノ取調致候片ハ不容易手數ニ亘リ何分行届キ兼候條
從來成規或ハ照會ニ依リ調製候分ハ渾テ之ヲ廢セラレ一々今度御達ノ規則ニ準據候
様致度至急何分ノ御指令有之度此段相伺候也

○農商務省指令 伺之通 十七年二月廿一日

○通信規則ノ儀ニ付山形縣伺 十七年四月四日

客年十二月御省第廿二号ヲ以テ農商務通信規則ヲ被達尋テ右規則ニ基キ農商務局へ

通信スヘキ事項ハ農事通信事項並表式ニ有之候旨農務局ノ通牒有之候ニ付テハ自今

該規則ニ準シ實行可致ハ勿論ノ儀ニ候處右通信ノ様式ハ曾テ成規或ハ主務局ノ照會

ニ依リ調製致來候普通特有物產表家畜表被害反別調製茶繭絲產額表ト對照交視スル

ニ大同小異或ハ一層精密ニ重複ノ姿ニ相成候者有之右ハ乍爾取調致候片ハ民間不

容易手數ニ涉リ候ノミナラス何分行届兼候事情ニ候條從來成規或ハ照會ニ依リ調製

申報致來候ハ都テ之ヲ廢シ一々今般御達ノ規則ニ準シ候様致可然哉此段相伺候事

○農商務省指令 伺之通 十七年四月廿二日

○農商務通信規則之儀ニ付岐阜縣伺 十七年四月七日

客年十二月御省第二十一号ヲ以テ農商務通信規則御達相成己ニ農事通信事項ハ主務
局ノ通牒有之候ニ付自今該規則準據取扱可申ハ勿論ニ候處從來成規或ハ主務局ノ請
求ニ依リ調製致來候普通特有物產表牧牛場表被害段別表桑茶段別表等ノ如キハ今般
通牒ノ様式ト大同小異ニ重複ノ姿ニ相成候者有之右ハ兩様ノ取調致候時ハ不容易
手數ヲ要シ何分行届兼候間成規或ハ照會ニ據リ調製致來候分ハ總テ廢止セラレ今度
御達ノ規則ニ準シ一々調製候様仕度此段相伺候條至急何分ノ御指令有之度候也

○農商務省指令 伺之通 十七年四月廿九日

北海道移住士族取扱規則

現行

●明治五年十月第三百五十七号達

北海道開拓地所賣下並ニ除租等ノ規則別紙之通被仰出付テハ管下人民之内子弟厄介等ニテ彼地へ移住開墾志願之者ハ當府へ可申出候事 右之趣管内無洩相達ルモノ也

壬申十月

大坂權知事 渡邊昇

北海道開拓創業以來募移自移ノ徒日月ニ増加今日ニ至リテハ運送行旅モ不便トセス然ルニ元ヨリ曠莫ノ地ナレハ肥沃多産ニシテ廢棄スル者恒十ノ八九ニ居レリ因テ今度全道開墾ノ地低價賣下後期除租等ノ規則別紙開拓使仰告之通施行セシムル條墾闢牧畜或ハ漁獵採鑛等都テ生産興工ノ志願有之者ハ同使へ可申事

壬申九月

太 政 官

北海道土地賣貸規則

第一條 原野山林等一切ノ土地官屬及ヒ從前拜借ノ分目下私有タラシムル地ヲ除ノ外都テ賣下ケ地券ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事

第二條 賣下ノ地一人十萬坪ヲ以テ限リトシ下手後十ヶ年除租タル可シ尤モ己ニ私有

シタル地ヲ相對賣買スル者ハ其坪數制限ナカルヘキ事

第三條 賣下ノ地價上等千坪壹圓五十錢中等全壹圓下等五十錢千坪以下其割合タル可ク且其地代即納タルヘシト雖モ家産中人以下或ハ罹災究乏ノ者ハ三年乃至五年賦上納申付ル儀モ可有之事

第四條 既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業ハ勿論他人ニ賣却スルモ其地主ノ自由タルヘシ尤右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意シ其方法及ヒ期限等詳細ニ申シ出ツ可キ事

第五條 人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人へ賣渡シ或ハ之ヲ引當トシテ金子ヲ借受ル等禁止タルヘキ事

第六條 土地買下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二ヶ月中ノ地ハ十五ヶ月下ノ地ハ二十ヶ月ヲ過キ不下手者ハ上地申付ル事

第七條 除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニヨリ適當ニ可相定事

第八條 探鑛漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願スル者ニハ其方法取調年限ヲ立貸地等ニ差出シ稅則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相定事但諸鑛山脈理等ノ甲乙ハ查了シテ可公布事

第九條 右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シテ國家人民ノ利ヲ興シタル者へハ其功業ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ付與シ或ハ專賣除租ノ榮利ヲ與ル等ノ

○北海道移住士族取扱規則

處置可有之事 右之通候事

壬申九月

開 拓 使

現行 第七百十
號 達 參

現行 第七百
十五 號 達 參

●明治十六年一月卅一日乙第拾三号郡區役所戸長役場へ達
 北海道開墾ノ爲メ移住セントスル者ハ當初充分準備ヲ整ヘ渡航可致ハ勿論ニ候處着港
 直ニ旅費欠乏ノ爲メ移住後給與可相成金品ノ幾分操替渡シテ請願シ又ハ着後間モナク
 降雪ニ際シ小屋掛其他非常ノ困難ヲ極メ留ニ目的ヲ達セサルノミナラス終ニ公私ノ救
 助ヲ仰ク場合ニ立至ルモノ不尠哉ニ相聞ヘ不都合ノ至ニ候是全ク實地ノ景況ヲ熟知セ
 ス輕舉移住スルノ招ク處ニシテ畢竟其初ニ當リ深慮セサルニ因ルト雖モ該地ニ於テハ
 明治七年七月開拓使第二号布達ニ照ラシ取扱ノ外別ニ救助ノ途無之候條今後出願ノ者
 有之節ハ身元及其目的等篤ト取調着後一兩年間衣食ノ餘裕アル者ニ限り出願セシメ且
 乘船票下付相成候上三月ヨリ九月頃迄ニ渡航セシメ相對テ以テ定規外ノ船ヲ雇候様ノ
 義無之様取計ヘク此旨相達候事

●明治十六年八月廿五日示第二百拾四号達
 今般特別ノ義ヲ以テ明治十五年度々同二十二年迄迄八ヶ年間毎年士族二百五拾戸(但

百五拾戸札幌縣五拾戸函館縣五拾戸根室縣)宛保護加ヘ北海道へ移住セシムヘク旨農
 商務卿ヨリ第九号ヲ以テ達相成候付テハ移住志願ノ士族ハ左ノ件々篤ク相心得出願可
 致尤限アル戸數ニ付悉ク志望ヲ充タス能ハサル義ハ豫メ可相心得別冊北海道三縣移住

士族取扱規則相添此旨告示候事

- 一 項 農商務省 本年 告示第五号遵守スヘキ事
- 二 項 移住請願ノ士族ハ移住地々方官管内 本年 布達移住士族取扱規則ヲ遵守スヘキ事
- 三 項 移住士族渡航保護ノ義ハ 本年 第十号布達轉轉移住者手續ニ依リ農商務省へ可
請願事
- 四 項 移住請願ノ士族ハ農商務省 本年 号外諭達ノ旨趣ヲ篤ク心得サスヘキ事
右告示第五号第十号布達並ニ号外諭達ハ郡區役所戸長役場ニアリ就テ見ヘシ

(別冊) 移住士族取扱規則

第一條 總則

- 第一項 凡ソ他道ノ士族本縣管内ニ送籍移住シ農業一途ニ從事セント欲スル者ハ此規
則ニ照シテ出願スルヲ得 但士族ニシテ農家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント
欲スル者ハ本文ニ準據スルヲ得
- 第二項 此規則ハ士族ノ最良因ニシテ自力移住シ得サル者ノ爲メ特ニ施行スル者トス
- 第三項 移住ハ明治十五年度 會計年度 以降毎年五十戸ヲ限リ八ヶ年間之ヲ移スヘシ
但本項制限ニ充ル時ハ此規則ニ由ルヲ得ス
- 第四項 移住者ハ一戸中強健ニシテ職業ニ堪ユル男女二人以上アル者ニ限ルヘシ
- 第五項 此規則ニ賴テ移住セシモノハ當初ヨリ二十五年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス若

○北海道移住士族取扱規則

シ中途廢疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサルルハ其事實ヲ具シテ願出ヘシ
第六項 凡ソ本則中改正又ハ増補ヲ要スルルハ其都度農商務卿ノ裁定ヲ經テ之ヲ施行
スルモノトス

第七項 此規則ニ違背スル者ハ各條ニ照シテ之ヲ處分ス

第二條 移住ノ順叙

第一項 移住者ハ第一号書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ願
出ヘシ

第二項 本廳ハ其戸數人口及事由ヲ調査シ意見ヲ具シ農商務卿ノ裁定ヲ經テ可許否

第三項 着船場ヨリ移住地マテ陸路ノ距離六里以上アル者ニ限り荷物運送費トシテ第
五條第二項ノ區別ニ照シ一戸金拾圓以内ノ額ヲ貸與スヘシ

第四項 移住ノ季節ハ本縣ニ於テ之ヲ豫定シ其時々願者ニ指示スヘシ各自隨意ニ渡航
スルヲ許サス

第五項 移住願ハ移住地配置ノ都合ニ依リ豫算ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ若シ豫算足ラ
サルルハ其豫算ニ滿ツルヲ俟テ移住セシムルヲアルヘシ

第三條 地所ノ制限

第一項 移住者配置ノ箇所ハ本廳ニ於テ豫メ指定スル所ノ區域ニ限ルヘシ但配置ノ箇
所ハ位置及地積等ヲ概記シ時々新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第二條 移住ノ制限

第二項 耕宅地ハ一戸凡ソ壹萬坪トシ素地代價及ヒ年季ヲ定メテ之ヲ貸與シ開墾地ト
ナリタル地所ニ限り滿季后滿三ヶ年間ヲ以テ素地代價徵收ノ期限トシ該期限内上納
ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第三項 貸地年季ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價ハ
千坪金五拾錢ヲ超エサルモノトス

第四項 貸地滿季后二十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地
代價徵收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第五項 耕宅地ハ豫メ其區畫ヲ定メ抽籤ヲ以テ分賦スヘシ各自隨意ニ選擇スルヲ不許

第六項 當籤ノ地所各自ノ都合ニ依リ相對示談ノ上交換セント欲スルトキハ其事由ヲ
具シテ認可ヲ請フ可シ

第七項 耕宅地ノ外山林又ハ原野ヲ拂下ケ一村若クハ數村ノ共有タラシムルコトアル
ヘシ

第八項 山林拂下ノ順叙ハ一般ノ成規ニ據ルヘキハ勿論ナリト雖其代價ハ實際ヲ酌
量シ拂下ケノ年ヨリ三十ヶ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルヲアルヘシ

第九項 既ニ拂下ケタル山林ハ永久保存ノ方法ヲ立シメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ
外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十項 樹木伐採ノ手續ハ都テ一般ノ成規ニ遵フヘシ

○北海道移住士族取扱規則

第四條 開墾ノ目的

- 第一項 凡ソ農業ハ其耕作ノ種類ニ因テ大ニ得失ヲ異ニスルモノナレハ本縣ニ於テハ常ニ氣ノ寒暖耕種ノ方法及ヒ物品ノ消流等ヲ勘査シ時々之ヲ勸奨指示スヘシ
- 第二項 耕地ハ豫メ一戸三町步下定メ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ス之ヲ墾了スヘシ而シテ尙ホ餘力アリ更ニ増地ヲ請求スル者ニハ其確否ヲ檢査シ應分ノ地積ヲ貸與スルヲアルヘシ三ヶ年ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉ケサル地所ハ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡替ヲナスコアルヘシ
- 第三項 豫定ノ耕地ヲ墾成スル爲メ毎戸必ス課程ヲ定メ新墾坪數ヲ日表ニ登記セシメ毎週其勤惰ヲ督視スヘシ
- 第四項 課程ハ雨雪其他實際就業シ得サル日數ヲ除キ一戸一日二十坪以上ノ耕地ヲ新墾スルモノトス若シ事故アリ其課程ヲ了ラサルハ次ノ一週日間ニ於テ必ス之ヲ償ハシムヘシ
- 第五項 課程ヲ怠タルト一ヶ年間三回ニ及フ者ハ其輕重ヲ酌量シ輕キハ五日乃至十日重キハ一月乃至三月全家米糠贈ノ貸與ヲ停止スヘシ
- 第六項 穀菽及藍麻菜種ノ類凡ソ地方ノ物産トナスヘキ者ハナルヘク之ヲ勸奨シ漸次其販路ヲ開カシムヘシ
- 第七項 毎歲播種ノ耕産ハ豫テ其段別及種類ヲ詳記シテ届出ヘシ本縣ハ之ヲ調査シ異

見アル片ハ更ニ其段別ヲ増減シ又ハ種類ヲ改撰セシムヘシ

- 第八項 日々就業ノ時間及ヒ開墾ノ順叙ハ別ニ定メタル細則ヲ遵守スヘシ
- 第九項 凡ソ此舉ノ方法ハ本縣ニ於テ擔當官吏ヲ實地ニ派シ其事業ヲ督視シ勤惰ヲ查察セシムヘシ若シ其指揮ニ背ク者ハ本條第五項ニ準據處分スヘシ

第五條 貸與ノ規程

- 第一項 貸出スヘキ金員ハ一戸三百拾三圓五拾錢ニ超ヘサル額ヲ程度トシ左ノ制限ニ照シテ貸下ヘシ

移住者一戸貸與額ノ制限

七年以上	五圓五拾錢	一人一口ノ額
六十年未滿	三圓五拾錢	
七十年未滿	三圓	
六十年以上	三圓	
鐵	三挺	大 二
山刀	一挺	小 一
鋸	一挺	鐵 二挺
鋤	二個	鋤 二挺
荒砥	中砥一	鋤 二挺
肥桶	一荷	鐵 二挺
假屋作料	金七拾五圓以內	鐵 二挺
着港ヲ移住地迄	金拾圓以內	鐵 二挺
陸路荷物運送費	金拾圓以內	鐵 二挺
第一項ノ制限ニ據リ左ノ手續ニ照シ		鐵 二挺

○北海道移住士族取扱規則

テ下渡スヘシ

金品下渡ノ手續

米及鹽贈料 以上各戸現在ノ人口ヲ計算シ移着ノ月ヨリ滿二ケ年間每一ケ月分其前月下旬ニ渡スヘシ

農具農牛馬及種子物料 以上農業着手ノ緩急ニ應シ移住初年ニ限り下渡スヘシ

假屋作料 以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ檢査シ積書ノ員相當ト認ムルルハ出貨金額ヲ三分シ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ后下渡スヘシ

陸路荷物運送費 以上着船場ヨリ移住地迄六里以上十里未滿ハ一戸金二圓五拾錢十里以上二十里未滿ハ全上金五圓二十里以上三十里未滿ハ全上金七圓五拾錢三十里以外ハ全上金拾圓ヲ貸下ヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貨金額ニ組入ルヘシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ遲速ニ係ハラス都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間無利子据置翌八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限り返納セシムルモノトス 但若シ期日ニ至リ滞納スル者アルルハ該金額ニ年一割二分ニ相當スル利子ヲ課シ滞納日數ニ應シテ徵收スヘシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第二号書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其誤

謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ証書ヲ徵シテ下渡スヘシ

第六項 出生死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ証憑ニ供スヘシ而シテ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死亡ノ日ヨリ停止スヘシ

第七項 貸與金額皆納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣買讓與シ又ハ書入質入ト爲スヲ許サス

第八項 已テ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ飯村スルルハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽贈料貸與スヘシト雖モ若シ其日數六日以外ニ及フルハ飯着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而テ其日數ハ控除ニ飯スヘシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ后尙ホ課程ヲ怠ルノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係ラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ 但即時完納シ得サルルハ家屋及農具其他一切ノ所有物等ヲ公賣ノ其代價ヲ追徵シ尙ホ不足ヲ生スルルハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲メ二十戸ヲ以テ一組トシ每組ニ總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指揮ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シテ戸長ノ認可ヲ得ル者トス

第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳へ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限リニアラス

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援クルノ情義ヲ厚フシ決シテ疎漏ナキヲ務ムヘシ

第壹号書式 (戸籍調ハ一般ノ例規ニ倣フヘシ)

移住願

今般明治何年第何号御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下へ移住農業一途(或ハ農要關係ノ)ヲ以テ家産相營ミ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戸籍明細調書相添此何々(雇工)段奉願候也

何府縣下何國何郡何村何番地士族

年號月日

全 全 何ノ誰印 何ノ誰印 何ノ誰印

函館縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

第二号書式 (農具及假家作料荷物運送費等ノ仕出書式ニ此例ニ準スヘシ)

明治何年何月分御貸與米金仕出

戸長 何ノ誰印

一 米何程 何ノ誰 金何程 家族何人

内譯

七年以上六十年未滿 何人

米何程 但壹人ニ付一日 米五合

金何程 七年未滿六十年以上 金壹錢五厘

米何程 何人 但壹人ニ付一日 米三合

金何程 (以下每戸此例ニ倣ヒ列記スヘシ) 金壹錢

合 米何程 金何程

右ハ本年何月何日ヨリ何日迄日數何日分米金書面ノ通御貸與被下度依之仕出候也

年号月日

戸長 何ノ誰印 總代 何ノ誰印

第三号書式 (農具及假家作料荷物運送費等ノ証書式モ此例ニ準スヘシ)

印紙 貼用

證

一金何程

是ハ明治何年何月分御貸與米金七年以上六十年未滿何人七年前未滿六十年以上何人合何人分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無相違返納可仕候万一期限相滞候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ラヌ連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候爲后日拜借証書如此候也

年号月日

拜借人 何ノ誰印
全 何ノ誰印

函館縣令某殿

●明治十六年六月七日甲第二十号達

移住士族取扱規則別冊ノ通り相定候條此旨布達候事

札幌縣令 調所廣次

(別冊)

移住士族取扱規則

第一條 總則

第一項 凡ソ他道ノ士族本縣管内ニ送籍移住シ農業一途ニ從事セント欲スル者ハ此規則ニ照シテ出願スルヲ得 但士族ニシテ農家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スルモノハ本文ニ準據スルヲ得

第二項 此規則ハ士族ノ最貧困ニシテ自力移住シ得サル者ノ爲特ニ施行スルモノトス

第三項 移住ハ明治十五年度^{會計年}以降毎年百五十戸ヲ限リ八ヶ年間之ヲ移スヘシ

但本項制限ニ滿ツル時ハ此規則ニ由ルヲ得ス

第四項 移住者ハ一戸中強健ニシテ職業ニ堪ユル男女二人以上アル者ニ限ルヘシ

第五項 此規則ニ頼テ移住セシ者ハ當初ヨリ廿五ヶ年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス若シ中途廢疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサル時ハ其事實ヲ具シテ願出ヘシ

第六項 凡ソ本則中改正又ハ増補ヲ要スルハ其都度農商務卿ノ裁定ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス

第七項 此規則ニ違背スル者ハ各條ニ照シテ之ヲ處分ス

第二條 移住ノ願叙

第一項 移住者ハ第一号書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ願出ツ可シ

第二項 本縣ハ其戸數人口及事由ヲ調査シ意見ヲ具シテ農商務卿ノ裁定ヲ經テ可許否

第三項 着船場ヨリ移住地迄陸路ノ距離ノ六里以上アル者ニ限リ荷物運送費トシテ第

五條第二項ノ區別ニ照シ一戸金拾圓以内ノ額ヲ貸與スヘシ

第四項 移住ノ季節ハ本縣ニ於テ之ヲ豫定シ其時々願者ニ指示スヘシ各自隨意ニ渡航スルヲ許サス

第五項 移住願ハ移住地配置ノ都合ニ依リ豫算ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ若豫算ニ足ラサルハ其豫算ニ滿ツルヲ竣テ移住セシムルヲアルヘシ

○北海道移住士族取扱規則

第三條 地所ノ制限

- 第一項 移住者配置ノ個所ハ本縣ニ於テ塚メ指定スル所ノ區域ニ限ルヘシ 但配置ノ箇所ハ位置及地積等ヲ概記シ時々新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
- 第二項 耕宅地ハ凡テ一戸壹万坪トシ素地代價及年季ヲ定メテ之ヲ貸與シ開墾地トナリタル地所ニ限り満季后滿三ヶ年間ヲ以テ素地代價徵收ノ期限トシ該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ
- 第三項 貸地年季ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價ハ千坪金五拾錢ヲ超ヘサルモノトス
- 第四項 貸地満季后二十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ
- 第五項 耕宅地ハ豫メ其區畫ヲ定メ抽籤ヲ以テ分賦スヘシ各自隨意ニ選擇スルヲ不許ス
- 第六項 當籤ノ地所各自ノ都合ニ仍リ相對示談ノ上交換セント欲スル片ハ其事由ヲ具シテ認可ヲ請フヘシ
- 第七項 耕宅地ノ外山林又ハ原野ヲ拂下ケ一村若クハ數村ノ共有タラシムルヲ可有
- 第八項 山林拂下ノ順叙ハ一般ノ成規ニ據ルヘキハ勿論也ト雖其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ノ年ヨリ三十ヶ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルヲアルヘシ
- 第九項 既ニ拂下タル山林ハ永久保存ノ方法ヲ立テシメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ

外濫リニ伐採スルヲ許ルサス

- 第十項 樹木伐採ノ手續ハ都テ一般ノ成規ニ遵フヘシ

第四條 開墾ノ目的

- 第一項 凡ソ農業ハ其耕作ノ種類ニ因テ大ニ得失ヲ異ニスルモノナレハ本縣ニ於テハ常ニ氣候ノ寒暖耕種ノ方法及ヒ物品ノ消流等ヲ勘査シ時々之ヲ勸奨指示スヘシ
- 第二項 耕地ハ豫メ一戸三町步ト定メ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ス之ヲ墾了スヘシ而シテ尙ホ餘力アリ更ニ増地ヲ請求スル者ニハ其確否ヲ檢査シ應分ノ地積ヲ貸與スルヲアルヘシ三ヶ年ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉ケサル地所ハ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸與スヲナスヲアルヘシ
- 第三項 豫定ノ耕地ヲ墾成スル爲メ毎戸必ス課程ヲ定メ新墾坪數ヲ日表ニ登記セシメ每週其勤惰ヲ督視スヘシ
- 第四項 課程ハ雨雪其外實際就業シ得サル日數ヲ除キ一戸一日二十坪以上ノ耕地ヲ新墾スルモノトス若シ事故アリ其課程ヲ了ヘサル片ハ次ノ一週日間ニ於テ必ス之レヲ償ハシムヘシ
- 第五項 課程ヲ怠ルコト一ヶ年三回ニ及フ者ハ其輕重ヲ酌量シ輕キハ五日乃至十日重キハ一月乃至三月全家米鹽贈ノ貸與ヲ停止スヘシ
- 第六項 穀菽及ヒ藍麻粟種ノ類凡ソ地方ノ物産トナスヘキモノハ成ルヘシ之レヲ勸奨

○北海道移住士族取扱規則

シ漸次其取路ヲ開カシムヘシ

第七項 毎歲播種ノ耕産ハ豫メ其別段及種類ヲ詳記シテ届出ヘシ本縣ハ之ヲ調査シ意見アル時ハ更ニ其段別ヲ増減シ又ハ種類ヲ改撰セシムヘシ

第八項 日々就業ノ時間及ヒ開墾ノ順叙ハ別ニ定メタル細則ヲ遵守スヘシ

第九項 凡ソ其舉ノ方法ハ本縣ニ於テ擔當官吏ヲ實地ニ派シ其事業ヲ督視シ勤惰ヲ查察セシムヘシ若シ其指揮ニ背ク者ハ本條第五項ニ準據處分スヘシ

第五條 貸與ノ規程

第一項 出貸スヘキ金員ハ一戸三百三十拾圓ニ超ヘサル額ヲ程度トシ左ノ制限ニ照ラシテ貸シ下クヘシ

移住者一戸貸與額ノ制限

七年以上	玄米	壹錢五分合	一人一日ノ額
六十年未滿	糠	壹錢五分合	
七十年未滿	玄米	壹錢五分合	
六十以上	糠	壹錢五分合	
鐵	三挺	大一	鐵
		小二	二挺
山刀	一挺		鋸
			二挺
鐮	一挺		鐮
			壹個
錘	二個		鐵
			壹個
荒砥			肥補
中砥			壹荷
種子物料	金壹圓五十錢		假屋作料
			金七十五圓以內

耕牛馬ノ内毎二
戸ニ一頭ノ割 金二十五圓以內

着港々移住地迄
陸路荷物運送費 金拾圓以內

第二項 出貸スヘキ金品ハ本廳ニ於テ之ヲ管理シ第一項ノ制限ニ據リ左ノ手續ニ照ラシテ下渡スヘシ

金品下渡ノ手續

米及摺附料 以上各戸現在ノ人口ヲ計算シ移着ノ月ヨリ滿二ケ年間每一ケ月分其前月下旬ニ下渡スヘシ

農具農牛馬及ヒ種ヲ物料 以上農業着手ノ緩急ニ應シ移住初年ニ限り下渡スヘシ

假屋作料 以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ検査シ積書ノ金員相當ト認ムル時ハ出貸金額ヲ三分シ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ后下渡ヘシ

陸路荷物運送費以上着船場ヨリ移住地マテ六里以上十里未滿ハ一戸金二圓五拾錢十里以上二十里未滿ハ全上金五圓二十里以上三十里未滿ハ全上金七圓五拾錢三十里以外ハ同上金拾圓ヲ貸下クヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貸金額ニ組入ルヘシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ遲速ニ係ハラス都テ各自移着ノ月々起算シ滿七ケ年間無利子ニ据置翌八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限り返納セシムルモノトス 但若シ期日ニ至リ滞納スル者アルハ該金額ニ年一割二分ニ相當スル利

○北海道移住士族取扱規則

子ヲ課シ滞納日數ニ應シテ徵收スヘシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第二号書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其誤謬ナキヲ認メハ更ニ第三号書式ノ証書ヲ徵シテ下渡スヘシ

第六項 出產死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ証憑ニ供スヘシ而シテ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スヘシ

第七項 貸與金額皆納ノ日マテハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ書入質入ト爲スコトヲ許ルサス

第八項 己ヲ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ飯村スルルハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽附料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ其日數六日以内ニ及ブ

ルハ販着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ然シテ其日數扣除ニ販スヘシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ后尙ホ課程ヲ怠リタルノ場合ニ於テハ將來一切貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係ハラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ但即時完納シ得サルルハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公賣シテ其代價ヲ追徵シ尙ホ不足ヲ生スルルハ連借人ヲノ辨償セシムヘシ

第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲メ二十戸ヲ以テ一組トシ毎組ニ總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指揮ニ隨ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シテ戸長ノ認可ヲ得ルモノトス

第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限リニアラス

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援ルノ情誼ヲ厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムヘシ

(戸籍調ハ一般ノ例規ニ倣フヘシ)

第一号書式

移住願

明治十六年甲第二十五号御布達移住士族取扱規則ヲ遵寸シ御縣下へ移住農業一途(或ハ農家ニ緊要關係ノ何々職工)ヲ以テ家産相營ニ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戸籍明細調書相添此段奉願候也

年号月日

何府縣下何國何郡何町何番地士族

何某印

全 全
何某印 何某印

札嶋縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

○北海道移住士族取扱規則

年号月日

第二号書式

(農具及假屋作料荷物運送費等ノ仕出書式モ此例ニ準スヘシ)

明治何年何月分御貸與米金仕出

米何程
金何程
内譯

戸長 何某印

何 誰
家族何人

七年以上六十年未滿

何 人

但一人ニ付一日 米五合
金壹錢五厘

七年未滿六十年以上

何 人

但一人ニ付一日 米三合
金壹錢

米何程

金何程

(以下毎戸此例ニ倣ヒ列記スヘシ)

右ハ本年何月一日ノ何日迄日數何日分米金書面ノ通御貸與被下度因之仕出候也

年号月日

戸長 何誰印
總代 何誰印

第三号書式

(農具及假屋作料荷物運送費等ノ書式モ此例ニ準スヘシ)

印紙
貼用

證

一金何程

是ハ明治何年何月分御貸與米金七年以上六十年未滿何人七十年未滿六十年以上何人合何人分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無相違返納可仕候万一期限相滞候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ハラス連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候爲后日借証書如此ニ候也

年号月日

拜借人 何誰印
全 何誰印

札幌縣令某殿

●明治十六年六月廿九日甲第三拾四号達

士族移住民取扱規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

根室縣令湯地定基

(別冊)

士族移住取扱規則

第一條 凡ソ地道ノ士族 貧困ニシテ自力移住 本縣管内へ送籍移住シテ農業及漁業ニ從スル能ハサルモノ

○北海道移住士族取扱規則

事セント欲スル者ニ限り明治十五年度ヨリ一ヶ年五十戸ツ、向フ八ヶ年間移住ヲ許
 可スヘキ爲メ此規則ヲ施行スヘキモノトス故ニ志願者 一戸内ニ健康職業ニ耐フヘ目
 途ノ當否ヲ審査シ着實ナルモノハ農商務卿ヘ稟議ノ上許可スヘシ 但士族ニシテ農
 家漁業緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スルモノハ本文ニ準據スルヲ得
 第二條 農業ヲ以テ移住スヘキ國ヲ釧路根室北見ノ三ヶ國トシ其着手ノ順序ヲ二次ト
 定メ釧路根室ヲ第一着ニ北見ヲ第二着トナシ順次移住セシムヘシ漁業ヲ以テ移住
 ヲ許スヘキ國ヲ千島國トス

第三條 移住セシムル期節ヲ毎年五月ヨリ十一月ノ間トス

第四條 前條四ヶ國ノ中地所ヲ撰ンテ左ノ十二ヶ所トシ一ヶ所へ同時移住ノ戸數ヲ五
 十戸トス 但五十戸以下十戸或ハ二十戸ツ、移ラントスルルハ其數五十戸ニ充ツル
 ヲ待テ之レヲ移スヘシ

- | | | | | |
|-----|---------------|-----|----------|-----|
| 根室國 | 根室郡温根沼 | 百戸 | 全郡厚別村 | 百戸 |
| 釧路國 | 厚岸郡濱中山中ノコヘリベツ | 百戸 | 全郡真瀧村 | 二百戸 |
| | 釧路郡方白糖郡ニ至ル平原 | 三百戸 | 釧路郡釧路川沿岸 | 百戸 |
| | 川上郡塘路村 | 五十戸 | | |

北見國

- | | | | |
|--------|-----|--------|-----|
| 紋別郡河別村 | 百戸 | 網走郡網走村 | 二百戸 |
| 常呂郡常呂村 | 五十戸 | | |
| 千島國 | | | |
| 國後郡泊村 | 五十戸 | 擇捉郡擇捉村 | 百戸 |

第五條 移住者ハ別紙書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ願出
 スヘシ

第六條 此規則ニ頼テ移住セシ者ハ當初ヨリ二十五ヶ年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス若
 シ中途滯疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘザルルハ其事實ヲ具シテ願出スヘシ

第七條 移住地百物運搬ノ便利ヲ計リ壹戸毎ニ區畫ヲ正フシ貸與地ヲ割渡スヘシ

第八條 農業ヲ目的トナシ移住スル者ハ一戸ニ付宅地千坪開墾地壹方五千坪以内ノ地
 所ヲ貸渡シ貸地年季ハ貸渡ノ月々滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價千坪金
 五十錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開墾地トナリタル地所ニ限り滿季后滿三ヶ年間ヲ素地
 代價徵收ノ期限トス該期限内上納ノ者ニハ全時ニ地券ヲ下渡シテ私有地トナスヘシ

第九條 貸渡地ノ内耕地九千坪ハ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ス墾成スヘシ若シ三ヶ年
 間ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉ケサルルハ其未墾ノ地所ヲ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡
 替ヲナスコトアルヘシ

第十條 第八條ノ貸地満季后二十ヶ年ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價ハ徵收期限内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第拾一條 耕宅地ノ外山林原野ヲ一村若クハ數村ノ共有地ニ拂下クルコアルヘシ

第拾二條 山林拂下ノ順序ハ成規ニ據ルヘシ但其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ノ年ヨリ三十ヶ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコアルヘシ

第拾三條 既ニ拂下タル山林原野ハ永久保存法ヲ立テシメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許ルザス

第拾四條 貸出スヘキ金額ハ一戸金三百六拾三圓ニ超ヘサルノ額ヲ程度トス而シテ其農業者ニハ本條及ヒ第十九條第二十條第二十一條ニ依リ漁業者ニハ第十六條第十八條及第十九條第二十條第二十一條ニ依リ貸出チナスヘキモノトス

- 一新墾アラテ 壹個 但三頭牽
- 一麻製牽馬具 四頭分 一耕馬 五頭
- 一ハロー 壹箇

- 右者移住初年度ニ限リ十戸ヲ壹組トナシ貸與ノ分
- 一鐵 三挺 小大 一鑄鋸山刀 各一挺
- 一鎌 二挺 柴刈 一

右ハ移住初年度ニ限リ毎戸貸與ノ分以上諸器具ノ修補等ハ自辨タルヘシ

第拾五條 移住シテ特別ナル官ノ保護ヲ受クル期限内ハ左ノ種類ヲ播種セシメ管應ニ於テ其收穫物販賣ノ途ヲ與フヘシ

- 大小麥 麻蕎 蕎麥 大小豆 粟

第拾六條 漁業ヲ日途トシ移住スルモノハ千島國地方ニ於テ新開ノ漁場ヲ撰ヒ一戸ニ付一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ貸渡シ年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿五ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價ハ千坪金七拾五錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開地トナリタル地所ニ限リ満季后滿三ヶ年ヲ素地代價徵收ノ期限トス該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第拾七條 第十六條貸地満季后十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租徵收スヘシ但素地代價徵收期年內ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ可徵收第十八條 漁業日途ニテ移住ノモノニハ五十戸ヲ一組トナシ金額千八百六十六圓以内ヲ以テ移住初年ニ限リ左ノ漁船並ニ漁具ヲ貸渡スヘシ

- 一圖合船 二艘 一チヨロ船 一艘
- 一持附船 二般 一建網 壹統
- 一引網 壹統 一錨 十一挺

一漁舍 壹棟

以上諸器具ノ修補等ハ自辨スヘシ

第拾九條 家屋ハ農漁ノ別ナク一戸十五坪ノ草小屋壹棟新築費トシテ金九拾圓以内ノ額ヲ二期着手ノ際ニ貸與スヘシ但官ニ於テ新築ノ上貸與セラレシテ請フ者アルトキハ其請願ヲ許スヘシ但自費ヲ加ヘ建家ノ坪數ヲ増加セントスル者ハ本人ノ隨意ニ任スヘシ

第二十條 食料ハ人員ニ應シ農業者ハ着籍ヨリ二ヶ年漁業者ハ一年六ヶ月間左ノ割合ヲ以テ玄米及鹽噌料貸與スヘシ

玄米 七年以上六十年未滿一日一人玄米五合七年以上未滿六十年以上一日一人米三合ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

鹽噌料 七年以上六十年未滿一ヶ月一人金四拾五錢七年以上未滿六十年以上一ヶ月一人金三拾錢ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

第廿一條 差港ヨリ移住地迄陸路ノ距離六里以上アルモノニ限り荷物運送費トシテ若干ノ金額ヲ貸與スルコトアルヘシ

第廿二條 第十四條ヨリ第廿一條ニ於テ貸與シタル物品ノ金額ハ無利子七ヶ年據置キ第八ヶ年目ヨリ向フ二十ヶ年賦ヲ以テ毎年十一月三十日限り返納スヘシ但貸與シタル物品代價ハ其年度末決算ノ上各自ニ報告スヘシ

第廿三條 移住人保護獎勵監督ノ爲就業課程ヲ定メ其係ヲシテ毎ニ勤惰ヲ糺スヘシ若シ懶惰ニシテ其課程ヲ勉メサルモノアルハ臨機貸與ヲ停止スヘシ然ル上尙ホ課程ヲ怠タルモノハ既ニ貸下ケタル金額ハ年賦返納ノ規則ニ係ハラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ即時完納シ得サルハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公賣シテ其代價ヲ追徴シ尙ホ不足ヲ生スルハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

第廿四條 己ヲ得サル事故アリ屆濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ飯村スルハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽噌料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ日數六日以内ニ及フキハ飯着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ扣除ニ飯スヘシ

第廿五條 移住人生出死亡ハ其都度必ス届出ヘシ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ成規貸與ヲナシ死亡者ニハ死亡ノ日ヨリ停止ス

第廿六條 貸與金額皆納ノ日マテハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣買讓與シ又ハ書入質入ト爲ストテ許サス

書式 (用紙美濃紙) 移住願

私共儀

明治十六年御縣甲第卅四号御布達士族移住取扱規則ニヨリ農業ノ目途ヲ以テ某年某月ヨリ御管下某國(郡村)へ移住仕度ニ付御詮議ノ上御許可被成下度然ル上ハ御成規ハ勿

○北海道移住士族取扱規則

論時々ノ御命令ヲ遵守シ誓テ成業可仕候戸籍書寫相添連署ヲ以テ此段奉願上候也

某府縣附
村番地

士族 姓名 印

年 齡

年 号 月 日

以下同前連名

右總代人二名 (移住願人ノ中ニテ)

根室縣令某殿

現行

●明治十七年五月十七日示第百拾六号達

明治十六年(八月)當府示第百拾四号告示北海道移住士族取扱規則中根室縣甲第三拾四号布達左ノ通改正追加相成候條此旨相心得ヘシ

第一條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ元ノ第二條ヲ第三條トシ以下順次條項ヲ繰下ク

第二條士族ノミニテハ農事ニ不馴ナルヲ以テ自然熟練ノ農家ヲ要用ト認ムルハ移

住志願ノ士族百戸ニ付農家^{即平}五戸ノ割ニ至ル迄ハ聯合シテ渡航ノ事ヲ請願スル

一ヲ得此場合ニハ十族全一ノ保護貸與ヲナスヘシ

第四條一行目地所ヲ撰ノ下(ニテ左ノ十二ヶ所トシ一ヶ所ヘ)ノ十四字ヲ削リ(ヒ)ノ

一字ヲ挿入ス○前全條五行目(根室國)以下ノ十五行ヲ削除ス

北海道産物並開拓使貸附証券

非現行

●明治二年十月達

今般箱館會所ノ義通商司所屬ニ相成北海道諸産物改所ト相改メラレ北海道筋諸産物總テ全役所ニ於テ従前ノ通り取扱候ニ付右産物取扱問屋即買共ハ勿論市中未々迄其段相心得萬端改所ノ差圖ヲ受テ取扱ヒ可申者也

右ノ趣キ問屋仲買共ハ勿論四組町々ヘ洩サス様可相布令者也

非現行

●明治二年十二月達

北海道並伊豆國附島ノ産物入津ノ節ハ贈狀ヲ以テ商社並ニ其渡世ノ者ヨリ速ニ通商司ヘ相届申ヘク自然自儘ニ水上致シ扱荷其他不正ノ取計ヲヒ之レアルニ於テハ取糺ノ上時宜ニヨリ荷物取上ケ可申候間心得違ヒ之レナキ様相守ルヘキ事

非現行

●明治三年六月十六日達

北海道産物は迄通商司ニ於テ相改候處今般開拓使管轄ニ相成候間其筋渡世ノ者共北海道産物入津致シ候ハ、右産物會所ヘ速ニ相届水揚改等都テ差圖ヲ受ケ申ヘク自然自儘ニ水揚ケ等致シ扱荷其他不正ノ取計ヲヒ致候者之アル節ハ取糺其産物取上候筈ニ付キ

○北海道産物並開拓使貸附証券

心得違ヒ之レナク堅ク相守ルヘキ者也

右ノ趣キ四組町々洩ナク相達ス尤年寄共承知ノ段刻付印形致スヘキ者ナリ

非現行

●明治五年一月廿四日申第十九号達

北海道開拓使ニ於テ爲替座三井組へ申附正銀引換証券發行ニ付別紙ノ通被仰出候付テハ從前金札同様無疑念通用可致事

右ノ趣管内無洩相達スル者也

(別紙略ス)

非現行

●明治五年二月申第五十一号達

別紙ノ通開拓使定額金並ニ証券等ノ内ヲ以貸付會所取建候條此旨一同相心得拜借願出度輩ハ當府へ可申出事

右ノ趣管内無洩相達スル者也

(別紙)

今般政府伺ノ上開拓定額金并証券等ノ内ヲ以テ東京大阪函館三ヶ所へ貸付會所取立儲成引當ヲ以テ願出候者へハ貸渡候タメ右三ヶ所へ三井組并取扱用達ノ者出張規則相立不都合無之様爲取計候間各管下諸民拜借願出候者ハ其地方官ノ添翰ヲ以直ニ會所へ持參可致尤返納期限其外諸規則ハ本人へ用達共ヨリ可申談候條此旨及布告候也

壬申三月

開拓使

非現行

●明治五年二月十九日申第六十号達

開拓定額金并証券拜借願出度輩ハ當府へ可申出段相達置候處別紙ノ通貸附方改正相成候間拜借致度者ハ直ニ貸附會所へ可願出候事
右ノ趣管内無洩相達スル者也

(別紙)

今般政府伺ノ上開拓定額金并証券等ノ内ヲ以テ東京大阪函館三ヶ所へ貸付會所取建儲ナル引當ヲ以テ願出候者へハ貸渡候タメ右三ヶ所へ用達ノ者出張規則相立不都合無之様爲取計候間諸民拜借致度者ハ右會所へ直ニ可願出尤返納期限其外諸規則ハ本人へ用達共ヨリ可申談候條此旨及布告候也

壬申二月

開拓使

獸醫學講習所假規則並獸醫開業規則

●明治九年六月一日第百六十三号達

今般左ノ名前之者共牛疫検査掛申付置候條右病氣相患候節ハ最寄名前之醫員へ速カニ申出診察相受可申事 右ノ趣管内無洩相達候事

(名前略ス)

●明治十六年二月五日乙第十九号郡區役所へ達

現行

○獸醫學講習所並獸醫開業規則